Canon

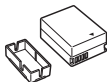
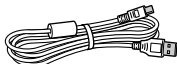
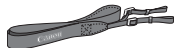
PowerShot G10

カメラユーザーガイド

さっそくカメラを使ってみよう! p.9

ご使用の前に「安全上のご注意」を必ずお読みください(p.233 ～ 242)。

はじめにお確かめください（付属品）

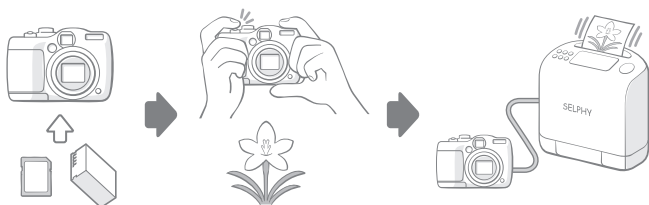
パッケージには以下のものが入っています。万一、不足のものがありましたら、お手数ですがお買い求めの販売店までご連絡ください。

メモリーカードは同梱されていません。

さっそく使おう！ 使いこなそう！

本書は、以下の 2 部構成となっています。

まずは...

さっそく カメラを使ってみよう！ p.9

カメラを使うために必要な準備から、撮影、再生の基本操作、簡単な印刷のしかたまでを説明しています。まずはカメラに慣れ、基本操作をマスターしましょう。

使いこなすために

もっと カメラを使ってみよう！ p.39

カメラに慣れたら、さまざまな機能を使って思いどおりの撮影を楽しみましょう。ここでは、各機能の詳しい操作方法のほか、テレビにつないで画像を見る方法なども説明しています。

目次

☆のページでは、このカメラの機能や操作をまとめて記載しています。

モードダイヤルを使った撮影 83

いろいろな撮影 103

再生 / 消去する 148

印刷指定 / 送信指定する 194

カメラの設定をする 203

このガイドについて

本文中のマークについて

撮影モードによってはお使いになれない機能があります。
この記載がないときは、すべてのモードでお使いになれます。

：カメラを正しく動作させるための注意や制限を記載しています。

：カメラを使用するにあたって知っておくと便利なこと、参考になることを記載しています。

本書では、お買い上げ時の設定状態で説明しています。
このガイドで説明されているイラストや画面表示は、実際と異なる場合があります。

このカメラでは、SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、マルチメディアカード、MMCplus カードと HC MMCplus カードをお使いになれます。このガイドでは、これらをカードと表記します。

必ずお読みください

試し撮り

必ず事前に試し撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。
万一、このカメラやメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みがされなかった場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがこのカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

保証について

このカメラの保証書は国内に限り有効です。万一、海外旅行先で、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内の「お客様相談センター」にご相談ください。

ご注意

本体温度について

このカメラは、電源を入れたあと長時間お使いになっていると、本体温度が高くなることがありますが、故障ではありません。

液晶モニターについて

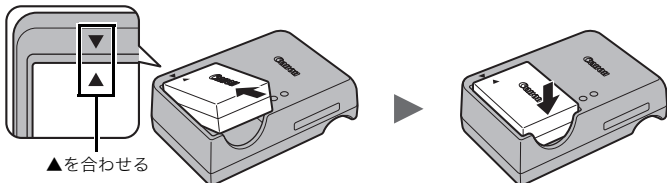
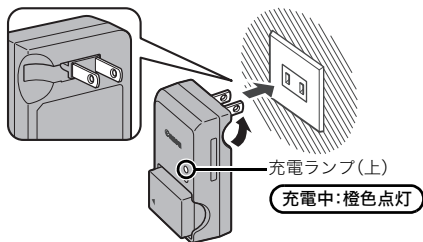
液晶モニターは､非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。

さっそく
カメラを使ってみよう!

- 準備する
- 静止画を撮る
- 静止画を見る
- 消去する
- 印刷する
- 動画を撮る
- 動画を見る
- パソコンに取り込む
- システムマップ

準備する

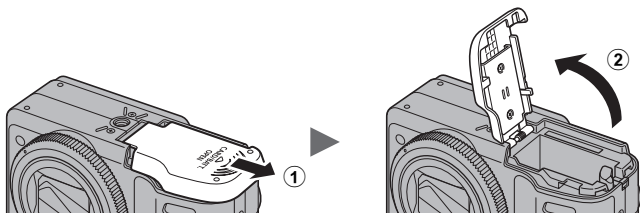
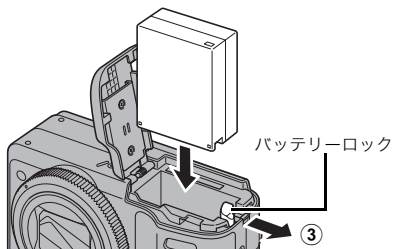
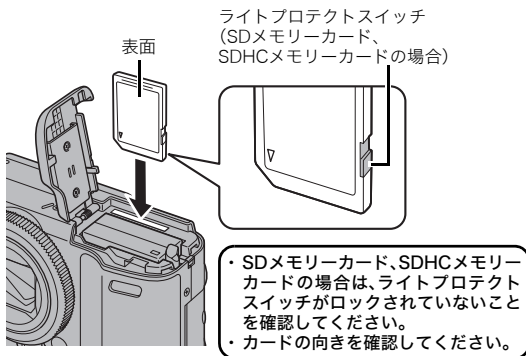
バッテリーを充電する

1. バッテリーをバッテリーチャージャーに、「カチッ」と音がするまで押してセットする

2. コンセントに差し込む

3. 充電が完了したら、バッテリーを取り外す

充電時間は、約 2 時間 20 分です。

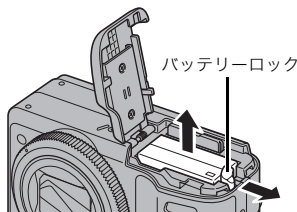
バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24 時間以上連続して充電しないでください。

バッテリーとカードを入れる

1. カバーをスライドして(①)開く(②)

2. バッテリーロックを矢印の方向に押しながら(③)、バッテリーがロックされるまで入れる

3. カードを「カチッ」と音がするまで差し込む

4. カバーを閉じ(④)、「カチッ」と音がするまでスライドする(⑤)

カードは、必ず正しい向きでカメラに入れてください。誤って逆に入れた場合、カメラがカードを認識しなかったり、カメラの故障の原因となることがあります。

バッテリーを取り出すには

バッテリーロックを矢印の方向に押しながら取り出します。

カードを取り出すには

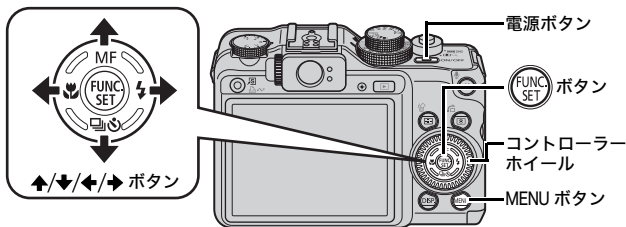
「カチッ」と音がするまで、指でカードを奥に押し込んで、放します。

ネックストラップの取り付けかた

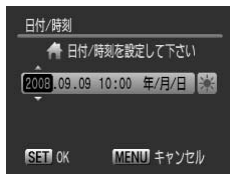
ストラップを引っ張っても止め具の部分でゆるまないことを確認してください。もう一方のストラップ取り付け部にも、同じようにストラップを取り付けます。

カメラをお使いになるときは、落下防止のため、ネックストラップの装着をおすすめします。

日付と時刻を設定する

はじめて電源を入れたときは、日付／時刻の設定画面が表示されます。

1. 電源ボタンを押す

2. 年、月、日、時、分、表示順を選ぶ

1. ←/→ ボタンで項目を選ぶ
2. ↑/↓ ボタンで内容を設定する
   ・コントローラーホイールを回しても内容を設定できます。

3. (FUNC./SET) ボタンを押す

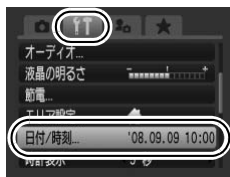
すでに設定されている日付 / 時刻を変更したいとき

下記の手順で日付 / 時刻の設定画面を表示させてから、上記の手順 2、3 を行ってください。

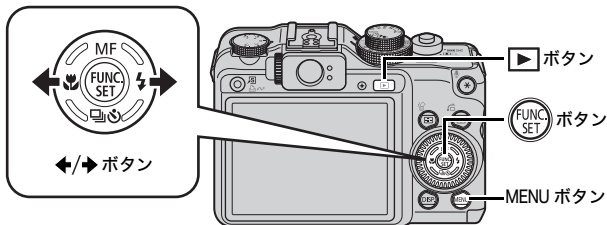
1. MENU ボタンを押す

2. ←/→ ボタンで[(設定)]メニューを選ぶ

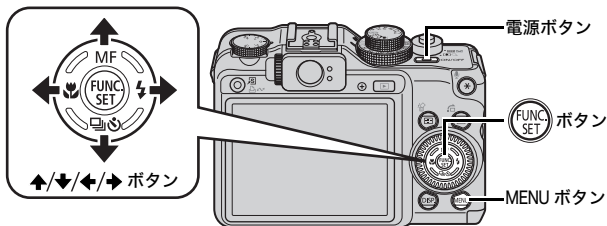
3. ↑/↓ ボタンで[日付 / 時刻]を選ぶ

4. (FUNC./SET) ボタンを押す

- カメラには、日付 / 時刻などの設定を保持するためのリチウム充電池が内蔵されています。充電されたバッテリーをカメラに入れておくか、AC アダプターキット ACK-DC50（別売）を使用すると、4 時間程度で充電されます。なお、カメラの電源が入っていなくても充電できます。
- バッテリーを取り出してから約 3 週間経過すると、設定した日付 / 時刻が解除される場合があります。再度、設定し直してください。

表示言語を切り換える

液晶モニターに表示する言語を英語にすることもできます。
（お買い上げ時は日本語に設定されています。）

1. ▶（再生）ボタンを押す
2. FUNC. SET ボタンを押したまま、すぐに MENU ボタンを押す
3. ◆/◆ ボタンで表示したい言語を選ぶ
4. FUNC. SET ボタンを押す

カードを初期化する

新しいカードをお使いになるときや、カード内の画像だけでなく他のデータもすべて消去したいときは、カードを初期化します。

初期化すると、カードに記録されている画像だけでなく、すべてのデータが消去されますので、ご注意ください（プロテクト（p.185）されている画像やサウンドレコーダーのデータ（p.183）も削除されます）。

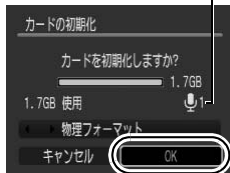
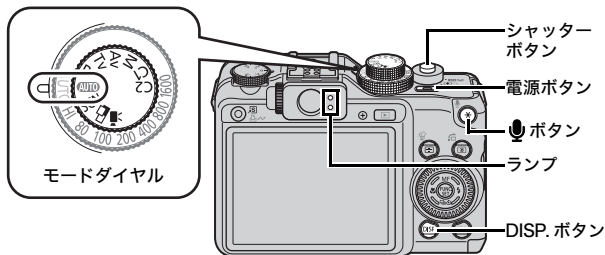
1. 電源ボタンを押す

2. [カードの初期化]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. ◀/▶ ボタンで[ ]メニューを選ぶ
3. ▲/▼ で[カードの初期化]を選ぶ
4. FUNC. SET ボタンを押す

3. 初期化する

1. ◀/▶ ボタンで[OK]メニューを選ぶ
2. FUNC. SET ボタンを押す

サウンドレコーダーのデータがある場合に表示されます。

静止画を撮る（AUTOオートモード）

1. 電源ボタンを押す

・起動音が鳴り、液晶モニターに起動画面が表示されます。
・もう一度電源ボタンを押すと、電源が切れます。

2. 撮影モードを選ぶ

1. モードダイヤルを AUTO（オート）に合わせる

3. 被写体にカメラを向ける

手ブレを起こさないために
脇をしめ、カメラをしっかり構えてください。三脚を使用することも効果的です。

4. シャッターボタンを浅く押して（半押し）、ピントを合わせる

ピントが合うと電子音が「ピピッ」と 2 回鳴り、ランプが緑色（ストロボ発光時は橙色）に点灯します。

5. そのままシャッターボタンを深く押して(全押し)、撮影する

・シャッター音が鳴り、撮影されます。
・シャッター音が鳴っている間にカメラを動かしたり、被写体が動くと、ブレの原因になります。
・撮影直後に約 2 秒間、液晶モニターに撮影した画像が表示されます（レックレビュー）。画像が表示されている間も撮影できます。
・撮影後、シャッターボタンを押し続けると、画像を表示し続けます。
・ランプが緑色に点滅し、カードに記録されます。

ピントの合った画像を撮るために

シャッターボタンを半押し*すると、ピントを自動的に合わせます(オートフォーカス)。

*シャッターボタンは 2 段階になっています。シャッターボタンを 1 段目まで押すことを「半押し」といいます。

良い例

半押ししてピントを合わせる
ピピッ
撮影準備完了：緑色点灯(ストロボ発光時は橙色)
全押しする
記録中：緑色点滅

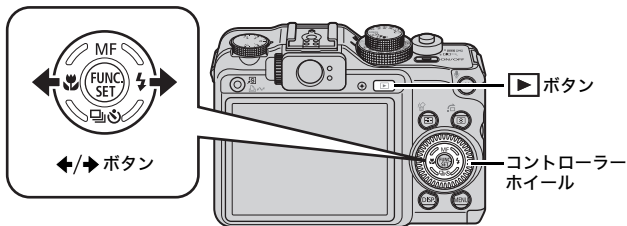
AF フレーム
ピントが合うとAF フレームが緑色で表示されます

悪い例

一気に押し込む

消音の設定について

ボタンを押しながら電源を入れると、音が鳴らない設定になります。設定の変更は、設定メニューの［消音］で行います(p.57)。

静止画を見る

1. ▶（再生）ボタンを押す

2. ◆/◆ボタンで見たい画像を表示する

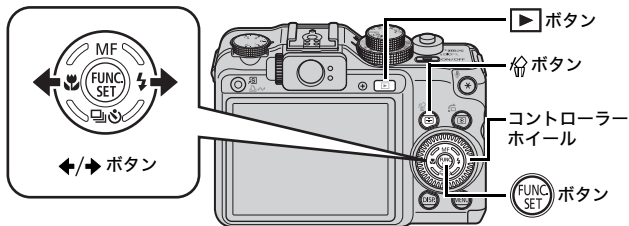
・◆ボタンで前の画像、◆ボタンで次の画像を表示します。

・ボタンを押し続けると早く進みます。ただし、表示される画像は粗くなります。

・コントローラーホイールでも、画像を選べます。反時計回りに回すと前の画像、時計回りに回すと次の画像を表示します。

- 再生メニューの［再生開始位置］で、再生時に表示する画像（［前回の画像］*または［最新の画像］）を選択できます（*初期設定）。
- ［前回の画像］を選ぶと、最後に再生した画像を表示します（再生レジューム）。
- 以下の操作を行うと、［再生開始位置］の設定にかかわらず、最新の画像が表示されます。
  - 撮影する
  - カードを交換する
  - パソコンでカード内の画像を編集する

さっそくカメラを使ってみよう！

消去する

1. ▶（再生）ボタンを押す

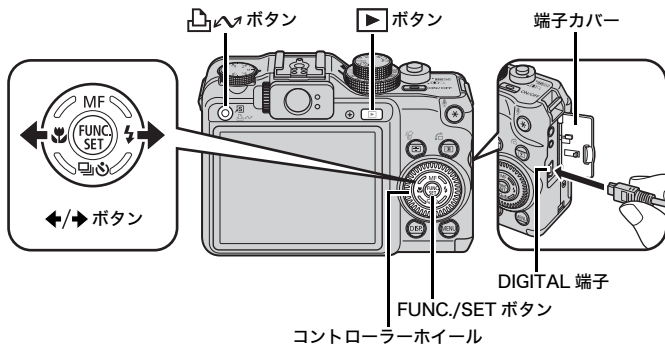
2. ◀/▶ ボタンで消去したい画像を選び、ボタンを押す

コントローラーホイールを回しても画像を選べます。

3. ［消去］が選択されていることを確認し、FUNC. SET ボタンを押す

消去を中止するときは、［キャンセル］を選びます。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

印刷する

1. カメラとカメラダイレクト対応プリンターを接続する

・カメラの端子カバーの左端に爪をかけて開き、インターフェースケーブルを奥まで差し込みます。

・プリンターの接続方法は、プリンターに付属の使用説明書でご確認ください。

・「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応していれば、キヤノン製以外の PictBridge 対応プリンターでも印刷できます。

詳しくは、ダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。

2. プリンターの電源を入れる

3. カメラの▶（再生）ボタンを押し、電源を入れる

・ボタンが青色に点灯します。

4. ←/→ ボタンで印刷したい画像を選び、ボタンを押す

- ボタンが青く点滅し、印刷が始まります。
- コントローラーホイールを回しても画像を選べます。
- 印刷後は、カメラとプリンターの電源を切り、インターフェースケーブルを取り外します。

このカメラでは、撮影時に画像に日付を入れること（日付写し込み）はできませんが、次の方法で日付を入れて印刷することができます。

- カメラの印刷指定（DPOF）機能で設定する（p.194）
  （印刷）メニューの[印刷の設定]で[日付]を[入]にします。
- カメラとプリンターを接続して印刷する
  ダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。
- カードをプリンターに差して印刷する
  プリンターの使用説明書をご覧ください。
- 付属のソフトウェアで設定する
  ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

印刷予約をして簡単に印刷する

撮影直後や画像の再生中に ボタンを押すだけで、印刷予約（DPOF）ができます。印刷予約をして、カメラをプリンターに接続すると、簡単に印刷できます。

印刷予約をする

1. ボタンを押す（動画は除く）

2. 印刷予約をする

1. ▲/▼ ボタンで印刷枚数を決める
2. ◀/▶ ボタンで[予約する]を選ぶ
3. FUNC./SET ボタンを押す

・印刷予約を解除するときは、再度 ボタンを押し、◀/▶ボタンで［解除する］を選び、FUNC./SET ボタンを押します。

印刷予約した画像を印刷する

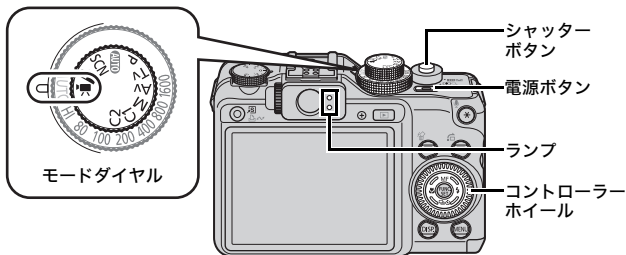
キヤノン製 SELPHY ES シリーズ /SELPHY CP シリーズのプリンターを例にして説明します。

1. カメラとプリンターを接続する

2. 印刷する

印刷される枚数

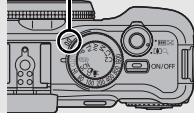
1. ▲/▼ ボタンで[すぐに印刷]を選ぶ
   ・◀/▶ ボタンで印刷予約した画像を確認できます。
2. FUNC./SET ボタンを押す
   ・印刷が始まります。
   ・印刷を中断して再開した場合は、続きの画像から印刷されます。

動画を撮る(スタンダードモード)

1. 電源ボタンを押す

2. 撮影モードを選ぶ

1. モードダイヤルを(動画)に合わせる
2. コントローラーホイールを回して(スタンダード)を選ぶ

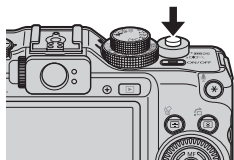
3. 被写体にカメラを向ける

- 撮影中はマイクに触れないでください。
- ボタンなどを押すとその音も記録されてしまいます。

上から見たところ

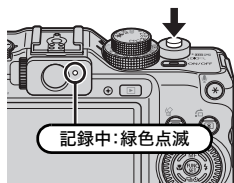
4. シャッターボタンを浅く押して(半押し)、ピントを合わせる

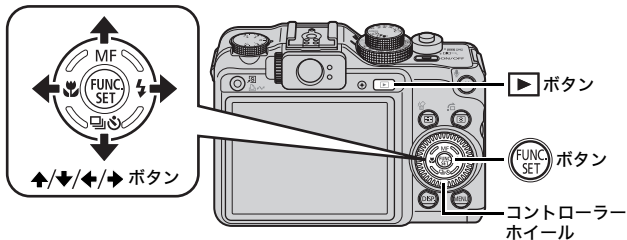
- ピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ランプが緑色に点灯します。
- 露出、フォーカス、ホワイトバランスが自動設定されます。

5. そのままシャッターボタンを深く押して(全押し)、撮影する

- 撮影が開始されます。
- 撮影中は、液晶モニターに撮影時間と[●録画]が表示されます。

撮影時間

6. もう一度シャッターボタンを全押しして撮影を終了する

- ランプが緑色に点滅し、カードに記録されます。
- 1回の最大記録容量は4GB*です
- 最長記録時間を経過したときや、カメラ内部のメモリーやカード容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終了します。

* 記録容量が4GBに達していなくても、撮影時間が1時間に達した時点で記録を停止します。カードの容量やデータ書き込み速度により、4GBまたは1時間に満たなくても記録を停止する場合があります。

動画を見る

1. ▶（再生）ボタンを押す

2. ◀/▶ ボタンで動画を表示し、FUNC. SET ボタンを押す

- 動画には SET 🎥 が表示されます。
- コントローラーホイールを回しても画像を表示できます。

3. ◀/▶ ボタンで ▶（再生）を選び、FUNC. SET ボタンを押す

- 動画が再生されます。
- 再生中に FUNC./SET ボタンを押すと、再生の一時停止 / 再開ができます。
- ▲/▼ ボタンで音量の調節ができます。

パソコンに取り込む

付属のソフトウェアを使用することをおすすめします。

用意するもの

- **カメラとパソコン**
- **カメラに付属の「Canon Digital Camera Solution Disk」**
- **カメラに付属のインターフェースケーブル**

パソコンに必要なシステム構成

ソフトウェアは、以下の条件を満たすパソコンにインストールしてください。

Windows

OS		Windows Vista（Service Pack 1を含む） Windows XP Service Pack 2
機種		上記OSがプリインストールされていて、USBポートが標準装備されていること
CPU	静止画	Pentium 1.3GHz以上
	動画	Core2 Duo 1.66GHz以上
RAM	静止画	1GB以上
	動画	1GB以上
インターフェース		USB
ハードディスク空き容量		●Canon Utilities ・ZoomBrowser EX ：200MB以上 ・PhotoStitch ：40MB以上 ・Digital Photo Professional ：200MB以上
ディスプレイ		1,024×768ドット High Color（16bit）以上

Macintosh

OS		Mac OS X(v10.4~v10.5)
機種		上記OSがプリインストールされていて、USBポートが標準装備されていること
CPU	静止画	PowerPC G4/G5またはIntel プロセッサー
	動画	Core Duo 1.66GHz以上
RAM	静止画	1GB以上
	動画	1GB以上
インターフェース		USB
ハードディスク空き容量		●Canon Utilities ・ImageBrowser ： 300MB以上 ・PhotoStitch ： 50MB以上 ・Digital Photo Professional ： 200MB以上
ディスプレイ		1,024×768ドット 32,000色以上

画像を取り込む準備をする

1. ソフトウェアをインストールする

Windows

1. Canon Digital Camera Solution Disk を CD-ROM ドライブにセットする
2. [おまかせインストール]をクリックする

   表示されるメッセージにしたがって、インストールを進めます。

3. インストールの終了後、[再起動]または[完了]をクリックする

   インストールが終了すると、[再起動]または［完了］が表示されます。表示されたボタンをクリックします。

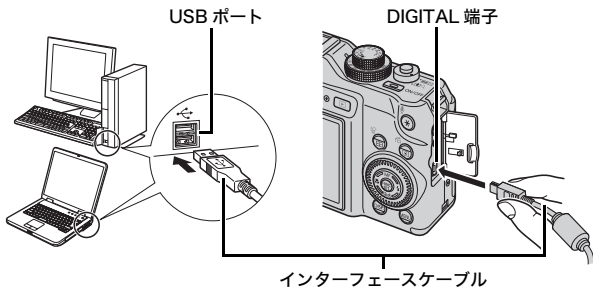
4. 通常のデスクトップの画面が表示されたら、CD-ROM を取り出す

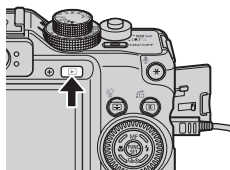
Macintosh

CD-ROM 内の をダブルクリックすると、右の画面が表示されます。[インストール] を選択し、表示されるメッセージにしたがって、インストールを進めます。

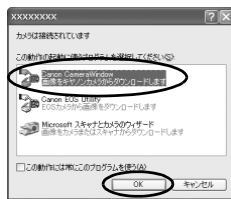
2. カメラとパソコンを接続する

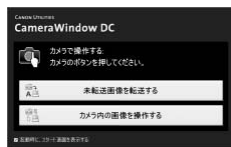
1. 付属のインターフェースケーブルで、パソコンの USB ポートとカメラの DIGITAL 端子を接続する

カメラの端子カバーの左端に爪をかけて開き、インターフェースケーブルを奥まで差し込みます。

3. カメラとパソコンを通信できる状態にする

1. ▶ (再生)ボタンを押し、電源を入れる

4. カメラウィンドウ(CameraWindow)を表示する

Windows

[Canon CameraWindow] を選び、[OK] をクリックする

上記のウィンドウが表示されない場合は、[スタート] メニューから [すべてのプログラム] または [プログラム]▶[Canon Utilities]▶[CameraWindow]▶[CameraWindow]▶[CameraWindow] を選択します。

カメラウィンドウが表示されます。

Macintosh

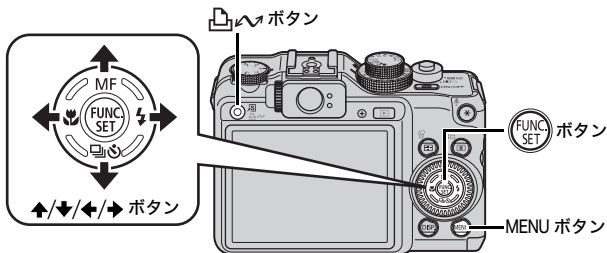
カメラとパソコンが通信できる状態になると、カメラウィンドウが表示されます。表示されない場合は、Dock（デスクトップ下部に表示されるバー）の [CameraWindow] アイコンをクリックします。

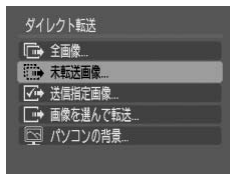
これで、画像を取り込む準備ができました。
「カメラの操作で画像を取り込む（ダイレクト転送）」（p.31）にお進みください。

パソコンの操作での取り込み方法については、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

カメラの操作で画像を取り込む（ダイレクト転送）

カメラの操作で画像を取り込めます。

初めてダイレクト転送で画像を取り込むときは、最初にソフトウェアをインストールしておいてください（p.28）。

1. カメラの液晶モニターにダイレクト転送画面が表示されていることを確認する

- ボタンが青色に点灯します。
- ダイレクト転送画面が表示されない場合は、MENU ボタンを押してください。

ダイレクト転送画面

2. ボタンを押す

- まだパソコンに取り込まれていない画像がすべて取り込まれ、保存されます。

以下のように、ダイレクト転送画面で画像の取り込み方法を指定することもできます。

	全画像	すべての画像をパソコンに取り込み、保存します。
	未転送画像	まだ取り込んでいない画像だけをパソコンに取り込み、保存します。
	送信指定画像	送信指定した画像だけをパソコンに取り込み、保存します。
	画像を選んで転送	画像を見ながら1画像ずつパソコンに取り込み、保存します。
	パソコンの背景	画像を見ながら、パソコンのデスクトップの背景にしたい画像を取り込みます。取り込んだ画像は、パソコンのデスクトップに背景として表示されます。

[全画像]、[未転送画像]、[送信指定画像]のとき

1. ▲/▼ ボタンで 、 、 のいずれかを選び、 ボタンを押す

- 画像が取り込まれます。取り込み中は、 ボタンが青色に点滅します。
- 取り込みが終了するとダイレクト転送画面に戻ります。
- 取り込みを中止するときは、FUNC./SET ボタンを押します。

[画像を選んで転送]、[パソコンの背景]のとき

1. ▲/▼ボタンで または を選び、 ボタン(または FUNC. SET ボタン)を押す

2. ←/→ ボタンで取り込みたい画像を選び、ボタンを押す

・画像が取り込まれます。取り込み中は、ボタンが青色に点滅します。

3. 取り込み後、MENU ボタンを押す

・ダイレクト転送画面に戻ります。

［パソコンの背景］で指定できるのは、JPEG 画像のみです。

ボタンで選択した項目は、カメラの電源を切っても記憶されます。次回、ダイレクト転送画面を表示したときは、前回設定した項目が選択されます。［画像を選んで転送］と［パソコンの背景］を選択していたときは、ただちに画像を選択する画面が表示されます。

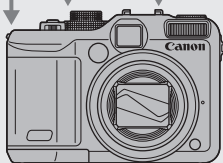
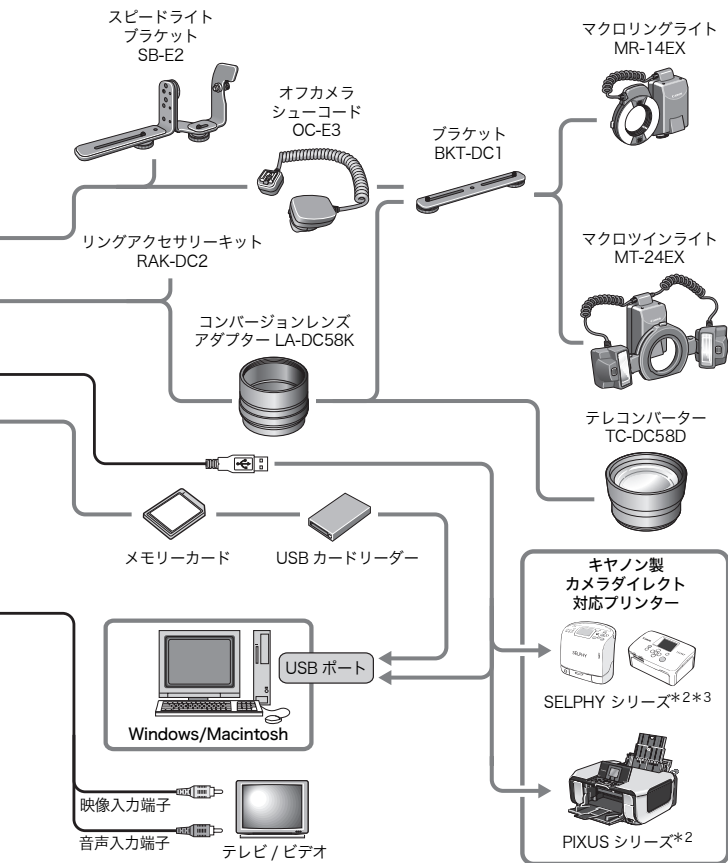
カメラウィンドウの右上の をクリックして、表示される画面で使用するソフトウェアを選択できます。

Windows

Macintosh

カメラウィンドウの右下に表示される［×］をクリックすると、選択したソフトウェアが起動されます。
初期設定では、パソコンに取り込まれた画像は、撮影日ごとのフォルダに保存されます。

システムマップ

スピードライト
220EX
スピードライト
430EX II＊4
スピードライト
580EX II＊4
スピードライト
トランスミッター
ST-E2
ハイパワー
フラッシュ
HF-DC1
付属品
ネックストラップ
NS-DC8
インターフェースケーブル
IFC-400PCU＊1
バッテリーパック
NB-7L＊1
（端子カバー付き）
AV ケーブル
AVC-DC300＊1
バッテリーチャージャー
CB-2LZ＊1
Canon Digital Camera
Solution Disk
AC アダプターキット ACK-DC50
コンパクトパワーアダプター
CA-PS700
DC カプラー
DR-50
電源コード
ソフトケース
SC-DC60
シリーズ
リモートスイッチ
RS60-E3
ウォータープルーフ
ケース WP-DC28
ウォータープルーフケース
ウェイト WW-DC1

*1 別売りも用意されています。
*2 PIXUS シリーズ /SELPHY DS シリーズのプリンターに接続するケーブルや、プリンターに関することは、プリンターに付属の使用説明書をご覧ください。
*3 CP-10/CP-100/CP-200/CP-300 もお使いになれます。
*4 スピードライト 430EX、580EX もお使いになれます。

アクセサリー(別売)

必要に応じてお買い求めのうえ、ご利用ください。
(アクセサリーは、諸事情により販売を終了することがあります。)

レンズ・レンズアダプター

- **コンバージョンレンズアダプター LA-DC58K**
  テレコンバーター、マクロリングライトやマクロツインライトをカメラに取り付けるためのアダプターです。
- **テレコンバーター TC-DC58D**
  カメラに取り付けると、カメラ本体の焦点距離の 1.4 倍で撮影できます。

ストロボ

- **EOS 用スピードライト EX シリーズ**
  キヤノン EOS 用のスピードライトで、被写体に最適なストロボ光を与え、自然で鮮明な画像を撮影できます。
  - スピードライト 220EX/430EX II/580EX II＊
    ＊スピードライト 430EX、580EX もお使いになれます。
- **スピードライトトランスミッター ST-E2**
  スレーブ設定されたスピードライト(220EX を除く)をワイヤレスで制御できます。
- **ハイパワーフラッシュ HF-DC1**
  被写体が遠すぎて内蔵ストロボが届かないときに、カメラに取り付けて使用する補助ストロボです。
- **スピードライトブラケット SB-E2**
  縦位置撮影時、被写体の横に不自然な影が出ることを防ぎ、ポートレート撮影などに効果を発揮します。オフカメラシューコード OC-E3 を付属しています。
- **オフカメラシューコード OC-E3**
  専用スピードライトをカメラから約60cmまで離して使用できます。

- **マクロリングライト MR-14EX**
- **マクロツインライト MT-24EX**
  マクロ撮影専用のストロボで、多彩なマクロストロボ撮影ができます。カメラに取り付けるには、コンバージョンレンズアダプター LA-DC58K（別売）、オフカメラシューコード OC-E3（別売）とブラケット BKT-DC1（別売）が必要です。

電源

- **バッテリーパック NB-7L**
  充電式のリチウムイオン電池です。
- **バッテリーチャージャー CB-2LZ**
  バッテリーパック NB-7L 用の充電器です。
- **AC アダプターキット ACK-DC50**
  家庭用コンセントから電源を供給するためのキットです。カメラを長時間連続して使うときや、パソコンと接続するときには、この AC アダプターキットをお使いになることをおすすめします（本体内充電はできません）。

その他

- **インターフェースケーブル IFC-400PCU**
  カメラとパソコン、またはカメラと SELPHY シリーズや PIXUS シリーズ*のプリンターを接続するケーブルです。
  ＊プリンターに付属の使用説明書でご確認ください。
- **AV ケーブル AVC-DC300**
  カメラとテレビやビデオを接続するケーブルです。
- **ウォータープルーフケース WP-DC28**
  カメラに、このウォータープルーフケースを装着すると、雨天時や海辺、スキー場での撮影のほか、水深 40m 以内での水中撮影を楽しむことができます。
- **ソフトケース SC-DC60 シリーズ**
  カメラをキズやホコリから守ります。なお、革素材のため色落ちする場合がありますので、お取り扱いにご注意ください。

- **リングアクセサリーキット RAK-DC2**
  色の異なる 3 色のリングキットです。
  インターネット限定販売品です。購入するには、CANON iMAGE GATEWAY に会員登録（無料）する必要があります。
- **リモートスイッチ RS60-E3**
  カメラにこのリモートスイッチを接続すると、カメラに触れずにシャッターボタンを押すことができるため、カメラブレを防ぐことができます。なお、カメラを三脚などで固定して撮影することをおすすめします。
- **ブラケット BKT-DC1**
  マクロリングライトとマクロツインライトをカメラに取り付けるときに使用するブラケットです。

カメラダイレクト対応プリンター

以下のプリンターが用意されています。カメラとプリンターをケーブルで直接つないで、カメラのボタン操作だけで撮影した画像を印刷できます。

- **SELPHY シリーズ**
- **PIXUS シリーズ**

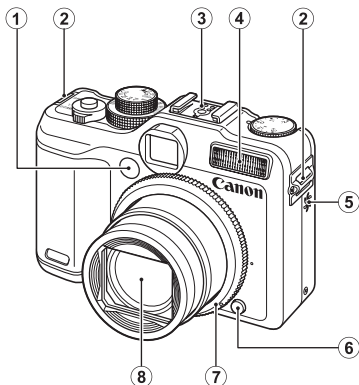
商品の詳細やお使いになれるアクセサリーについては、カメラユーザーガイド裏表紙に記載されているホームページや商品カタログでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。

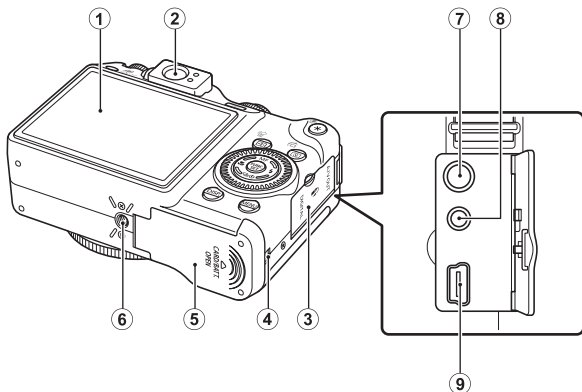
アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします。

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

もっと
カメラを使ってみよう!

各部の名称

■ 前面

① ランプ（前面）（AF 補助光：p.55、赤目緩和ランプ：p.106、セルフタイマーランプ：p.70）
② ストラップ取り付け部（p.13）
③ アクセサリーシュー（p.249）
④ ストロボ（p.68）
⑤ スピーカー
⑥ リング取り外しボタン（p.245、248）
⑦ リング（p.248）
⑧ レンズ

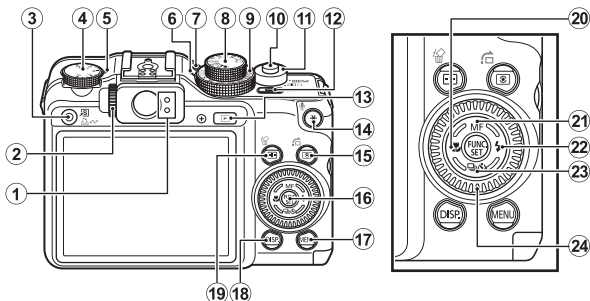
■ 背面

① 画面（液晶モニター）（p.60）
② ファインダー
③ 端子カバー
④ DC カプラー用ケーブルカバー（p.243）
⑤ カード / バッテリー収納部ふた（p.11）
⑥ 三脚ねじ穴
⑦ A/V OUT（映像 / 音声出力）端子（p.214）
⑧ リモコン端子（p.258）
⑨ DIGITAL（デジタル）端子（p.21、29）

ファインダーを使う

液晶モニターを非表示にし（p.60）、ファインダーを使って撮影すると消費電力を抑えることができます。

・ファインダーから被写体がはっきり見えるように、視度調節ダイヤル（p.42）で調節してください。−3.0 ～＋1.0m^{-1}（dpt）の範囲で調節できます。
・ズーム位置によっては、ファインダー内にレンズの一部が見えます。
・ファインダーの視野率*は、約 77％です。

* 実際に撮影される範囲に対して、ファインダーで確認できる範囲の比率です。

■ 操作部

① ランプ（背面）（p.45）

② 視度調節ダイヤル

③ （ショートカット）/ （イージーダイレクト）ボタン（p.21、31、144）

④ 露出補正ダイヤル（p.127）

⑤ 露出補正ランプ

⑥ ISO ランプ

⑦ マイク（p.182、183）

⑧ モードダイヤル（p.17、24、83）

⑨ ISO ダイヤル（p.80）

⑩ シャッターボタン（p.17、24）

⑪ ズームレバー（p.64、148）
撮影時： （広角）/ （望遠）
再生時： （インデックス）/ （拡大）

⑫ 電源ボタン / 電源ランプ（p.17、24）

⑬ （再生）ボタン（p.19）

⑭ （AE ロック/FE ロック）/ （マイク）ボタン（p.124、126、182、183）

⑮ （測光）/ （ジャンプ）ボタン（p.131、152）

⑯ FUNC./SET（ファンクション / セット）ボタン（p.47）

⑰ MENU（メニュー）ボタン（p.48）

⑱ DISP.（ディスプレイ）ボタン（p.60）

⑲ （AF フレーム選択）/ （1 画像消去）ボタン（p.112、20）

⑳ （マクロ）/ ← ボタン（p.69）

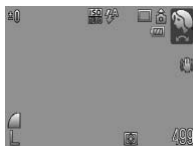
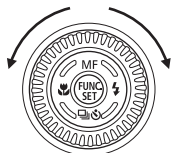
㉑ MF（マニュアルフォーカス）/ ↑ ボタン（p.119）

㉒ （ストロボ）/ → ボタン（p.68）

㉓ （連続撮影）/ （セルフタイマー）/ ↓ ボタン（p.103、70）

㉔ コントローラーホイール（p.43）

コントローラーホイールの使いかた

コントローラーホイールは、反時計回りで ◆ ボタン、時計回りで ◆ ボタンを押すのと同じ働きをします（機能によっては ◆/◆ ボタンの働きをする場合もあります）。
コントローラーホイールで、主に以下のことができます。

■ 撮影時の機能

- 撮影モードの選択（p.24、84、96）
- ⚡/🌷/□/⏲ での項目の選択（p.68、69、103、70）
- FUNC. メニューでの項目選択（p.47）
- スティッチアシストの方向選択（p.94）
- シャッタースピード、絞り数値の選択（p.89、91）
- AF フレームの移動（p.114）
- マニュアルフォーカスでのピント合わせ（p.121）
- プログラムシフト（p.125）
- 測光方式（p.131）

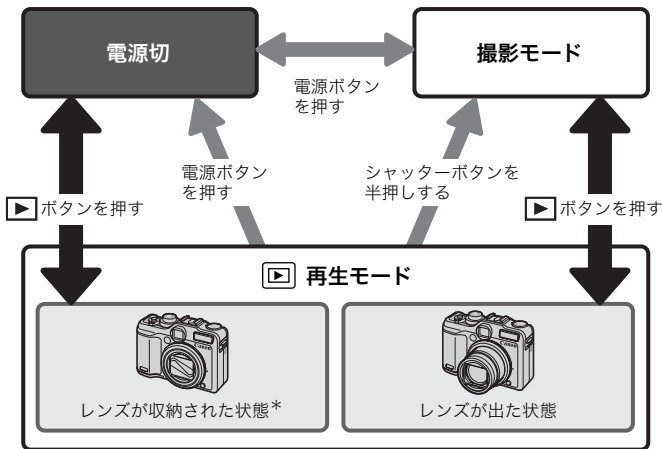
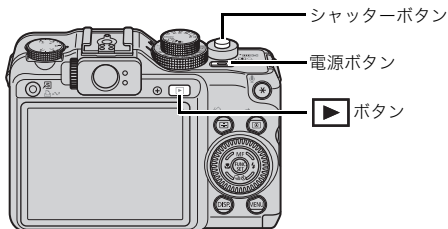
■ 再生時の機能

- 画像選択（p.19、148、149、152）
- 各種設定や編集時の操作（p.165、175、182、183、194、201）
- 動画再生・編集時の各種操作（p.26、159、161）

■ 撮影時と再生時の機能

- メニューでの項目選択と各種設定時の操作（p.47、48、215）
- 時計の表示色（p.46）
- マイカメラコンテンツの設定時の操作（p.215）

▶ ボタンの使いかた

▶ボタンで電源の入 / 切や撮影 / 再生モードの切り換えができます。

＊レンズが自動的に収納される時間は、［🔧］メニューの［レンズ収納時間］で変えることができます（p.58）。

ランプ(背面)の点灯 / 点滅について

以下の場合に、カメラのランプ（背面）が点灯 / 点滅します。

- **上側のランプ**
  緑点灯：撮影準備完了（電子音が 2 回鳴ります）/ ディスプレイオフ時
  緑点滅：画像の記録 / 読み出し / 消去 / 転送（パソコン / プリンター接続時）
  橙点灯：撮影準備完了（ストロボ発光）
  橙点滅：撮影準備完了（手ブレ警告）
- **下側のランプ**
  黄点灯：マクロ撮影 / マニュアルフォーカス撮影 / AF ロック撮影
  黄点滅：ピントが合いにくいとき（電子音が 1 回鳴ります）

ランプ（背面）が緑色に点滅しているときは、絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れることがあります。
- 振動や衝撃を与える
- 電源を切ったり、カード / バッテリー収納部ふたを開ける

時計を表示する

現在の日付と時刻を 5 秒間*表示する方法が、2 通りあります。
＊初期設定

① FUNC./SET ボタンを押しながら、電源を入れる
② 撮影 / 再生モード時に FUNC./SET ボタンを 1 秒以上押す

カメラを横にすると時計を表示し、縦にすると時計 / 日付を表示します。なお、カメラを縦にして ① の方法で時計を表示した場合、初めは、カメラを横にしたときと同じように表示されます。

・時計の表示中に ←/→ ボタンを押すか、コントローラーホイールを回すと、表示色を変更できます。
・時計の表示時間が経過するか、次の操作のためにボタン操作をすると時計表示が終了します。
・時計の表示時間は、［ ］メニューで変更できます（p.58）。
・拡大表示時、インデックス再生時は、時計は表示できません。

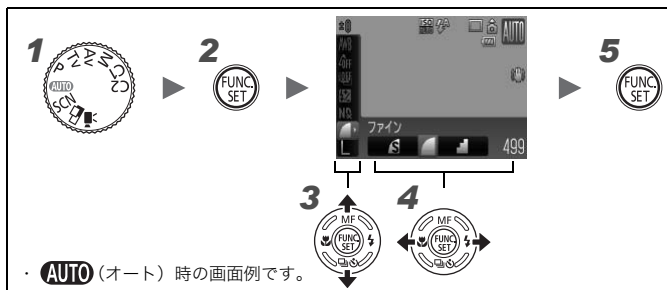
操作の基本

メニューの設定のしかた

撮影時や再生時の設定や、印刷の設定、日付 / 時刻、音などのカメラの設定は、FUNC. メニューまたは撮影 / 再生 / 印刷 / 設定 / マイカメラ / マイメニューで設定します。

FUNC. メニュー（FUNC.SET ボタン）

撮影時に、よく使う機能を設定します。

・AUTO（オート）時の画面例です。

1 **モードダイヤルを撮影したいモードに合わせる**

2 **FUNC.SET を押す**

3 **▲/▼ でメニュー項目を選ぶ**

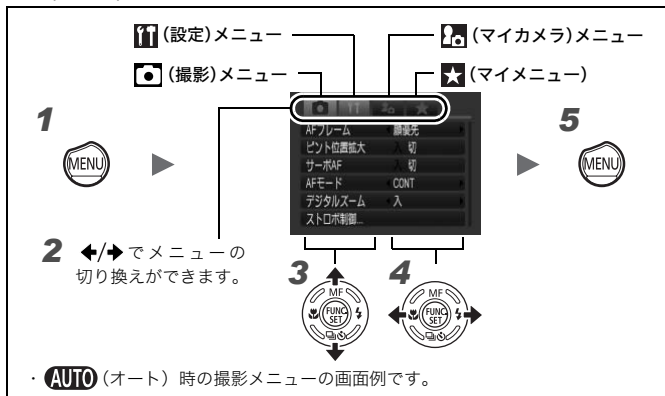
撮影モードによって、選択できないメニュー項目があります。

4 **◀/▶ で設定内容を選ぶ**

・DISP. が表示された設定項目は、DISP. ボタンで設定を変更します。
・選択後、シャッターボタンを押してすぐに撮影できます。撮影後は、再びこの画面が表示され、設定を変更できます。
・コントローラーホイールを回しても選べます。

5 **FUNC.SET を押す**

撮影/再生/印刷/設定/マイカメラ/マイメニュー(MENUボタン)

撮影 / 再生 / 印刷時の便利な機能を設定します。

1 MENU ボタンを押す

2 ←/→ でメニューを切り換える

・ズームレバーでもメニューの切り換えができます。
・表示されるメニューは、次のとおりです。
撮影時：撮影 / 設定 / マイカメラ / マイメニュー
再生時：再生 / 印刷 / 設定 / マイカメラ

3 ↑/↓ でメニュー項目を選ぶ

・撮影モードによって、選択できないメニュー項目があります。
・コントローラーホイールを回しても選べます。

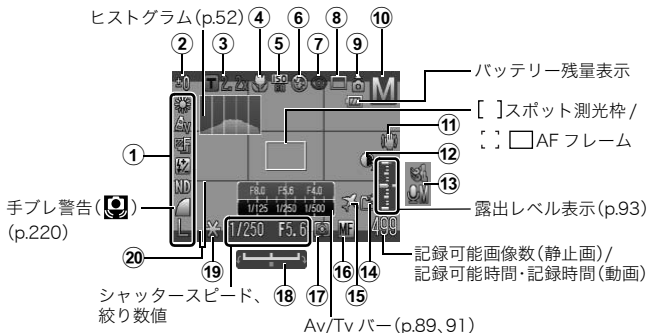
4 ←/→ で設定内容を選ぶ

「...」のある項目では、FUNC./SET ボタンを押して次のメニューを表示してから設定します。設定後、再度 FUNC./SET ボタンを押して設定内容を確定し、MENU ボタンを押してメニュー画面に戻ります。

5 MENU ボタンを押す

液晶モニターに表示される情報とメニュー一覧

設定可能な撮影モード 》 p.284

撮影モードのとき

	表示内容	設定方法
①	ホワイトバランスや記録画素数など	FUNC./SETボタン(FUNC.メニュー)
②	露出補正(-2 … +2)	露出補正ダイヤル
③	デジタルテレコン(T 1.7x/2.2x) / デジタルズーム倍率 / セーフティズーム( )	MENU ボタン(撮影メニュー)、 ズームレバー
④	マクロ( )	ボタン
⑤	ISO 感度 (ISO AUTO ISO HI ISO 80 ISO 100 ISO 200 ISO 400 ISO 800 ISO 1600 ISO 3200)	ISO ダイヤル(ISO 3200 は SCN モード)
⑥	ストロボ( )	ボタン
⑦	赤目自動補正( )	MENU ボタン (撮影メニューの[ストロボ制御])
⑧	ドライブモード ( )	/ ボタン
⑨	縦横自動回転( )	MENU ボタン(設定メニュー)
⑩	撮影モード	モードダイヤル、コントローラーホイール

	表示内容	設定方法
⑪	手ブレ補正（ ）	MENU ボタン（撮影メニュー）
⑫	暗部補正（ ）	MENU ボタン（撮影メニュー）
⑬	オーディオ（ ）	MENU ボタン（設定メニュー）
⑭	フォルダ作成（ ）	MENU ボタン（設定メニュー）
⑮	エリア設定（ ）	MENU ボタン（設定メニュー）
⑯	マニュアルフォーカス（MF）	MF ボタン
⑰	測光方式（ ）	ボタン
⑱	露出シフト（ ）	✱ボタン
⑲	AE ロック /FE ロック	✱ボタン
⑳	撮影ガイド	MENU ボタン（撮影メニュー）

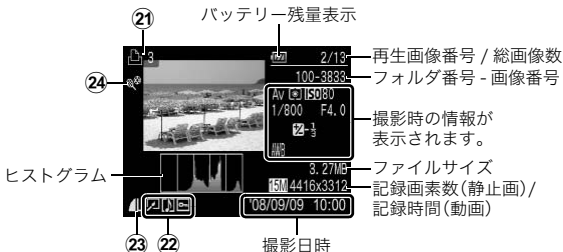
バッテリー残量表示について

・以下のようなアイコンやメッセージが表示されます。

表示	内容
	バッテリー容量は十分です。
	長時間お使いになる場合は、早めに充電してください。
（赤点滅）	バッテリー残量が低下しています。充電をおすすめします。
バッテリーを交換してください	バッテリーの残量が少なく、動作不能です。ただちにバッテリーを充電してください。

ランプ（背面）が橙色に点滅し、 が表示された場合は、光量不足でシャッタースピードが遅くなっているなどの理由が考えられます。以下の方法で撮影してください。

- 手ブレ補正を［切］以外に設定する（p.78）
- ISO 感度を上げる（p.80）
- ISO ブースターを使用する（p.81）
- ストロボを 以外に設定する（p.68）
- 三脚などでカメラを固定する

再生モードのとき(詳細表示)

	表示内容	設定方法
㉑	印刷予約	ボタン、 MENU ボタン(印刷メニュー)
㉒	(再生時)暗部補正の画像 / 赤目補正 / トリミング / リサイズ / レタッチマイカラー() プロテクト情報()	MENU ボタン(再生メニュー)
	音声メモが付いた画像()	ボタン
㉓	圧縮率(静止画)・記録画素数(静止画)、動画(MOV)	FUNC./SET ボタン (FUNC. メニュー)
㉔	自動カテゴリー()	MENU ボタン(撮影メニュー)
	マイカテゴリー()	MENU ボタン(再生メニュー)

画像によっては、以下の情報が表示されることがあります。

	WAVE タイプ以外の音声ファイル、または、認識できないファイルがついています。
	DCF(p.263)の規格と異なる構造を持つ JPEG 画像です。
AVI	AVI タイプです。
?	記録画素数が認識できない画像です。

- 他のカメラで撮影した画像は、情報が正しく表示されないことがあります。
- 高輝度警告について
  以下のとき、撮影画像に露出オーバー部分があると、その個所が点滅表示されます。
  - 撮影直後に、液晶モニター(詳細表示)で画像を確認したとき
  - 再生モードで詳細表示にしたとき

ヒストグラムについて

ヒストグラムは、画像の明るさを判断する目安となるグラフで、**P**、**Tv**、**Av**、**M**モードではこれを表示させ、確認しながら撮影できます。明るさの分布が左に寄るほど暗い画像になり、右に寄るほど明るい画像になります。撮影時に露出補正機能を使うと、画像の明るさを補正することができます(p.127)。

ヒストグラム例

暗い画像

普通の明るさの画像

明るい画像

Mモードでは、シャッタースピード、絞り数値、ISO 感度を変更して画像の明るさを補正できます。

撮影モード

項目	選択項目	参照先
静止画	AUTO ISO 3200 P Tv Av M C1 C2	p.17、83
動画		p.24、96

、、MF、、/ボタンを使った設定

項目	選択項目	参照先
測光方式		p.131
マクロ		p.69
マニュアルフォーカス	MF	p.121
ストロボ		p.68
ドライブモード	(動画モード時は も表示)	p.103、70

ISO ダイヤル、露出補正ダイヤルを使った設定

項目	選択項目	参照先
ISO 感度	ISO AUTO ISO HI ISO 80 ISO 100 ISO 200 ISO 400 ISO 800 ISO 1600	p.80
露出補正ダイヤル	-2…+2	p.127

FUNC. メニュー

項目	選択項目	参照先
ホワイトバランス	AWB	p.133
マイカラー		p.136
ブラケット		p.123、129
ストロボ調光補正/ストロボ発光量		p.105
ND フィルター	ND	p.130
圧縮率		p.75
記録画素数（静止画）	L M1 M2 M3 S W RAW	p.74
記録画素数（動画）	640 320	p.99

撮影メニュー [カメラアイコン]

＊初期設定

項目	選択項目	内容 / 参照先
AF フレーム		p.112
AUTO/SCN	顔優先＊ /AiAF/ 中央	
P/Tv/Av/M	アクティブ＊ / 顔優先 /AiAF	
ピント拡大位置	入 / 切＊	p.108
サーボ AF	入 / 切＊	p.118
AF モード	CONT ＊ /SINGLE	p.111
デジタルズーム		p.65
（静止画）	入＊ / 切 / テレコン 1.7x/ テレコン 2.2x	
（動画）	入＊ / 切（スタンダードモード時のみ）	
ストロボ制御		p.105
発光モード	オート＊ / マニュアル	
調光補正	－２～０＊～＋２	
発光量	小＊ / 中 / 大	
シンクロ設定	先幕＊ / 後幕	
スローシンクロ	入 / 切＊	
赤目自動補正	入 / 切＊	
赤目緩和ランプ	入＊ / 切	
セーフティ FE	入＊ / 切	
暗部補正	切＊ / 自動	p.128
ドライブ設定	顔セルフタイマー:1～3＊～10枚 セルフタイマー:10秒＊、2秒、カスタム 時間：0 ～ 10 ＊、15、20、30 秒 枚数：1 ～ 3 ＊～ 10 枚	p.70
スポット測光枠	中央固定＊ /AF 枠連動	p.132
セーフティシフト	入 / 切＊	p.90
ISO ブースター	入 / 切＊	p.81
MF 拡大表示	入＊ / 切	p.121

項目	選択項目	内容 / 参照先
セーフティ MF	入* / 切	p.122
AF 補助光	入* / 切	p.40
撮影の確認（レックビュー）	切 / 2 *～ 10 秒 / ホールド	撮影直後に画像を表示する時間を設定できます（p.18）。
レビュー情報	非表示* / 詳細表示 / ピント確認	p.109
RAW + L 記録	入 / 切*	p.77
オリジナル保存	入 / 切*	p.142
自動カテゴリー	入* / 切	p.143
手ブレ補正		p.78
（静止画）	入* / 撮影時 / 流し撮り / 切	
（動画）	入* / 切	
コンバータ	なし* /TC-DC58D	p.247
情報表示設定		p.62
表示先	1 / 2 / ☐	
撮影情報	切*1 / 入*2	
グリッドライン	切*1 / 入*2	
3：2 ガイド	切*1 *2 / 入	
ヒストグラム	切*1 / 入*2	
ショートカット登録	S* ND WB ⊿1 ⊿2 ◎ T Ci AFL zZ	p.144
カスタム登録	C1 / C2	p.101

*1 液晶モニター表示 1 の初期設定
*2 液晶モニター表示 2 の初期設定

再生メニュー ▶

項目	参照先
スライドショー	p.165
マイカテゴリー	p.154
消去	p.190
プロテクト	p.185
暗部補正	p.175
赤目補正	p.170
トリミング	p.157
リサイズ	p.180
レタッチマイカラー	p.177
サウンドレコーダー	p.183
回転	p.163
送信指定	p.201
再生開始位置	p.19
再生効果	p.164

印刷メニュー

項目	内容	参照先
印刷	印刷画面を表示します。	―
印刷する画像を指定	画像を見ながら 1 画像ずつ印刷指定します。	p.194
範囲で指定	始点の画像と終点の画像を指定し、その間のすべての画像に印刷指定します。	
日付で指定	指定した日付の画像を印刷指定します。	
マイカテゴリーで指定	指定したカテゴリーの画像を印刷指定します。	
フォルダで指定	指定したフォルダ内の画像を印刷指定します。	
すべての画像を指定	すべての画像に対して印刷指定します。	
すべての指定を解除	画像の印刷指定をすべて解除します。	
印刷の設定	印刷スタイルを設定します。	

設定メニュー 🔧

＊初期設定

項目	選択項目	内容 / 参照先
消音	入 / 切＊	［入］にすると、音が鳴りません。(画像の記録中にカード / バッテリー収納部ふたを開けたときを除く。)
音量	切/ 1 / 2＊/ 3 / 4 / 5	起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音、再生音の音量を調節します。ただし、［消音］が［入］になっていると設定できません。
起動音量		カメラ起動時の音量を調節します。
操作音量		シャッターボタン以外のボタンを操作したときの音量を調節します。
セルフタイマー音		撮影の 2 秒前から撮影するまでのセルフタイマー音の音量を調節します。
シャッター音量		シャッターボタンを全押ししたときの音量を調節します。動画撮影時には、シャッター音は鳴りません。
再生音量		動画や音声メモまたはサウンドレコーダーの再生時の音量を調節します。
オーディオ		p.100
マイク	オート＊ / マニュアル	
録音レベル	− 40 ～ 0 dB	
ウィンドカット	入 / 切＊	
液晶の明るさ	− 7 ～ 0 ＊～＋ 7	◆/◆ ボタンで液晶モニターの明るさを調整します。 液晶モニター表示時は、画像の明るさを確認しながら調整できます。
節電		p.203
オートパワーオフ	入＊ / 切	
ディスプレイオフ	10 秒 /20 秒 /30 秒 / 1 分＊ / 2 分 / 3 分	

項目	選択項目	内容 / 参照先
エリア設定	自宅* / 訪問先	p.204
日付／時刻		p.14
時計表示	0 ～ 5 *～ 10 秒 / 20 秒 /30 秒 /1 分 / 2 分 /3 分	p.46
カードの初期化		p.16（物理フォーマットも設定できます（p.207））。
画像番号	通し番号* / オートリセット	p.208
フォルダ作成		p.210
新規作成	チェックをつけると設定できます。	
自動作成	切* / 毎日 / 月曜～日曜 / 毎月 (時間も設定できます。)	
縦横自動回転	入* / 切	p.212
距離表示	m/cm * / ft/in	ズームバー（p.64）や、MF インジケーター（p.121）の距離表示の単位を設定します。
レンズ収納時間	1 分* /0 秒	レンズの収納タイミングを設定します(撮影モードから再生モードへの切り換え時)。
言語		p.15
ビデオ出力方式	NTSC * /PAL	p.214
印刷接続方式	自動* /	下記参照
初期設定		p.213

印刷接続方式について

プリンターとの接続方式を変更できます。通常、設定を変更する必要はありませんが、W（ワイド）で撮影した画像を、キヤノンコンパクトフォトプリンター SELPHY CP750/CP740/CP730/CP720/CP710/CP510 でワイドサイズ用紙全面に印刷するときは、 を選択してください。この設定は電源を切っても記憶されますので、W 以外の画像サイズを印刷するときは、[自動] に戻してください(ただし、プリンター接続中は変更できません)。

マイカメラメニュー

＊初期設定

項目		内容	参照先
	セット	起動画面、起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音に共通するテーマを選びます。	p.215
	起動画面	電源を入れたときの起動画面を選びます。	
	起動音	電源を入れたときの起動音を選びます。	
	操作音	シャッターボタン以外のボタンを操作したときの音を選びます。	
	セルフタイマー音	セルフタイマー撮影で撮影の2秒前をお知らせする音を選びます。	
	シャッター音	シャッターボタンを全押ししたときの音を選びます（動画撮影時には鳴りません）。	
設定内容		（切）/ 1 ＊ / 2 /	

マイメニュー ★

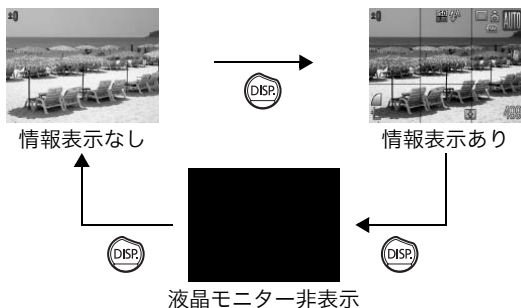
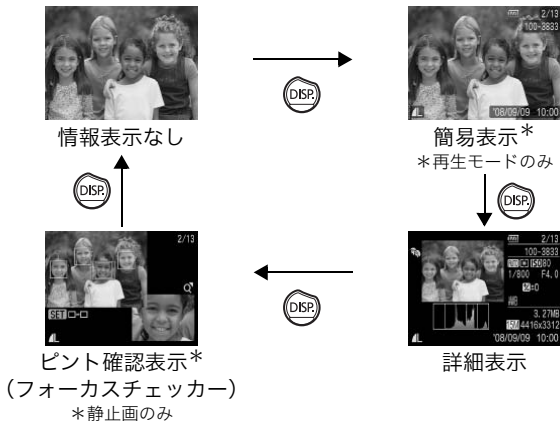
項目	参照先
マイメニューの設定	p.146

液晶モニターの表示

表示を切り換える

DISP. ボタンを押すたびに、液晶モニターの表示を切り換えることができます。表示される情報については、「液晶モニターに表示される情報とメニュー一覧」（p.49）もご覧ください。
（画面例は、AUTO（オート）で撮影の場合）

■**撮影モードのとき**（[情報表示設定]の設定(p.62)よって、表示が異なります。）

情報表示なし
情報表示あり
液晶モニター非表示

■再生モード、レックレビュー（撮影直後）のとき

- SCN（ 、 、 ）や 、 のとき、液晶モニターは消せません。
- 拡大表示時（p.148）やインデックス再生時（p.149）は、詳細表示やピント確認表示に切り換わりません。

明るさを切り換える

次の 2 つの方法があります。

- **設定メニューで変更する（p.57）**
- **「LCD ブースター」機能で変更する**

  DISP. ボタンを 1 秒以上押すと、設定メニューで選択されている明るさにかかわらず、最大の明るさに変更できます＊。
  - 元の明るさに戻すとき：再度、DISP. ボタンを 1 秒以上押す
  - 次回電源を入れたとき：設定メニューで選択されている明るさで表示される

＊すでに、設定メニューで最大の明るさに設定されている場合は、変更できません。

「ナイトビュー」について

このカメラは、夕暮れや夜間など周囲が暗くて画面が見にくいとき、被写体を液晶モニターに明るく映し出す「ナイトビュー」を搭載しています。これにより、暗い場所でも構図の確認がしやすくなっています（設定を切ることはできません）。

＊液晶モニターにノイズが表示されたり、表示される被写体の動きがややぎこちなくなることがありますが、記録される画像に影響はありません。なお、液晶モニターに表示される画像の明るさと、実際に撮影される画像の明るさは異なります。

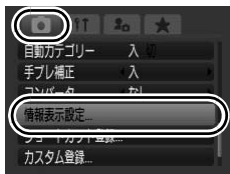
情報の表示内容を設定する

設定可能な撮影モード 》 p.284

DISP. ボタンを押したときの表示状態や、液晶モニターに表示される次の情報の表示 / 非表示を設定できます。

表示先（ / / ）	DISP. ボタンを押したときに表示する表示先（表示 1/ 表示 2/ 非表示）それぞれの、表示 / 非表示を設定できます。表示設定した表示先は、DISP. ボタンを押すと順番に切り換えられます（p.60）。選択しない表示先は DISP. ボタンを押しても表示されません。
撮影情報	撮影情報を表示します（p.49）。
グリッドライン	画面を 9 分割したラインを表示します。被写体の水平や垂直を確認できます（p.49）。
3：2 ガイド	印刷範囲（縦横比 約 3：2）を確認できます＊。印刷されない領域はグレーになります（p.49）。 ＊記録される画像の縦横比は、通常画面と同じ 4:3 となります。
ヒストグラム	撮影モード：**P**/**Tv**/**Av**/**M** ヒストグラムを表示します（p.49、52）。

1 ［情報表示設定］を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. ［ ］メニューから、▲/▼ で［情報表示設定］を選ぶ
3. FUNC. SET を押す

2 [表示先]を選ぶ

1. ▲/▼ または ◀/▶ で 、 、 のいずれかを選ぶ

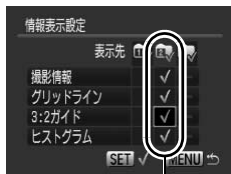
- DISP. ボタンを押したときの［表示先］の表示 / 非表示を設定します。
- DISP. ボタンを押したときに表示したくない表示先は、FUNC./SET ボタンを押して⊘をつけます（ / / ）。
- 設定に入ったときの液晶モニターの表示先に⊘をつけることはできません。

非表示
表示 1　表示 2
設定に入ったときの表示先

3 設定する

1. ▲/▼ または ◀/▶ で選んだ表示先に表示させたい項目を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押して、✓ をつける
3. MENU ボタンを押す

✓ のある項目が
表示されます

- 表示したい項目がグレーになっていても設定はできます。ただし、お使いの撮影モードによっては表示できない場合があります。
- ✓ が 1 つもない表示先は、情報表示なしとなります。

シャッターボタンを半押しして情報表示設定画面から撮影画面に戻ると、設定内容は保存されません。

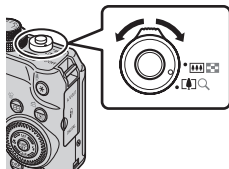
撮影時によく使う機能

コントローラーホイールでも撮影モードの選択やFUNC. メニューの設定内容の選択などが行えます。p.43 をご確認ください。

[W] [T] 光学ズームで撮る

35mm フィルム換算で、28 ～ 140mm（焦点距離）の範囲で画角を調節できます。

1 ズームレバーを [T] 側、または [W] 側に押す

・[T] **望遠**：被写体が大きくなります。
・[W] **広角**：被写体が小さくなります。

デジタルズーム / デジタルテレコンで撮る

設定可能な撮影モード 》 p.284

光学ズームと組み合わせて、拡大して撮影できます。
焦点距離（35mm フィルム換算）と特長は次のとおりです。

選択項目	焦点距離	特長
入	28 ～ 560mm 相当	光学ズームとデジタルズームの組み合わせで、最大約 20 倍に拡大して撮影できます。
切	28 ～ 140mm	デジタルズームを使わずに撮影します。
テレコン 1.7x	47.6 ～ 238mm 相当	デジタルズームが選択項目の倍率に固定され、焦点距離が望遠側に移動します。同じ画角の撮影では、［入］や［切］のときに比べ、より速いシャッタースピードが利用でき、手ブレしにくくなります。
テレコン 2.2x	61.6 ～ 308mm 相当	

セーフティズームについて

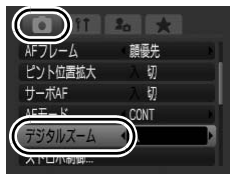
このカメラは、設定された記録画素数に応じて、画質が劣化しない倍率まで一時停止することなく、光学ズームからデジタルズームに移行する「セーフティズーム」を搭載しています。画質劣化のない最大倍率で が表示され、再度 側にズームすると、さらに拡大できます（を除く）。
設定している記録画素数によって、セーフティズームの位置（倍率）は、次のようになります（5.0x：数字はズームが一時停止する倍率）。

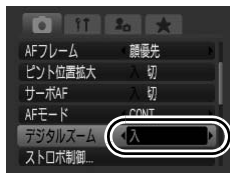
記録画素数	光学ズーム	デジタルズーム	
L	5.0x		
M1		6.4x	
M2		8.5x	
M3		14.0x	
S			20.0x
ズームバーの表示色	白色（ ）	黄色（ ）	青色（ ）
	画像が劣化しない領域		画像が劣化する領域

- 液晶モニターが消えているときは、設定できません。
- W、RAW のときは、設定できません。

デジタルズームで撮る

1 [デジタルズーム]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [ ]メニューから、▲/▼ で[デジタルズーム]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で[入]を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

3 ズームレバーを 側に押し、撮影する

- 液晶モニターに、光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率が表示されます。
- 記録画素数によっては、画像が粗くなります。このとき、画像が粗くなる倍率は青色で表示されます。
- 側へ押すと、倍率が下がります。

ピントの合う範囲(目安)

光学ズーム域(白)

デジタルズーム域(黄 / 青)

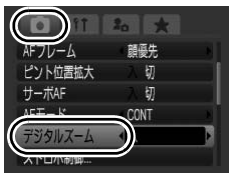
約 2 秒後

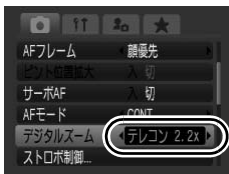
光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率

デジタルテレコンで撮る

デジタルズームを使って、テレコンバーター（望遠撮影するためのレンズ）の機能を実現したものが、デジタルテレコンです。

1 [デジタルズーム]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [ ]メニューから、▲/▼ で[デジタルズーム]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で[テレコン 1.7x]または[テレコン 2.2x]を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

3 ズームレバーで画角を調節し、撮影する

・液晶モニターに T と倍率が表示されます。
・記録画素数によっては、画像が粗くなります（T と倍率が青色で表示されます）。

ストロボを使って撮る

設定可能な撮影モード 》 p.284

1 を押す

1. ◆/◆ でストロボのモードを変更する

：[オート]
：[常時発光]
：[発光禁止]

・この画面が表示されているときに MENU ボタンを押すと、ストロボの機能を設定できます（p.105）。

手ブレ警告アイコン（）が表示されたときは、三脚などでカメラを固定して撮影することをおすすめします。

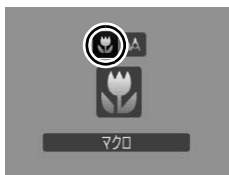
至近距離（マクロ）で撮る

設定可能な撮影モード 》p.284

花や小さなものなどに近付いて大きく撮れます。被写体に最も近付いたときの撮影範囲（撮影距離）は、最も広角側で 32 × 23mm（レンズ先端から 1cm）です。

1 を押す

1. ←/→ で を選ぶ

・ズーム操作中にズームバーが表示されます。
ズームバーは、約 2 秒後に消えます。

ピントの合う範囲（目安）

解除のしかた：ボタンを押し、←/→ で（通常）を選ぶ

AF フレームの大きさを小さくすると、狙った被写体の特定の部分にピントを合わせやすくなります（p.115）。

- マクロモードでは、液晶モニターを使って撮影してください。ファインダーを使うと、撮影範囲がずれます。
- マクロモードで撮影するときにストロボを使うと、画像の周辺部が暗くなることがあります。

セルフタイマーを使って撮る

設定可能な撮影モード 》p.284

撮影の開始時間や撮影枚数を設定して撮影できます。

10秒	シャッターボタンを押してから、10秒後に撮影します。 ・撮影の2秒前になるとセルフタイマー音が速く鳴り、セルフタイマーランプ（ランプ（前面））の点滅も速くなります。
2秒	2秒：シャッターボタンを押してから、2秒後に撮影します。 ・シャッターボタンを押すと同時にセルフタイマー音が速く鳴り、ランプ（前面）が点滅し、2秒後に撮影されます。
カスタム	セルフタイマーの開始時間（0〜10、15、20、30秒後）や撮影枚数（1〜10枚）を変更して撮影できます。 ・［時間］が2秒以上の場合、セルフタイマー音は撮影の2秒前から速く鳴り始めます。［枚数］で2枚以上を設定したときは、1画像目の撮影時のみセルフタイマー音が鳴ります。
顔セルフタイマー	シャッターボタンを押したあと、構図内に新しい顔を検出すると、2秒後に撮影します。撮影枚数(1〜10枚)を変更して撮影できます。 ・新しい顔が検出されるとセルフタイマー音が速く鳴り、ランプ（前面）が点滅し、2秒後に撮影されます。

、、のとき

1 [ドライブ設定]を選ぶ

1. MENUボタンを押す
2. [ ]メニューから、▲/▼で[ドライブ設定]を選ぶ
3. FUNC/SETボタンを押す

2 設定する

1. ▲/▼で[セルフタイマー]を選ぶ
2. ◀/▶で設定する
3. FUNC./SETボタンを押す
4. MENUボタンを押す

3 ⏲を押す

1. ▲/▼ でセルフタイマーモードを選ぶ

・この画面が表示されているときにMENU ボタンを押しても、手順 1 の［ドライブ設定］の画面が表示されます。

4 撮影する

・シャッターボタンを全押しすると、ランプ（前面）が点滅＊します。

＊［ストロボ制御］の［赤目緩和ランプ］を［入］に設定（p.105）して、ストロボが発光する場合は、撮影の 2 秒前から点灯します。

解除のしかた：手順 1 で■を選ぶ

撮影開始時間と撮影枚数を変更する（⏲）

1 ［ドライブ設定］を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. ［●］メニューから、▲/▼ で［ドライブ設定］を選ぶ
3. (FUNC/SET) を押す

2 設定する

1. ▲/▼ で［セルフタイマー］を選び、◀/▶ で⏲を選ぶ
2. ▲/▼ で［時間］または［枚数］を選び、◀/▶ で設定内容を変更する
3. (FUNC/SET) を押す
4. MENU ボタンを押す

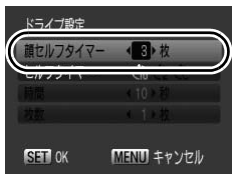
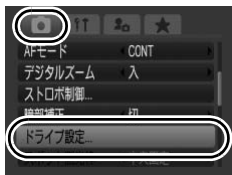
［枚数］が 2 枚以上の場合、次のようになります。
- 1 画像目の撮影で、露出やホワイトバランスが固定されます。
- ストロボが発光するときは、撮影間隔が長くなります。
- カメラ内部のメモリーがいっぱいになると、撮影間隔が長くなることがあります。
- カードの容量がいっぱいになると自動的に撮影を終了します。

のとき（顔セルフタイマーを使う）

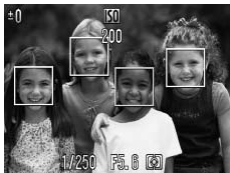
1 を選ぶ

1. を押す
2. ▲/▼ で を選ぶ

2 撮影枚数を設定する

1. MENU ボタンを押す
2. [ ]メニューから、▲/▼ で[ドライブ設定]を選ぶ
3. (FUNC. SET) を押す
4. ▲/▼ で[顔セルフタイマー]を選ぶ
5. ◀/▶ で設定する
6. FUNC./SET ボタンを押す
7. MENU ボタンを押す

・手順1の画面が表示されているときに MENU ボタンを押しても、撮影枚数を設定できます。

3 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

・主被写体の顔には緑色、それ以外の顔には白色の枠が表示されます。

4 シャッターボタンを全押しする

・撮影準備に入り、[顔が増えたら撮影します] のメッセージが表示されます。
・ランプ（前面）が点滅し、電子音が鳴ります。

5 一緒に写る人が構図に入り、カメラに顔を向ける

・新しい顔が検出されると、ランプの点滅と電子音が速くなり、約 2 秒後に撮影されます。
・撮影枚数が 2 枚以上のときは、引き続き、約 2 秒間隔で撮影されます。
・一緒に写る人が構図に入っても顔を検出できないときは、約 30 秒後に撮影されます。

人物の顔検出については、「顔優先について」を参照してください（p.113）。

記録画素数を変更する(静止画)

設定可能な撮影モード 》 p.284

1 記録画素数を選ぶ

1. FUNC./SET を押す
2. ▲/▼ で L を選び、◀/▶ で変更する
3. FUNC./SET を押す

記録画素数を選ぶときの目安

記録画素数				用途
L ラージ	15M*	4416 × 3312	大きい	A2 サイズ程度に印刷するとき
M1 ミドル1	9M	3456 × 2592	↑	A3 サイズ程度に印刷するとき
M2 ミドル2	5M	2592 × 1944		A4 サイズ程度に印刷するとき
M3 ミドル3	2M	1600 × 1200		L 判やはがきサイズに印刷するとき
S スモール	0.3M	640 × 480	↓ 小さい	電子メールで画像を送るとき、またはより多くの画像を撮影するとき
W ワイド	4416 × 2480		ワイドサイズの用紙に印刷するとき（縦横比 16：9 の画像を確認でき、記録されない領域は、液晶モニター上に黒帯が表示されます。）	
RAW ロウ	4416 × 3312		p.76	

：おおよその記録画素数を示しています（＊：有効数字の 3 桁目を四捨五入して表記（CIPA ガイドライン準拠））。「M」は、Megapixel（メガピクセル）の略です。

カードの種類と記録可能画像数 / 時間（目安）（p.267）

圧縮率を変更する（静止画）

設定可能な撮影モード 》 p.284

1 圧縮率を選ぶ

1. FUNC./SET を押す
2. ▲/▼ で ◢ を選び、◀/▶ で変更する
3. FUNC./SET を押す

圧縮率を選ぶときの目安

圧縮率		用途
S スーパーファイン	きれい	より良い画質で撮影するとき
ファイン	↕	通常の撮影をするとき
ノーマル	普通	より多くの画像を撮影するとき

カードの種類と記録可能画像数 / 時間（目安）（p.267）

画像タイプを変更する

設定可能な撮影モード 》 p.284

このカメラでは、JPEG 画像と RAW 画像を記録できます。

JPEG 画像（L/M1/M2/M3/S/W）
最適な画質になるようにカメラ内で画像処理を行うとともに、カードに多くの画像を記録できるように、ファイルサイズを圧縮します。ただし非可逆圧縮方式のため、圧縮前と完全に同一のデータを復元することはできません。設定方法は「記録画素数を変更する（静止画）」、「圧縮率を変更する（静止画）」（p.74、75）でご確認ください。

RAW 画像（RAW）
撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生データ」です。そのため、画質劣化がほとんどなく、JPEG より高品位な画像が得られます。付属のソフトウェア（Digital Photo Professional）を使うと、画質劣化することなく幅広い画像調整を行うことができます。また、ソフトウェアの現像処理機能により、調整結果を反映した、使用目的に最適な JPEG 画像、TIFF 画像などを生成することができます。
なお、RAW で撮影した画像は、ダイレクトプリントや印刷指定（DPOF）を行うことはできません。

RAW画像および同時記録されたJPEG画像を取り込む場合は、必ず付属のソフトウェアをお使いください。

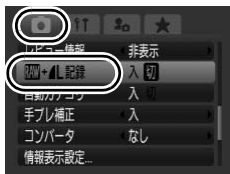
1 **RAW を選ぶ**

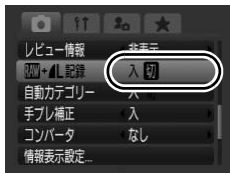
1. FUNC./SET を押す
2. ▲/▼ で L を選び、◀/▶ で RAW を選ぶ
3. FUNC./SET を押す

RAW 画像と JPEG 画像を同時に記録する

入	1 回の撮影で RAW 画像（RAW）と JPEG 画像（L / ラージ・ファイン）の 2 つの画像が記録されます。画像として完成している L も記録されますので、付属のソフトウェアを使わなくてもパソコンで見たり、印刷したりすることができます。なお、この 2 つの画像は同じ画像番号で同じフォルダに保存されますので、画像番号に付いている画像タイプ（拡張子）で判別してください。RAW の画像タイプは「CR2」、L の画像タイプは「JPG」です。
切	RAW 画像でのみ記録します。

1 [RAW + L 記録]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [●]メニューから、▲/▼ で[RAW + L 記録]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で[入]または[切]を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

手ブレ補正を設定する

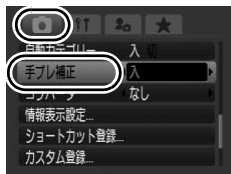
設定可能な撮影モード 》p.284

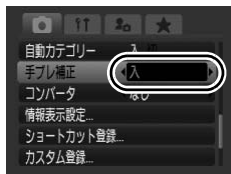
レンズシフト式手ブレ補正を使うと、遠くの被写体を大きくして撮影したいときや、薄暗い場所でストロボを発光せずに撮影するときでも手ブレを抑えた撮影ができます。

選択項目	液晶モニターの表示*	内容
切	(アイコン)	—
入	(アイコン)	常時、手ブレを補正します。液晶モニターで手ブレ補正の効果を確認できるため、構図を決めたり、ピント合わせがしやすくなります。
撮影時	(アイコン)	シャッターがきれる瞬間のみ手ブレを補正します。[入] に設定した場合に被写体によっては感じることのある、液晶モニター上の不自然な揺れを気にせずに撮影できます。
流し撮り	(アイコン)	カメラが上下方向にブレたときにだけ、手ブレを補正します。横方向に動いているものを、カメラで追いかけて撮影するときにおすすめします。

＊別売のレンズを使う場合に［コンバータ］を設定すると、表示されるアイコンは異なります（p.247）。

1 [手ブレ補正]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [ ]メニューから、▲/▼ で[手ブレ補正]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で手ブレ補正の種類を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

- シャッタースピードが遅くなる撮影では、手ブレを補正しきれないことがあります。ISO ブースター（p.81）を使用するか、三脚などでカメラを固定して撮影してください。なお、三脚などでカメラを固定するときは、[手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします。
- 手ブレが大きすぎると補正しきれないことがあります。
- ［流し撮り］は、カメラを横に構えてお使いください（カメラを縦に構えると補正を行いません）。
- ［撮影時］または［流し撮り］に設定後、動画を撮影する場合は［入］に設定変更されます。

ISO 感度を変更する

設定可能な撮影モード 》p.284

暗いところで手ブレを抑えたり、被写体ブレを抑えるためにシャッタースピードを速くしたいとき、あるいはストロボをオフにして撮影したいときには、ISO 感度を上げます。

1 ISO 感度を選ぶ

1. ISO ダイヤルを回して選ぶ

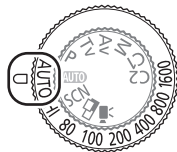
・設定可能な ISO 感度を選ぶと、ISO ランプが橙色に点灯します。

・設定できない ISO 感度を選ぶと、ISO ランプが消灯し、ISO AUTO（**M**の時は ISO 80）に自動的に設定されます。

・ISO AUTO（オート）や ISO HI（高感度オート）を選ぶと、撮影時の明るさに応じて最適な感度に設定します。暗いところなどでは自動的に感度が上がるためシャッタースピードが速めになり、手ブレが低減されます。

・画質を優先したいときは ISO AUTO を選びます。

・ISO HI を選ぶと、カメラが動きも検知して最適な感度を設定します。撮影シーンによっては ISO AUTO に比べ感度が高めに設定され*、被写体ブレも低減されます。

＊ISO AUTO に比べて撮影画像にノイズが増えることがあります。

- ISO 3200 も設定できます（p.87）。
- 高い ISO 感度で撮影する場合には、カメラが自動的にノイズを低減する処理を行います。
- ISO AUTO または ISO HI に設定した場合、シャッターボタンを半押ししたときや再生情報には、カメラが自動的に設定した ISO 感度が表示されます。

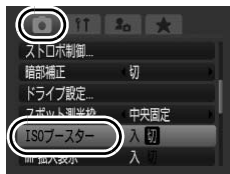
手ブレを軽減して撮る（ISO ブースター）

設定可能な撮影モード 》p.284

撮影時に手ブレ警告アイコン（）が表示されたときに、ボタンを押すだけで ISO 感度を上げ、手ブレしにくいシャッタースピードで撮影することができます。

- 、、のとき、およびストロボ発光時は動作しません。
- 撮影の状況によっては、ISO 感度を上げても、手ブレ警告アイコン（）が消えないことがあります。

1 [ISO ブースター]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [ ]メニューから、▲/▼ で[ISO ブースター]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で[入]を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

3 シャッターボタンを半押しする

・が表示されると、ボタンが青色に点灯します。

4 **シャッターボタンを半押ししたまま、S を押す**

・変更後の ISO 感度が表示されます。
・シャッターボタンを半押しした状態で、再度 S ボタンを押すと、ISO 感度が元の設定に戻ります。
・ISO 感度が上がった後に AE ロック（p.124）をすると、シャッターボタンを放しても、ISO 感度は元の設定に戻りません（このとき、S ボタンは消灯します）。

5 **そのままシャッターボタンを全押しして撮影する**

モードダイヤルを使った撮影

モードダイヤル

カメラまかせで撮影できます。
AUTO：オート（p.17）

■イメージゾーン

撮影状況に応じた撮影モードを選択すると、最適な撮影ができるように、カメラが自動的に設定を行います。

SCN：スペシャルシーン（p.84）

- ：ポートレート
- ：風景
- ：夜景
- ：スポーツ
- ：ナイトスナップ
- ：キッズ&ペット
- ：パーティー / 室内
- ：夕焼け
- ：新緑 / 紅葉
- ：スノー
- ：ビーチ
- ：打上げ花火
- ：水族館
- ：水中
- ：ISO 3200
- ：ワンポイントカラー
- ：スイッチカラー

：スティッチアシスト（p.94）
：動画（p.24、96）

■クリエイティブゾーン

シャッタースピードや絞り数値を選択するなど、思いどおりのさまざまな撮影ができます。

P　：プログラム AE で撮る（p.88）
Tv　：シャッタースピードを決めて撮る（p.89）
Av　：絞りを決めて撮る（p.91）
M　：自由にシャッタースピード / 絞りを決めて撮る（p.92）
C1、C2：設定をカスタム登録して撮る（p.101）

SCN 撮影シーンに合わせて撮る

設定可能な撮影モード 》p.284

撮影状況に応じた撮影モードを選択すると、最適な撮影ができるように、カメラが自動的に設定を行います。

1 **モードダイヤルをSCNに合わせる**

2 **撮影モードを選ぶ**

1. コントローラーホイールを回して選ぶ

ポートレート

人物をやわらかい調子で撮影できます。

風景

近景から遠景まで奥行きのあるシーンの撮影に最適です。

夜景

夕暮れや夜景をバックにした人物を撮影できます。人物にストロボ光をあて、遅いシャッタースピードで撮影するため、人物、背景ともきれいに撮影できます。必ずストロボを に設定して撮影してください。

スポーツ

オートフォーカスをしながら連続撮影できます。動きのある被写体を撮影するのに適しています。

ナイトスナップ

夕暮れや夜景をバックに人物をスナップ撮影したいとき、カメラをしっかり構えれば三脚がなくても手ブレを軽減して撮影できます。

キッズ&ペット

よく動きまわる子供やペットを、シャッターチャンスを逃さずに撮影できます。

パーティー / 室内

蛍光灯や電球のもとで、手ブレをおさえて被写体に忠実な色合いで撮影できます。

夕焼け

夕焼けを色鮮やかに撮影できます。

新緑 / 紅葉

新緑、紅葉、桜など、木々や葉を色鮮やかに撮影できます。

スノー

雪景色をバックにしても人物が暗くならず、青みも残らないで撮影できます。

ビーチ

太陽光の反射の強い海面や砂浜でも、人物などが暗くならずに撮影できます。

打上げ花火

打上げ花火を最適な露出で鮮やかに撮影できます。

水族館

屋内の水槽内の魚などを撮影するのに適した感度、ホワイトバランスに設定されます。

水中

ウォータープルーフケース WP-DC28（別売）を使った水中での撮影に最適です。水中に最適なホワイトバランスに設定され、青みをおさえた自然な色合いで撮影できます。ストロボ発光はなるべくしないように制御されます。

ISO 3200

より高感度に設定したいときに使用します。ISO 感度が 3200 に設定（ISO1600 比で 2 倍）され、シャッタースピードが速くなるため、暗い場所でも被写体ブレや手ブレを抑えて撮影できます。
記録画素数は (1600×1200画素)に固定されます。

ワンポイントカラー

画面内の指定した色以外を白黒にして撮影できます(p.138)。

スイッチカラー

画面内の指定した色を別の色に変更して撮影できます(p.140)。

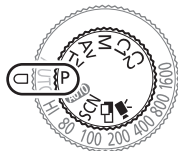
- 、では、シャッタースピードが遅くなります。手ブレを防ぐために必ず三脚をお使いください。
- 、、、、、、、では、撮影シーンによっては、ISO感度が上がり、画像にノイズが増えることがあります。
- では、ノイズが目立つ場合があります。

水中で撮影する場合は、ウォータープルーフケース WP-DC28（別売）を装着してください。なお、雨天時や、海辺、スキー場などで撮影する場合も、装着をおすめします。

Pプログラム AE で撮る

設定可能な撮影モード 》p.284

被写体の明るさに応じて、シャッタースピードと絞り数値をカメラが自動的に設定します。ISO 感度、露出補正、ホワイトバランスなどの設定ができます。

1 モードダイヤルをPに合わせる

2 撮影する

- シャッターボタンを半押ししたときに適正露出が得られないと、シャッタースピードと絞り数値が赤字で表示されます。次の方法で撮影すると、適正露出が得られ、白字で表示されることがあります。
  - ストロボを使用する（p.68）
  - ISO 感度を変更する（p.80）
  - ISO ブースターを使用する（p.81）
  - 測光方式を変更する（p.131）
  - ND フィルターを［入］にする（p.130）
- 同じ露出でシャッタースピードと絞り数値の組み合わせを変えることができます（p.125）。

Tv シャッタースピードを決めて撮る

設定可能な撮影モード 》p.284

シャッタースピードを選ぶと、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出になる絞り数値を自動的に設定します。
シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッタースピードを遅くすると流動感を表現したり、暗いところでもストロボを発光させずに撮影できます。

1 モードダイヤルをTvに合わせる

2 シャッタースピードを設定する

1. コントローラーホイールを回して変更する

・コントローラーホイールを回すと **Tv**バーが表示され、シャッタースピードを確認しながら変更できます。

3 撮影する

・シャッターボタンを半押ししたときに絞り数値が赤字で表示される場合は、露出アンダー（露出不足）または露出オーバー（露出過多）です。白字で表示されるまで、コントローラーホイールを回してシャッタースピードを調節してください（セーフティシフトもお使いになれます（p.90））。

シャッタースピードが遅くなると、CCD の特性により撮影した画像にノイズが増えますが、シャッタースピードが 1.3 秒以上のスローシャッター時は、このノイズを除去する処理を行い、高画質が得られます（ただし、次の撮影までにしばらく時間がかかります）。

- シャッタースピード、ズームと絞り数値の関係は、以下のとおりです。

	絞り数値	シャッタースピード（秒）
ワイド端	F2.8 〜 3.5	15 〜 1/2000
	F4.0 〜 5.0	15 〜 1/2500
	F5.6 〜 8.0	15 〜 1/4000
テレ端	F4.5 〜 5.6	15 〜 1/2000
	F6.3 〜 8.0	15 〜 1/2500

- 内蔵ストロボ発光時に有効なシャッタースピードは、最高で 1/500 秒*です。1/500 秒よりも高速のシャッタースピードを設定した場合は、自動的に 1/500 秒に再設定して撮影します。

  *外付けストロボのときは p.250、251 でご確認ください。

シャッタースピードの表示

- 以下のシャッタースピードを設定できます。1/160 は 1/160 秒を表します。また、0"3は0.3秒を、2"は2秒を表しています。

  15" 13" 10" 8" 6" 5" 4" 3"2 2"5 2" 1"6 1"3 1" 0"8 0"6 0"5
  0"4 0"3 1/4 1/5 1/6 1/8 1/10 1/13 1/15 1/20 1/25
  1/30 1/40 1/50 1/60 1/80 1/100 1/125 1/160 1/200
  1/250 1/320 1/400 1/500 1/640 1/800 1/1000
  1/1250 1/1600 1/2000 1/2500 1/3200 1/4000

- 同じ露出でシャッタースピードと絞り数値の組み合わせを変えることができます（p.125）。

セーフティシフト

Tv、**Av** のとき、[ ] メニューの［セーフティシフト］を［入］にすると（p.54）、適正露出を得られない場合でも、自動的にシャッタースピードまたは絞り数値をシフトして、適正露出で撮影できます。なお、ストロボ発光時は機能しません。

Av 絞りを決めて撮る

設定可能な撮影モード 》p.284

絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調節するものです。絞り数値を選ぶと、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出になるシャッタースピードを自動的に設定します。
絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。
絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。数値を大きくするほど、鮮明に写る範囲が広くなります。

1 モードダイヤルを Av に合わせる

2 絞り数値を設定する

1. コントローラーホイールを回して変更する

・コントローラーホイールを回すと **Av** バーが表示され、絞り数値を確認しながら変更できます。

Av バー
絞り数値

3 撮影する

・シャッターボタンを半押ししたときにシャッタースピードが赤字で表示される場合は、露出アンダー（露出不足）または露出オーバー（露出過多）です。白字で表示されるまで、コントローラーホイールを回して絞り数値を調節してください（セーフティシフトもお使いになれます（p.90））。

ズーム位置によっては選べない絞り数値があります（p.90）。

- 内蔵ストロボ同調シャッタースピードは、最高で 1/500 秒＊です。したがって、あらかじめ絞り数値を設定していても、ストロボ同調シャッタースピードに応じて絞り数値が自動的に変更されることがあります。

  ＊外付けストロボのときは p.250、251 でご確認ください。

絞り数値の表示

- 表示された数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなり、レンズに入る光量は少なくなります。

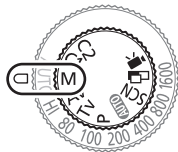
  F2.8 F3.2 F3.5 F4.0 F4.5 F5.0 F5.6 F6.3 F7.1 F8.0

- 同じ露出でシャッタースピードと絞り数値の組み合わせを変えることができます（p.125）。

M 自由にシャッタースピード / 絞りを決めて撮る

設定可能な撮影モード 》 p.284

シャッタースピードや絞り数値を自分で決定し、撮影します。

1 **モードダイヤルをMに合わせる**

2 **シャッタースピードと絞り数値を設定する**

1. ◉ を押して、シャッタースピードまたは絞り数値を選ぶ
2. コントローラーホイールを回して変更する

・コントローラーホイールを回すと **Tv** バーまたは **Av** バーが表示され、数値を確認しながら変更できます。

3 撮影する

現在の露出

適正露出
露出レベル表示
露出補正値(緑線)

・露出レベル表示の右側に現在の露出が表示され、適正露出からのずれを確認できます(このずれが± 2 段を超えると、赤で表示されます)。

・シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターに適正露出*からのずれが数字で表示されます。このずれが± 2 段を超えると、液晶モニターに、「－２」または「＋２」と赤字で表示されます。

＊設定されている測光方式をもとに測光を行って、適正露出を算出します。

・✱ボタンを押すと、自動的にシャッタースピードまたは絞り数値がシフトして適正露出に設定されます(MFアイコン、アイコン選択時を除く)。このとき、シャッタースピードが選択されている場合は絞り数値が変更され、絞り数値が選択されている場合はシャッタースピードが変更されます。なお、露出補正をしたとき(p.127)は、✱ボタンを押すと、補正した露出にシフトします(露出レベル表示に、露出補正値が緑色の線で表示されます)。

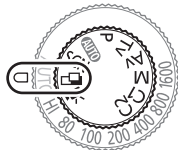
- 数値設定後にズームを調節すると、ズーム位置に応じてシャッタースピードや絞り数値が変更される場合があります(p.90)。
- 液晶モニターは、設定した絞り数値とシャッタースピードに応じた明るさで表示されます。速いシャッタースピードを設定した場合や、被写体が暗い場合、ストロボを(常時発光)にするか、外付けストロボを取り付けると、常に明るく表示されます。

パノラマ画像を撮る（スティッチアシスト）

設定可能な撮影モード 》p.284

スティッチアシストは、撮影した画像をパソコンで合成（スティッチ）し、パノラマ画像を作るときに使います。

複数の画像をつなぎ合わせて、パノラマ画像を作成できます。

1 モードダイヤルを に合わせる

2 撮影の方向を選ぶ

1. コントローラーホイールを回して撮影する方向を選ぶ

次の 5 つの方向が選べます。

- ・→ 左から右方向へ水平に撮影
- ・← 右から左方向へ水平に撮影
- ・↑ 下から上へ垂直に撮影
- ・↓ 上から下へ垂直に撮影
- ・左上を基点に時計回りに 4 画像撮影します。

3 最初の画像を撮影する

・1 画像目の撮影で、露出やホワイトバランスが固定されます。

4 最初の画像に重ね合わせて、次の画像を撮影する

・▲/▼ または◀/▶ ボタンを押すと、1 つ前の撮影済みの画像に戻り、撮影のやり直しができます（時計回り撮影のときは、全画像撮影のやり直しが可能）。

・重ね合わせる部分は多少ずれても、パソコンで合成するときに修正されます。

5 同様の操作で 3 画像目以降を撮影する

・最大 26 画像まで撮影できます（時計回りで撮影したときを除く）。

6 最後の画像を撮影後、(FUNC./SET) を押す

- 画像をテレビに表示しながらの撮影はできません。
- 2画像目以降の撮影では、最初の撮影の設定が適用されます。

パソコンでの画像合成は、付属のソフトウェア「PhotoStitch」をお使いください。

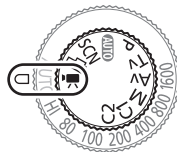
動画を撮る

設定可能な撮影モード 》p.284

1 回の最大記録容量は 4GB *で、カードの容量がいっぱいになるまで撮影できます（記録可能時間はお使いのカードによって異なります(p.268)）。
動画撮影には、次のモードがあります。

スタンダード	撮影中にデジタルズーム（p.66）が使えます。	p.24
ワンポイントカラー	画像の指定した色以外を白黒にして撮影できます。	p.138
スイッチカラー	指定した色を別の色に変えて撮影できます。	p.140

* 記録容量が 4GB に達していなくても、撮影時間が 1 時間に達した時点で記録を停止します。カードの容量やデータ書き込み速度により、4GB または 1 時間に満たなくても記録を停止する場合があります。

1 モードダイヤルを に合わせる

2 撮影モードを選ぶ

1. コントローラーホイールを回して選ぶ

・ 、 の手順は、「色を変えて撮る」（p.138）をご覧ください。

3 撮影する

・シャッターボタンを半押しすると、露出、フォーカス、ホワイトバランスを自動設定します。
・シャッターボタンを全押しすると撮影が開始され、同時に音声も記録されます。
・撮影中は、液晶モニターに記録時間と[●録画]が表示されます。
・再度シャッターボタンを全押しすると、撮影が終了します。なお、以下の場合は自動的に撮影が終了します。
- 最大記録容量を超えたとき
- カメラ内部のメモリーやカードの容量がいっぱいになったとき

- 動画を撮影するときは、このカメラで初期化したカードをお使いください（p.16、207）。
- 撮影中は、次のことに注意してください。
  - マイク（p.42）に触れないでください。
  - ボタンなどを押すとその音も記録されてしまいます。
  - 撮影状況に応じて、カメラが自動的に適切な露出、ホワイトバランスを調整します。カメラが自動的に露出を調整する音が、一緒に記録される場合もあります。
- フォーカス、光学ズームは、撮影を開始したとき（最初のフレーム）の設定値に固定されます。

- ズーム操作は撮影前に行ってください。液晶モニターに、光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率が表示されます。倍率が青色で表示されるときは、画像が粗くなります。
- 動画撮影前に、以下の操作ができます。
  - AF ロック：MF ボタンを押すと、その状態で AF ロックします。液晶モニターに MF と MF インジケーターが表示され、被写体までの距離を確認できます。もう一度 MF ボタンを押すと解除できます。
  - マニュアルフォーカス（p.121）
  - AE ロック、露出シフト：スキー場やビーチなど被写体と背景のコントラストが極端に強いシーンや、画面内に明るい場所と暗い場所が混在するシーンで、撮影意図に応じて露出を合わせたいときに有効です。
    1. ✱ボタンを押す
       露出が固定（AE ロック）され、液晶モニターに露出シフトバーが表示されます。
    2. コントローラーホイールを回して露出を変更する
       もう一度、✱ボタンを押すと解除できます。また、MENU ボタンを押したり、ホワイトバランス、マイカラー、撮影モードを変更すると解除されます。

記録画素数を変更する

	記録画素数	フレームレート
640	640 × 480	30 フレーム / 秒
320	320 × 240	30 フレーム / 秒

1 記録画素数を選ぶ

1. FUNC. SET を押す
2. ▲/▼ で 640 を選び、◀/▶ で変更する
3. FUNC. SET を押す

- カードの種類と記録可能画像数 / 時間（目安）、1 画面の容量（目安）（p.268）
- フレームレートは、1秒間に撮影/再生するフレーム数を表します。

録音の機能を設定する

設定可能な撮影モード 》p.284

動画、音声メモ（p.182）やサウンドレコーダー（p.183）のマイクレベル（録音音量）とウィンドカットを設定できます。

1 [オーディオ]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. ←/→ で[ ]メニューを選ぶ
3. ↑/↓ で[オーディオ]を選ぶ
4. (FUNC. SET) を押す

2 マイクを設定する

1. ↑/↓ で[マイク]を選ぶ
2. ←/→ で[オート]または[マニュアル]を選ぶ

・[マニュアル] の場合、↓ボタンを押して、←/→ボタンで録音レベル（録音音量）を設定します。液晶モニターに が表示されます。

3 ウィンドカットを設定する

1. ↑/↓ で[ウィンドカット]を選ぶ
2. ←/→ で[入]または[切]を選ぶ
3. MENU ボタンを押す

・風が強いときは［入］にすることをおすすめします。

・［入］にすると液晶モニターに が表示されます。

- ［オート］の場合、音割れを軽減するために、録音音量を自動的に調整します。
- ウィンドカットは、風が強いときに発生する雑音を低減できます。ただし、風がない場所で録音したときは、不自然な音になることがあります。

C カスタム登録する

設定可能な撮影モード 》p.284

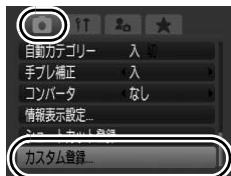
よく使う撮影モードや撮影時のさまざまな設定を、あらかじめ C（カスタム）に登録しておくことができます。必要なときにモードダイヤルを C1 または C2 に合わせるだけで、事前に登録した設定内容で撮影できます。他の撮影モードに切り換えたり、電源を切ると解除されてしまう設定（連続撮影、セルフタイマーなど）も保持されます。

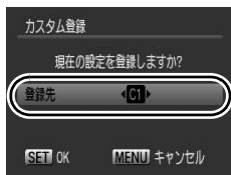
1 登録したい撮影モードにして内容を設定する

・C1/C2 に登録できる機能
- 撮影モード（P、Tv、Av、M）
- P、Tv、Av、Mで設定可能な項目（p.88 〜 93）
- 撮影メニューの設定内容
- ズーム位置
- マニュアルフォーカス位置
- マイメニューの設定項目

・すでに C1/C2 に登録した、設定の一部（撮影モード以外）を変更するときは、C1/C2 を選んで設定変更し、再度登録します。

2 [カスタム登録]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [ ]メニューから、↑/↓ で[カスタム登録]を選ぶ
3. FUNC.SET を押す

3 登録する

1. ←/→ で登録先[C1]または[C2]を選ぶ
2. FUNC.SET を押す
3. MENU ボタンを押す

- ISO 感度や露出補正は登録できませんので、C1/C2 で撮影するときは、それぞれ ISO ダイヤル、露出補正ダイヤルで設定してください。
- 設定内容は、他の撮影モードには反映されません。
- 登録内容をリセットできます（p.213）。

いろいろな撮影

コントローラーホイールでも撮影モードの選択やFUNC. メニューの設定内容の選択などが行えます。p.43 をご確認ください。

連続して撮る

設定可能な撮影モード 》p.284

シャッターボタンを全押ししている間、連続して撮影できます。

			撮影中のフォーカス	液晶モニターの表示
	連続撮影 約 1.3 画像 / 秒	短い撮影間隔で連続撮影できます。	固定*	撮影した画像
	AF 連続撮影 約 0.7 画像 / 秒	被写体を確認しながら連続撮影できます。シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影し、連写中もピント合わせが行われます（マニュアルフォーカス時を除く）。	オートフォーカス	撮影直前の被写体
	LV（Live View）連続撮影 約 0.7 画像 / 秒	マニュアルフォーカスで設定したピント位置を変えずに、被写体を確認しながら撮影できます。	固定*	撮影直前の被写体

＊ 1 画像目のピント位置で固定されます。

1 を押す

1. ▲/▼ で 、 または を選ぶ

2 撮影する

・シャッターボタンを全押ししている間は、撮影が続きます。シャッターボタンを放すと、撮影が終了します。

解除のしかた：手順 1 で を選ぶ

- では が初期設定になります。 は設定できません。
- 、マニュアルフォーカス時では は表示されません（ が選択できます）。
- 時は、AF 枠が［中央］で撮影されます（p.112）。
- 、 ではレックレビュー（p.18）を表示しません。
- フォーカスブラケット撮影および AEB 撮影では設定できません。

- カメラ内部のメモリーがいっぱいになると、撮影間隔が長くなります。
- 内蔵ストロボが発光する場合には、ストロボの充電時間が必要なため、撮影間隔が長くなります。

ストロボの詳細な設定をして撮る

設定可能な撮影モード 》 p.284

撮影状況に合わせて、内蔵ストロボと外付けストロボ*を詳細に設定できます。

*「外付けストロボを設定する」（p.252）をご覧ください。

内蔵ストロボの設定項目一覧

項目		内容	備考
発光モード		撮影モードが**Tv**または**Av**のとき、[マニュアル] にすると、発光量を設定できます。	ー
調光補正		標準調光を中心にー 2 ～+ 2 の範囲で 1/3 段ずつ変更できます。カメラの露出補正と併用することにより、背景の露出も補正したストロボ撮影ができます。	撮影モードが**Tv**または**Av**のときは、あらかじめ［発光モード］を［オート］に設定してください。
発光量		ストロボの発光量をフル発光まで3 段階で制御して撮影できます。	撮影モードが**Tv**または**Av**のときは、あらかじめ［発光モード］を［マニュアル］に設定してください。
シンクロ設定		ストロボ発光のタイミングを切り換えできます。	ー
	先幕	シャッタースピードにかかわらず、シャッターが開いた直後にストロボが発光します。通常はこちらで撮影します。	
	後幕	シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。ストロボ発光のタイミングが先幕発光より遅くなり、車のライトが後方に流れるような画像を撮影できます。	

項目	内容	備考
スローシンクロ	遅いシャッタースピードで、ストロボを発光して撮影します。夜景や室内の照明を利用した撮影などで、ストロボ発光時に背景だけが暗くなるのを軽減できます。	手ブレしやすくなりますので、三脚をお使いになることをおすすめします。
赤目自動補正	人物の目が赤く写ったときに、自動で補正します。	ー
赤目緩和ランプ	ストロボの光が反射して目が赤く写るのを軽減します。	ストロボの発光前にランプ（前面）が緑色に点灯します。
セーフティ FE	ストロボ発光時に、露出オーバーで適正露出が得られない場合、自動的に絞り数値やシャッタースピードがシフトして白とびを軽減し、適正露出で撮影できます。	撮影モードが**Tv**または**Av**のときは、あらかじめ［発光モード］を［オート］に設定してください。

赤目自動補正について

- ［赤目自動補正］を［入］にすると、補正後の画像のみカードに記録されます。
- 化粧などにより目の周りが赤いときは、赤目以外の部分を補正する場合があります。このようなときは［赤目自動補正］を［切］にして撮影してください。
- 画像によっては赤目が自動的に検出されなかったり、検出されても完全には補正されないなど、思いどおりに補正されない場合があります。このようなときは、再生メニューの［赤目補正］で補正することができます（p.170）。

[ストロボ制御]メニューの表示と設定のしかた

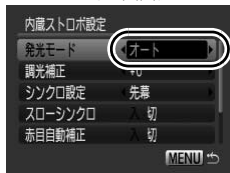
1 **[ストロボ制御]を選ぶ**

1. MENU ボタンを押す
2. [ ]メニューから、▲/▼ で[ストロボ制御]を選ぶ
3. (FUNC SET)を押す

・次の方法でも［ストロボ制御］を表示できます。
- ⚡を 1 秒以上押す
- ストロボモード変更時に MENU ボタンを押す（p.68）

2 **設定する**

1. ▲/▼ で項目を選ぶ
2. ◀/▶ で設定する
3. MENU ボタンを押す

Av モード時の画面例

3 **MENU ボタンを押す**

［調光補正］と［発光量］は、FUNC. メニューからも設定できます（p.53）。

ピントや人物の表情を確認する

設定可能な撮影モード 》 p.284

ピント位置を拡大表示して確認しながら撮影したり、撮影直後にピント位置を確認できます。

ピント位置を拡大表示して撮る

AF フレームモードを［AiAF］以外に設定したときは、AF フレームを中心に拡大表示して、ピントを確認しながら撮影することができます。なお、人物の表情を捉えたいときは AF フレームモードを［顔優先］に、マクロモードで撮影するときは［中央］または［アクティブ］にして、ピントを確認しながら撮影することをおすすめします。

1 [ピント位置拡大]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [ ]メニューから、↑/↓ で[ピント位置拡大]を選ぶ

2 設定する

1. ←/→ で[入]を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

3 シャッターボタンを半押しする

・AF フレームモード（p.112）の設定によって、次のように拡大表示されます。

［顔優先］のとき　　：カメラが主被写体と判断した顔が拡大される
［中央］のとき　　　：液晶モニターの中央が拡大される
［アクティブ］のとき：AF フレーム内が拡大される

4 そのままシャッターボタンを全押しして撮影する

以下のような場合は、拡大表示を行いません。
- [顔優先] 設定時、顔が検出されなかった場合や、画面全体に対して顔が大きすぎるとき
- ピントが合わないとき
- デジタルズームを使用しているとき
- テレビに表示しているとき
- サーボ AF（p.118）が [入] のとき

撮影直後にピント位置を確認する(フォーカスチェッカー)

撮影した画像のピントが確認できます。また、顔セレクト（p.116）や AF フレームモードを［顔優先］（p.112）で撮影したときは、顔の大きさに合わせた枠が表示されますので、顔の表情や目を閉じていないかなども、かんたんに確認できます。
なお、あらかじめ[📷]メニューの[撮影の確認]で、[ホールド]に設定することをおすすめします。

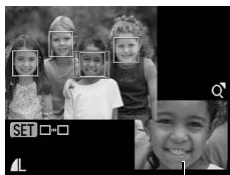
1 [レビュー情報]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [📷] メニューから、▲/▼ で [レビュー情報]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で[ピント確認]を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

3 撮影する

・撮影した画像が表示されます。

橙色の枠内表示

・枠が次のとおりに表示されます。

枠の色	内容
橙	右下に表示された画像の範囲を表示します。
白	撮影時にピント合わせを行った、AF フレームや顔の位置に表示されます。

・橙色の枠は、表示倍率の変更、表示位置の移動、表示フレームの切り換えができます（p.151）。

解除のしかた：シャッターボタンを半押しする

- 画像の表示中に、ボタンを押すと画像を消去できます（p.20）。
- 再生モードでも、ピントの確認ができます（p.150）。

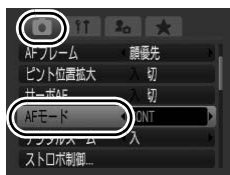
フォーカス設定を切り換えて撮る

設定可能な撮影モード 》 p.284

AF の設定を選択します。

CONT （コンティニュアス）	シャッターボタンを押さなくても、カメラを向けた位置へ常にピントを合わせます。とっさのシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。
SINGLE （シングル）	シャッターボタンを半押ししたときだけピントを合わせます。通常はピント合わせを行わないため、消費電力を抑えることができます。

1 **[AF モード]を選ぶ**

1. MENU ボタンを押す
2. [●] メニューから、▲/▼ で[AF モード]を選ぶ

2 **設定する**

1. ◀/▶ で AF の設定を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

AF フレームモードが［顔優先］［アクティブ］または［中央］のときに設定できます。［AiAF］のときは、［SINGLE］に固定されます（p.112）。

ピントの合わせかたを切り換える

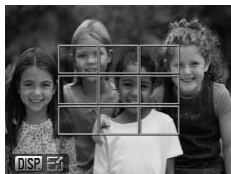
設定可能な撮影モード 》p.284

オートフォーカス枠(AF フレーム)は、ピントを合わせるための枠です。

┌ ┐ └ ┘	顔優先	カメラが自動的に顔を検出し、顔にピント、露出*1とホワイトバランス*2を合わせます。またストロボ発光時は、顔の明るさが適正になるように調光します。 *1 評価測光時のみ(p.131) *2 AWB 時のみ(p.133)
▦	AiAF	撮影状況に応じて、9 つの AF フレームの中からカメラが自動的に AF フレームを選択してピントを合わせます。AF フレームの大きさを変更できます(p.115)。
□	中央	AF フレームが中央に固定されます。画面中央の被写体にピントを合わせたいときにおすすめです。
←□→	アクティブ	任意の位置に AF フレームを移動してピントを合わせられます(アクティブフレームコントロール)。狙った被写体に確実にピントを合わせるときにおすすめします。AF フレームの大きさを変更できます(p.115)。

1 AF フレームモードを選ぶ

画面例:[AiAF]切り換え時

1. を押す
2. ボタンを押して AF フレームの種類を選ぶ
   - 押すたびに AF フレームの種類が切り換わります。
3. を押す

- [ ]メニューの[AFフレーム]からも選ぶことができます(p.54)。
- AF フレームのサイズを変更する(p.115)
- AF フレームの位置を変更する(p.114)

- 液晶モニターを非表示にすると、ピントの合わせかたが次のように変わります（[AiAF]、[中央］のみ設定できます）。
  - [顔優先]：[AiAF］に設定変更
  - [アクティブ]：[中央］に設定変更
- シャッターボタンを半押ししたときのAFフレームの表示は、次のとおりです。
  - 緑色：ピントが合っているとき
  - 黄色：ピントが合いにくいとき（[中央]、[アクティブ］設定時）
  - 非表示：ピントが合いにくいとき（[顔優先]、[AiAF］設定時）

顔優先について

- カメラが顔を検出すると、その位置にフレームが最大3つ表示されます。このとき、カメラが主被写体と判断した箇所に白色のフレーム、その他の箇所にグレーのフレームが表示されます。シャッターボタンを半押しし、ピントがあった場合は最大9つの緑色のAFフレームが表示されます。ピントを合わせたい人物を選ぶこともできます（p.116）。
- 白色のフレームが表示されず、グレーのフレームのみが表示された場合、または顔が検出されなかった場合、ピントの合わせかたが次のように変わります。
  - [SINGLE］選択時：[AiAF］で撮影（[サーボAF］が［入］のときは［中央］で撮影）
  - [CONT］選択時：[中央］で撮影
- 人物以外の被写体を、カメラが誤って顔と検知することがあります。
- 顔が検出されない主な例は、次のとおりです。
  - 顔が画面全体に対して極端に小さい、大きい、暗いまたは明るい
  - 顔が横や斜めを向いていたり、顔の一部が隠れている

AF フレームの位置を変更する（[AiAF]または[アクティブ]設定時）

任意の位置に AF フレームを移動できます。狙った被写体に、より確実にピントを合わせることができます。[AiAF] 設定時は、AF フレームを小さくすると、AF フレームを移動できます。

1 を押す

・AF 枠が緑色で表示されます。

2 コントローラーホイールを回して AF フレームを移動し、を押す

・▲/▼ または ◀/▶ ボタンを使うと、AF フレームの位置を微調整できます。
・ボタンを押し続けると、AF フレームが元の位置（中央）に戻ります。
・[アクティブ] 設定時に顔を検出したときは、MENU ボタンを押すごとに、AF フレームが顔の位置に移動します。

- 測光方式が［スポット測光］のときは、AF フレームをスポット測光枠と連動させることができます（p.131）。
- マニュアルフォーカス中（p.121）は、選択できません。
- 電源を切る、あるいは再生モードでレンズを収納する（p.44）と、AF フレームの位置は中央に戻ります。

AFフレームのサイズを変更する（[AiAF]または[アクティブ]設定時）

被写体に合わせて AF フレームの大きさを変更できます。狙った被写体が小さいときや、被写体の特定の部分にピントを合わせたいときに AF フレームを小さくすると、ピントを合わせたい範囲を絞り込めます。

1 **を押す**

- AF 枠が緑色で表示されます。

2 **DISP. を押す**

- DISP. ボタンを押すたびに、AF フレームの大きさが、標準↔小に切り換わります。
- シャッターボタンを半押ししたときにピントが合いにくい場合は、黄色の AF フレームが表示されます。
- ボタン（または FUNC./SET ボタン）を押すと、設定が完了します。

画面例：[AiAF]設定時

標準

小

- ［AiAF］設定時に AF フレームを小さくすると、液晶モニターの表示は右の画面のようになります。

デジタルズームやデジタルテレコン使用時、またはマニュアルフォーカス設定時は、標準のサイズに設定されます。

ピントを合わせたい人物を選んで撮る（顔セレクト）

設定可能な撮影モード 》p.284

特定の人物の顔を選んでピントを合わせ、一定の範囲で追尾することができます。なお、あらかじめ AF フレームモードを、［顔優先］に設定してください（p.112）。

1 ピントを合わせたい顔を選ぶ

1. 顔を検出した状態で を押す
   - 顔セレクトモードになり、主被写体に顔枠（⌜ ⌝）が緑色で表示されます。この枠は被写体が動いても、一定の範囲で追尾します。
   - 顔が検出されないときは、顔枠が表示されません。

顔枠

2. ピントを合わせたい人物を選ぶ
   - 顔が複数検出されたときは、◆/◆ ボタンまたはコントローラーホイールを回して顔枠を他の被写体に移動できます。
   - DISP. ボタンを押している間、カメラが検出した顔枠（最大 35 個）を表示します（緑色：主被写体の顔、白色：検出した顔）。

顔枠

3. もう一度 を押す
   - 顔セレクトモードを終了し、主被写体の顔枠（⌜ ⌝）が白色に変わります（一定の範囲で顔を追尾し続けます）。
   - ボタンを押し続けると、顔の指定を解除します。

2 シャッターボタンを半押しする

- 主被写体の顔枠（⌜ ⌝）が緑色の□に変わります。
- ピントが合いにくいときは顔枠が黄色で表示されます。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

以下の場合は顔セレクトを解除します。
- 電源を入れ直したとき
- 他の撮影モードに切り換えたとき
- デジタルズーム、デジタルテレコンを使用したとき
- MENU ボタンを押して、メニューを表示したとき
- 顔セレクトモードで選んだ顔が追尾できなくなってから数秒程度たったとき
- 液晶モニターを非表示に切り換えたとき

サーボ AF で撮る

設定可能な撮影モード 》 p.284

シャッターボタンを半押ししている間は、被写体にピントを合わせ続けるため、動いている被写体のシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。

1 [サーボ AF]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [◘] メニューから、▲/▼ で[サーボ AF]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で[入]を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

3 シャッターボタンを半押しする

- [顔優先]：シャッターボタンを半押ししている間、主被写体に青色の AF フレームが表示され、ピントを合わせ続けます。
- [中央]、[アクティブ]：シャッターボタンを半押ししている間、AF フレームが青色で表示され、ピントを合わせ続けます。

4 そのままシャッターボタンを全押しして撮影する

以下の場合は設定できません。
- AF フレームモードを［AiAF］に設定時
- 選択時
- MF 設定時

ピントが合いにくい被写体を撮る(フォーカスロック、AF ロック、マニュアルフォーカス、セーフティMF)

設定可能な撮影モード 》p.284

次のような被写体は、ピントが合わないことがあります。
- コントラストが極端に低い被写体
- 近いものと遠いものが混在する被写体
- 画像中央部が極端に明るい被写体
- 高速で移動する被写体
- ガラス越しの被写体

フォーカスロックで撮る

1 ピントを合わせたい被写体と同じ距離の別の被写体を、ファインダー中央または液晶モニターの AF フレームに収める

2 シャッターボタンを半押ししたまま、構図を決め直す

3 シャッターボタンを全押しする

AF ロックで撮る

1 液晶モニターをつける

2 ピントを合わせたい被写体と同じ撮影距離の別の被写体を、AF フレームに収める

3 シャッターボタンを半押ししながら、MF ボタンを押す

- MF と MF インジケーターが表示され、被写体までの距離を確認できます。

4 カメラの向きを変えて構図を決め、撮影する

解除のしかた：MF ボタンを押す

サーボ AF（p.118）が［入］の時は AF ロックできません。

- □□では、p.119 の手順で AF ロックできませんが、［ショートカット登録］に AFL を登録しておくと、AF ロックをお使いになれます（p.144）。
- □□、🎥ではAFフレームは表示されないので、狙った被写体にピントが合うようにカメラを向けてください。
- 液晶モニターを使って、フォーカスロックまたはAFロック撮影をする場合、［AF フレーム］を［アクティブ］または［中央］（p.112）にすると、AF フレーム 1 点だけが有効になるので、撮影しやすくなります。
- AF ロックは、シャッターボタンを放して構図を決められるので便利です。また、撮影後も AF ロックされたままなので、同じピントですぐに次の撮影ができます。
- ガラス越しの被写体を撮影するときは、できるだけガラスに近寄り、反射による写り込みのない状態で撮影してください。

マニュアルフォーカスで撮る

手動でピントを合わせて撮影します。

1 液晶モニターをつける

2 MF ボタンを押して、MF を表示する

MF インジケーター

・MF インジケーターが表示されます。

・［●］メニューの［MF 拡大表示］を［入］に設定すると、AF フレームを中心に画像が拡大表示*されます。なお、AF モード（p.111）の設定が［CONT］の場合は、コントローラーホイールを回すと拡大表示されます。また、AF フレームモード（p.112）の設定によって、拡大される位置が異なります。

- ［アクティブ］のとき：マニュアルフォーカスを設定する直前に AF フレームを表示していた位置が拡大される
- ［アクティブ］以外のとき：液晶モニターの中央が拡大される

＊拡大表示しない設定にもできます（p.54）。また、動画、デジタルズーム時、デジタルテレコン時や、テレビに表示しているときは、拡大表示されません。

・撮影モードによって、◉ボタンを押すと、コントローラーホイールで設定できる項目が、以下のように切り換わります。

SCN	SCN モード / MF
動画	動画 モード / MF
P	測光方式 / MF
Tv	シャッタースピード / 測光方式 / MF
Av	絞り数値 / 測光方式 / MF
M	シャッタースピード / 絞り数値 / 測光方式 / MF

3 コントローラーホイールを回して、ピントを合わせる

・MF インジケーターはピント位置の目安です。表示される数値を目安に撮影してください。

解除のしかた：MF ボタンを押す

マニュアルフォーカス中は AF フレームの変更はできません。AF フレームを変更するときは、一度マニュアルフォーカスを解除してください。

マニュアルフォーカスとAFを組み合わせて撮る(セーフティMF)

初めにマニュアルフォーカスでおおよそのピントを合わせ、その位置の近傍を自動的にスキャンして、正確なフォーカス位置を検出できます。次の 2 つの方法があります。

■ ボタンで設定する

1 マニュアルフォーカスでピントを合わせ、ボタンを押す

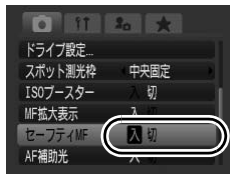
・電子音が鳴り、最もピントの合う位置にフォーカスが微調整されます。

■ セーフティMF を設定する

1 [セーフティMF]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [ ] メニューから、▲/▼ で[セーフティMF]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で[入]を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

3 マニュアルフォーカスでピントを合わせてから、シャッターボタンを半押しする

・最もピントの合う位置にフォーカスが微調整されます。

4 そのままシャッターボタンを全押しして撮影する

フォーカスを自動的に変えて撮る(フォーカスブラケット撮影)

設定可能な撮影モード 》p.284

マニュアルフォーカスで設定したピント位置を中心に、設定した後ろ寄りと前寄りのピント位置の順に自動的に 3 画像を撮影できます。3 画像は、連続撮影（p.103）と同じ間隔で撮影されます。
後ろ寄り、前寄りのピント位置は、大・中・小の 3 段階で設定できます。

ストロボ発光時はフォーカスブラケット撮影ができません。通常の 1 画像撮影になります。

1 フォーカスブラケットを選ぶ

1. (FUNC. SET) を押す
2. ▲/▼ で 〔BKT-Off〕 を選び、◀/▶ で 〔Focus-BKT〕 を選ぶ
3. DISP. ボタンを押す

2 設定する

1. ◀/▶ でピント位置の変更量を設定する
2. (FUNC. SET) を押す

・▶ボタンを押すと間隔が広くなり、◀ボタンを押すと狭くなって、中心に近い位置でピントを合わせます。

3 マニュアルフォーカス(p.121)で撮影する

解除のしかた：手順 1 で 〔BKT-Off〕(BKT-Off) を選ぶ

✱ 露出を固定して撮る（AE ロック）

設定可能な撮影モード 》p.284

露出とピントを別々に決めて撮影できます。被写体と背景のコントラストが極端に強いときや、逆光下での撮影などに有効です。

ストロボは必ず に設定し、ストロボを発光させないでください。ストロボ発光時は、FE ロックで撮影されます（p.126）。

1 液晶モニターをつける

2 露出を固定したい被写体にカメラを向ける

3 シャッターボタンを半押ししながら、✱を押す

・露出が固定され、 が表示されます。

4 カメラの向きを変えて構図を決め、撮影する

解除のしかた：✱ボタン、またはコントローラーホイール以外のボタンを操作する

- 動画のときも、AE ロックの設定 / 解除ができます（p.98）。
- AEロック後に、露出を固定したままISO感度を変更できます。

シャッタースピードと絞り数値の組み合わせを変える

自動的に設定されたシャッタースピードと絞り数値の組み合わせを、同じ露出のままで自由に変えて撮影できます（プログラムシフト）。

1 **露出を固定したい被写体にカメラを向ける**

2 **シャッターボタンを半押ししながら、✱ボタンを押す**

・露出が固定され、液晶モニターに✱が表示されます。

Tv バー　**Av** バー

3 **コントローラーホイールを回して、シャッタースピードと絞り数値の組み合わせを変える**

4 **構図を決め直して撮影する**

・撮影が終了すると、設定は解除されます。

✱FE ロックで撮る

設定可能な撮影モード ≫ p.284

被写体が構図のどこにあっても、適正な露出でストロボ撮影ができます。

1 液晶モニターをつける

2 ⚡を押して、⚡（常時発光）を選ぶ

・外付けストロボをお使いの場合は、お使いのストロボの取扱説明書をご覧ください。

3 露出を固定したい被写体にカメラを向ける

4 シャッターボタンを半押ししながら、✱を押す

・ストロボがプリ発光し、露出が固定されます。

・液晶モニターに✱が表示されます。

5 カメラの向きを変えて構図を決め、撮影する

解除のしかた：✱ボタン、またはコントローラーホイール以外のボタンを操作する

［ストロボ制御］メニューの［発光モード］が［マニュアル］のときは、FE ロックできません。

露出を補正する

設定可能な撮影モード 》 p.284

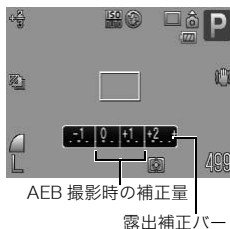
逆光や背景が明るい場所での撮影で、被写体が暗くなってしまう場合はプラス側に、夜景や背景が暗い場所での撮影で、被写体が明るくなってしまう場合にはマイナス側に露出を補正します。

1 露出を補正する

1. 露出補正ダイヤルを回して補正する

・露出補正できる撮影モードでは、露出補正ランプが橙色に点灯します。
・液晶モニターに露出補正バーと補正した結果が表示されます。
・AEB 撮影（p.129）するときは、AEB 撮影の補正量が表示されます。

AEB 撮影時の補正量

露出補正バー

解除のしかた：手順 1 で補正値を「0」に戻す

動画のときは露出シフトの設定 / 解除ができます（p.98）。

暗い部分を明るくして撮る(暗部補正)

設定可能な撮影モード 》p.284

撮影シーンにより人の顔や被写体が暗くなるときは、人の顔や暗い部分を検出し、明るくなるよう自動補正して撮影することができます。

1 [暗部補正]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [ ]メニューから、▲/▼ で[暗部補正]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で[自動]を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

RAW選択時は設定できません。

- 撮影シーンによっては、思いどおりに補正されないことがあります。
- 撮影した画像も再生メニューの［暗部補正］で補正できます(p.175)。

露出を自動的に変えて撮る（AEB 撮影）

設定可能な撮影モード ≫ p.284

設定した露出補正量の幅に従って、カメラが自動的に露出を変えながら、連続撮影（p.103）と同じ間隔で 3 画像撮影します。標準露出、マイナス補正、プラス補正の順で撮影します。

1 AEB を選ぶ

1. FUNC./SET を押す
2. ▲/▼ で 🄴 を選び、◀/▶ で ▨ を選ぶ
3. DISP. ボタンを押す

2 露出の補正量を調整する

1. ◀/▶ で露出の補正量を調整する
2. FUNC./SET を押す

・補正量は、標準露出（露出補正をしたときは、設定した露出補正値）を中心に－ 2 ～＋ 2 段の範囲で 1/3 段ずつ設定できます。なお、すでに露出補正（p.127）をしている場合は、その設定値を中心に設定できます。

解除のしかた：手順 1 で 🄴 を選ぶ

ストロボ発光時は AEB 撮影ができません。通常の 1 画像撮影になります。

ND フィルターを使う

設定可能な撮影モード 》p.284

光量を 1/8 に減少（3 段分）できるので、シャッタースピードを遅くしたり、絞り値を小さくしたりできます。

手ブレを防ぐため、三脚を使って撮影してください。

1 ND を選ぶ

1. FUNC. SET を押す
2. ▲/▼ で ND を選び、◀/▶ で ND を選ぶ
3. FUNC. SET を押す

解除のしかた：ND を選ぶ

測光方式を切り換える

設定可能な撮影モード 》 p.284

	測光方式		説明
	評価測光		逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。画面内を多分割して測光します。画面内の被写体の位置、明るさ、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出で撮影します。
	中央部重点平均測光		画面中央部の被写体に重点を置きながら、画面全体を平均的に測光します。
	スポット測光		「スポット測光枠」内を測光します。被写体と周囲の明るさの差が大きいときに使います。
		中央固定	スポット測光枠を液晶モニターの中央部に固定します。
		AF 枠連動	スポット測光枠を AF フレームに連動させます。AF フレームが［アクティブ］のときのみ設定できます（p.112）。

1 測光方式を変更する

1. を押す
2. コントローラーホイールを回して選ぶ

・撮影モードによって、ボタンを押すたびに、コントローラーホイールで設定できる項目が、以下のように切り換わります。

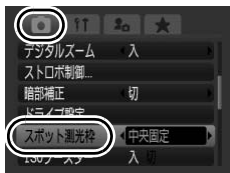
Tv	シャッタースピード / 測光方式
Av	絞り数値 / 測光方式
M	シャッタースピード / 絞り数値 / 測光方式

スポット測光枠を中央固定にする/AFフレームに連動させる

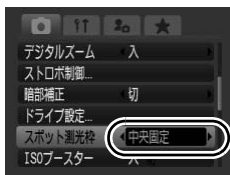
1 **[アクティブ]を選ぶ**

1. MENU ボタンを押す
2. [📷]メニューから、▲/▼ で[AF フレーム]を選ぶ
3. ◀/▶ で[アクティブ]を選ぶ

2 **[スポット測光枠]を選ぶ**

1. ▲/▼ で選ぶ

3 **設定する**

1. ◀/▶ で[中央固定]または[AF 枠連動]を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

・[中央固定]:液晶モニター中央にスポット測光枠が表示されます。
・[AF 枠連動]:移動させた AF フレームの位置にスポット測光枠が表示されます。

色合いを調整する(ホワイトバランス)

設定可能な撮影モード 》p.284

通常は、AWB(オート)で最適なホワイトバランスが自動設定されます。AWBで自然な色合いにならないときは、ホワイトバランスを変更し、撮影時の光源に合った適正な色で撮影します。

AWB	オート	自動設定
	太陽光	晴天の屋外
	くもり	曇天や日陰、薄暮
	電球	電球、電球色タイプ(3 波長型)の蛍光灯
	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ(3 波長型)の蛍光灯
	蛍光灯 H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ(3 波長型)の蛍光灯
	ストロボ	ストロボ使用時(では設定できません)
	水中	ウォータープルーフケース WP-DC28(別売)を使った水中での撮影に最適です。水中に最適なホワイトバランスに設定され、青みをおさえた自然な色合いで撮影できます。
	マニュアル	白い紙や布など、基準としたい白色をカメラに記憶させ、その撮影状況下で最適なホワイトバランスとして設定します。

1 ホワイトバランスを選ぶ

1. FUNC. SET を押す
2. ▲/▼ で AWB を選び、◀/▶ で変更する
3. FUNC. SET を押す

マイカラーが Se BW の場合、ホワイトバランスは設定できません。

マニュアルホワイトバランスの使いかた

次のような場合、AWB（オート）では、ホワイトバランスが調整できないことがありますので、(マニュアル 1)または(マニュアル 2)で白データを取り込んでから撮影してください。

・単一な色の被写体（空、海、森など）を撮影するとき
・水銀灯などの特殊な光源で撮影するとき
・至近距離（マクロ）で撮影するとき

1 **を選ぶ**

1. FUNC. SET を押す
2. ▲/▼ で AWB を選び、◀/▶ で または を選ぶ

▼

2 **白い紙や布にカメラを向け、DISP. ボタンを押す**

・液晶モニターの画面いっぱいに白い紙や布を表示させてください。ただし、デジタルズーム使用時や T が表示されているときは、中央の枠は表示されません。
・光学ファインダーを使っても白データの取り込みができます。

3 **FUNC. SET を押す**

- 撮影モードを**P**にし、露出補正を±0にすることをおすすめします。適正露出でない場合（真っ黒や真っ白）は、白データを正しく取り込めないことがあります。
- ストロボ撮影時に近距離で白データを取り込むと、適正露出とならない場合があります。白データを取り込んだあと、適切な色合いになっていることを確認してください。適切な色合いになっていないときは、基準としたい白い紙や布との距離をさらに離して、再度白データを取り込んでください。
- 白データを取り込んだときと同じ条件で撮影してください。条件が異なると、最適なホワイトバランスが設定できないことがあります。特に以下の条件は変更しないでください。
  - ISO 感度
  - ストロボ：⚡または⊛にしておくことをおすすめします。⚡Aで白データ取り込みの際にストロボが発光した場合は、撮影時もストロボを発光させてください。
- スティッチアシストでは、白データの取り込みはできません。あらかじめ他の撮影モードで白データを取り込んでおいてください。
- 取り込んだ白データは、電源を切っても記憶されます。

画像の色調を変えて撮る(マイカラー)

設定可能な撮影モード 》p.284

画像の印象を変えて撮影できます。

アイコン	項目	内容
OFF	マイカラー切	通常設定
V	くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした色合いにします。
N	すっきりカラー	コントラストと色の濃さを抑え、すっきりとした色合いにします。
Se	セピア	セピア色にします。
BW	白黒	白黒にします。
P	ポジフィルムカラー	「あざやかブルー」・「あざやかグリーン」・「あざやかレッド」の効果を合わせたもので、青、緑、赤色をより鮮やかにします。ポジフィルムのようにナチュラルで色鮮やかな画像が撮影できます。
L	色白肌*	人物の肌を色白にします。
D	褐色肌*	人物の肌を褐色にします。
B	あざやかブルー	青色を強調します。空や海などの青い被写体をより鮮やかに撮影できます。
G	あざやかグリーン	緑色を強調します。山や新緑、草花、芝生などの緑の被写体をより鮮やかに撮影できます。
R	あざやかレッド	赤色を強調します。赤い花や赤い車などの赤い被写体をより鮮やかに撮影できます。
C	カスタムカラー	コントラスト/シャープネス/色の濃さを調節したり、赤/緑/青/肌色*のバランスを変更したりして撮影します。「青色をもう少し鮮やかに」や「顔色をもう少し明るく」といった微調整ができます。

* 被写体に人物以外の肌色が含まれている場合は、その被写体の色も変更されることがあります。また、肌の色によっては、効果が現れない場合があります。

記録画素数が RAW の場合、マイカラーは設定できません。

OFF V N Se BW P L D B G R のとき

1 マイカラーを設定する

1. FUNC/SET を押す
2. ▲/▼ で OFF を選び、◀/▶ で変更する
3. FUNC/SET を押す

C のとき（カスタムカラーモードを設定する）

1 C を選ぶ

1. FUNC/SET を押す
2. ▲/▼ で OFF を選び、◀/▶ で C を選ぶ

2 調節する

1. DISP. ボタンを押す
2. ▲/▼ で[コントラスト]、[シャープネス]、[色の濃さ]、[赤]、[緑]、[青]、[肌色]のいずれかを選ぶ
3. ◀/▶ で調節する
   - ・調節した結果が表示されます。
   - ・DISP. ボタンを押すと、マイカラーモードを選ぶ画面に戻ります。

4. FUNC/SET を押す
   - ・撮影画面に戻り、撮影します。

項目を選ぶ　調節する

色を変えて撮る

設定可能な撮影モード ≫ p.284

画像の色を簡易的に変化させて撮影します。静止画だけでなく、動画でも利用でき、画像効果や映像効果を演出した撮影が楽しめます。ただし、撮影状況によっては、画像が粗くなったり、思い通りの色にならないことがあります。そのため、大切なシーンを撮影するときには、必ず事前に試し撮りすることをおすすめします。なお、静止画の場合には、[オリジナル保存]機能（p.142）を[入]にすれば、撮影した画像だけでなく、オリジナル画像（元画像）も記録できます。

	ワンポイントカラー	画面内の指定した色のみを残し、それ以外を白黒にして撮影できます。
	スイッチカラー	画面内の指定した色を別の色に変更して撮影できます。別の色の取り込みは 1 色のみで、複数の色から選択はできません。

撮影シーンによっては、ISO 感度が上がり、画像にノイズが増えることがあります。

ワンポイントカラーモードで撮影する

1 または を選ぶ

静止画のとき

1. モードダイヤルを SCN に合わせる
2. コントローラーホイールを回して を選ぶ

動画のとき

1. モードダイヤルを に合わせる
2. コントローラーホイールを回して を選ぶ

静止画時

動画時

2 DISP. を押す

・色取り込みモードになり、オリジナルの画像とワンポイントカラーの画像（前回設定した指定色が反映）が交互に表示されます。

3 液晶モニターの中央の枠内に、残したい色が入るようにカメラを向け、◆ボタンを押す

・指定できるのは 1 色です。

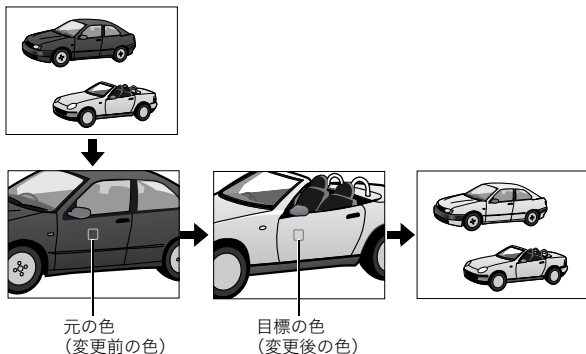
・▲/▼ ボタンまたはコントローラーホイールで、残したい色の範囲を変更できます。

　－５：残したい色だけを取り込みます。

　＋５：残したい色に近い色も一緒に取り込みます。

4 DISP. を押して設定を終了し、撮影する

- ワンポイントカラーの初期設定色は緑です。
- ストロボを発光して撮影すると、思いどおりの画像にならない場合があります。
- 指定した色と色の取り込み範囲は、電源を切っても記憶されます。

スイッチカラーモードで撮影する

1 または を選ぶ

静止画のとき

1. モードダイヤルをSCNに合わせる
2. コントローラーホイールを回して を選ぶ

動画のとき

1. モードダイヤルを に合わせる
2. コントローラーホイールを回して を選ぶ

静止画時

動画時

2 DISP. を押す

・色取り込みモードになり、オリジナルの画像とスイッチカラーの画像（前回設定した指定色が反映）が交互に表示されます。

3 液晶モニターの中央の枠内に､元の色が入るようにカメラを向け､◆ボタンを押す

・指定できるのは 1 色です。

・▲/▼ ボタンまたはコントローラーホイールを回して､変えたい色の範囲を変更できます。
　－ 5：変えたい色だけを取り込みます。
　＋ 5：変えたい色に近い色も一緒に取り込みます。

4 液晶モニターの中央の枠内に､目標の色が入るようにカメラを向け､◆ボタンを押す

・指定できるのは 1 色です。

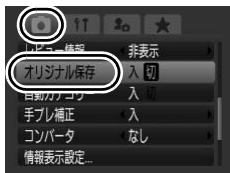
5 DISP. を押して設定を終了し､撮影する

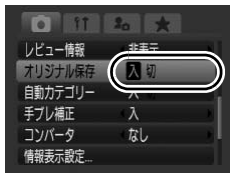
- スイッチカラーの初期設定色は、緑を白に変えて撮影するように設定されています。
- ストロボを発光して撮影すると、思いどおりの画像にならない場合があります。
- 指定した色と色の取り込み範囲は、電源を切っても記憶されます。

オリジナル画像の保存方法を変更する

ワンポイントカラーやスイッチカラーで静止画を撮影するときは、色を変えた画像だけでなく、オリジナル画像（色を変える前の画像）も記録するかどうかを設定できます。

1 [オリジナル保存]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [ ]メニューから、▲/▼ で[オリジナル保存]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で[入]または[切]を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

[オリジナル保存]を[入]に設定した場合

- 撮影直後、液晶モニターには、ワンポイントカラーまたはスイッチカラーで撮影した画像が表示されます。このとき画像を消去すると、オリジナル画像も同時に消去されますので、十分に確認してから消去してください。
- 1 回の撮影で 2 画像記録されるため、液晶モニターに表示される記録可能画像数は、設定が［切］の場合の半分になります。
- 画像番号は連番になります。オリジナル画像が早い番号、ワンポイントカラーやスイッチカラーで撮影した画像が後の番号です。

画像を自動で分類する(自動カテゴリー)

設定可能な撮影モード 》p.284

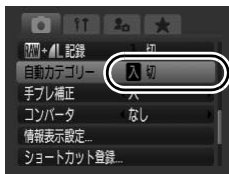
自動カテゴリーを［入］にすると、撮影時、画像はあらかじめ用意されたカテゴリーに分類されます。

	人物	、、で撮影した画像、または、顔セレクトや AF フレームモードを［顔優先］で撮影したときに、顔を検出した画像
	風景	、、、で撮影した画像
	イベント	、、、、、、で撮影した画像

1 [自動カテゴリー]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [　]メニューから、▲/▼ で[自動カテゴリー]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で[入]または[切]を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

動画など、自動的に分類されない画像でも、マイカテゴリー（p.154）でカテゴリー分けができます。

ボタンに機能を登録する

設定可能な撮影モード 》p.284

撮影時によく使う機能を、ボタンに1つだけ登録できます。

項目	参照先
無効	−
ND フィルター	p.130
ホワイトバランス	p.133
マニュアル WB1、2 (ホワイトバランス)	p.134

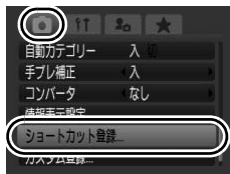
項目	参照先
赤目自動補正	p.105
デジタルテレコン	p.67
暗部補正	p.128
AF ロック	p.119
ディスプレイオフ	p.145

1 [ショートカット登録]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [ ] メニューから、▲/▼ で[ショートカット登録]を選ぶ
3. (FUNC. SET) を押す

2 設定する

1. ▲/▼ または ◀/▶ で登録したい機能を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す
3. MENU ボタンを押す

ショートカット登録
無効
SET OK　MENU キャンセル

・アイコンの右下に⊘が表示されていても、機能の登録はできますが、撮影モードまたは設定によっては、ボタンを押してもお使いになれません。

解除のしかた：手順2でを選ぶ

ボタンを使う

1 を押す

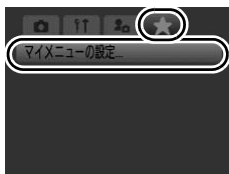
- ・、、：ボタンを押すたびに、登録されている機能の設定が切り換わります。
- ・、：設定画面が表示されます。
- ・、：ボタンを押すたびに白データを取り込みます。液晶モニターの画面いっぱいに白い紙や布を表示させて、ボタンを押してください。なお、一度この機能を使うと、ホワイトバランスの設定はまたはに変更されます。
- ・：ボタンを押すたびに AF ロックを行います。
- ・：ボタンを押すと液晶モニターの表示が消えます。電源ボタン以外のボタンを押すか、カメラの縦・横の向きを変えると復帰します。

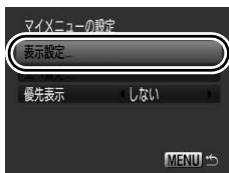
マイメニューを設定する

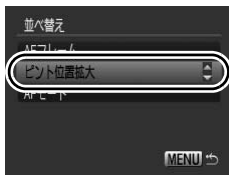
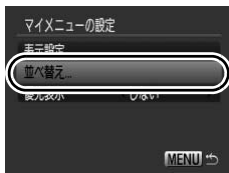
設定可能な撮影モード 》 p.284

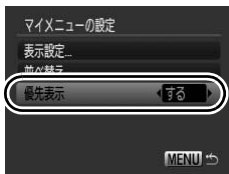
よく使う撮影メニューをマイメニューに登録すると、メニューが 1 つの画面に表示できるため、すばやく設定変更できます。また、撮影モードで MENU ボタンを押したときに、すぐにマイメニューを表示することもできるので、便利です。

1 [マイメニューの設定]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. ←/→ で[★]を選ぶ
3. ↑/↓ で[マイメニューの設定]を選ぶ
4. (FUNC. SET) を押す

2 登録する撮影メニューを選ぶ

1. ↑/↓ で[表示設定]を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す
3. ↑/↓ で登録したいメニューを選ぶ
4. (FUNC. SET) を押す
   - 5 つまで登録できます。
   - 登録を解除したいときは、FUNC./SET を押して ✓ を消します。
   - 項目がグレーになっていても設定はできます。ただし、撮影モードによってはお使いになれない場合があります。
5. MENU ボタンを押す

3 メニューの表示順を変更する

1. ▲/▼ で[並べ替え]を選ぶ
2. (FUNC SET) を押す
3. ▲/▼ で表示順を変更する撮影メニューを選ぶ
4. (FUNC SET) を押す
5. ▲/▼ で順番を変更する
6. FUNC./SET ボタンを押す
7. MENU ボタンを押す

4 優先表示を設定する

1. ▲/▼ で[優先表示]を選ぶ
2. ◀/▶ で[する]を選ぶ
   - [する]：MENU ボタンを押したときに[マイメニュー]が表示されます。
   - [しない]:MENU ボタンを押したときに［撮影メニュー］が表示されます。

再生 / 消去する

再生モードでは、コントローラーホイールを回しても画像を選べます。反時計回りで前の画像、時計回りで次の画像を表示できます。「静止画を見る」（p.19）もご確認ください。

拡大して見る

1 ズームレバーを側に押す

- 拡大表示になります。
- 約 10 倍まで拡大できます。

表示位置の目安

2 ▲/▼ または ◀/▶ で表示位置を変更する

- 拡大再生中にコントローラーホイールを回すと、拡大したまま前または次の画像を表示できます。
- ズームレバーで倍率を変更できます。

解除のしかた：ズームレバーを側に押す（MENU ボタンを押すと、すぐに解除できます。）

、インデックス再生時は拡大表示できません。

9画像ずつまとめて見る（インデックス再生）

1 **ズームレバーを側に押す**

- 9画像ずつ表示されます。
- ▲/▼/◀/▶ボタンまたはコントローラーホイールを回して、選択画像を切り換えます。

解除のしかた：ズームレバーを側に押す

9画像ずつ表示を切り換える

インデックス再生中にボタンを押すと、ジャンプバーが表示され、9画像ずつ表示の切り換えができます。

- ズームレバーを側に押しても切り換えができます。
- ◀/▶ボタンまたはコントローラーホイールを回して、前または次の9画像を表示します。
- FUNC./SETボタンを押しながら◀/▶ボタンを押すと、最初または最後の9画像を表示します。

解除のしかた：ボタンを押す

ピントや人物の表情を確認する(フォーカスチェッカー)

ピント確認表示にすると、ピントや人物の表情が確認できます。また、表示倍率の変更や画像の切り換えもできるため、顔の表情や目を閉じていないかなどもかんたんに確認できます。

表示する

1 ピント確認表示になるまで、DISP. ボタンを数回押す

・画像に枠が次のとおりに表示されます。

枠の色	内容
橙	右下に表示された画像の範囲を表示します。
白	撮影時にピント合わせを行った、AF フレームや顔の位置に表示されます。
グレー	再生時に検出された顔の位置に表示されます。

・橙色の枠は、表示倍率の変更、表示位置の移動、表示フレームの切り換えができます（p.151）。

表示倍率や表示位置を変更する

2 **ズームレバーを Q 側に押す**

・画面右下が大きく表示され、表示倍率や表示位置が変更できる状態になります。

3 **変更する**

・ズームレバーを操作すると、表示倍率が変更できます。
・ ↑/↓ または ←/→ で表示位置が変更できます。
・ピント合わせを行った AF フレームや顔の検出が 1 つまたは 0 のときは、FUNC./SET ボタンを押すと、橙色の枠が元の位置に戻ります（顔枠の表示倍率を変更したときは、枠の大きさが顔のサイズに戻ります）。

解除のしかた：MENU ボタンを押す

フレームを切り換える

2 **FUNC./SET を押す**

・ピント合わせを行った AF フレームや顔の検出が複数あるときは、FUNC./SET ボタンを押すごとに、橙色の枠の位置が切り換わります（顔枠の表示倍率を変更したときは、枠の大きさが顔のサイズに戻ります）。

目的の画像にジャンプする

カードにたくさんの画像を記録しているときは、次の検索キーでジャンプしながら目的の画像を探し出すと便利です。

	日付ジャンプ	各撮影日の先頭画像を表示します。
	マイカテゴリージャンプ	自動カテゴリー（p.143）やマイカテゴリー（p.154）で分類された各カテゴリーの先頭画像を表示します。
	フォルダジャンプ	各フォルダの先頭画像を表示します。
	動画ジャンプ	動画を表示します。
	10 枚ジャンプ	10 枚先の画像を表示します。
	100 枚ジャンプ	100 枚先の画像を表示します。

1 シングル再生時に、を押す

・検索ジャンプモードになります。

2 ▲/▼ で検索キーを選ぶ

・検索キーによって、画面例は若干異なります。

・DISP. ボタンで、画像情報の表示 / 非表示の切り換えができます。

3 画像を表示する

、、のとき

絞り込む対象を選ぶ

1. ←/→ で再生したい日付、カテゴリー、フォルダを選ぶ
   - コントローラーホイールを回すと、絞り込む対象の画像を確認できます。
   - 画像のカテゴリー分類が全くされていない状態でを選ぶと検索キーは（なし）しか選択できません。
2. (FUNC. SET) を押す

- 絞り込み再生モードに変わり、青い枠が表示されます。検索キーで指定した画像だけを再生できます。
- ボタンを押すと、絞り込み再生モードを解除します。

、、、のとき

1. ←/→ を押す

- MENU ボタンを押すと解除します。
- のときは、FUNC./SET ボタンを押すと、絞り込み再生モードに変わり、青い枠が表示されます。

以下のような操作を行うと、絞り込み再生モードが解除されます。
- カテゴリーを変更したとき（マイカテゴリーで絞り込み中のとき）
- 画像を範囲で指定する際、FUNC./SET ボタンを押して、始点や終点画像を表示したとき
- 絞り込み対象以外の画像を表示したとき（範囲指定時を除く）
- 画像を加工や編集して、新規に保存したとき
- ［▶］メニューの［消去］から、画像を消去したとき

カテゴリーに分けて管理する(マイカテゴリー)

画像を、あらかじめ用意されているカテゴリーに分類し、カテゴリー単位で管理することができます。[自動カテゴリー]で記録された(p.143)カテゴリー情報も編集できます。また、1 つの画像を複数のカテゴリーに分類できます。カテゴリー分けをすると、次の操作が行えます。

・画像検索(p.152)　・スライドショー(p.165)
・プロテクト(p.185)　・消去(p.190)　・印刷指定(p.194)

	人物
	風景
	イベント

	マイカテゴリー 1 ～ 3
	作業用

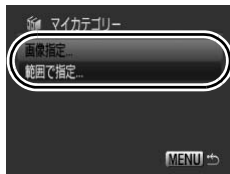
カテゴリーの指定方法

画像指定	画像を見ながら 1 画像ずつ指定します。
範囲で指定	始点の画像と終点の画像を指定し、その間のすべての画像に指定します。

1 [マイカテゴリー]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [ ]メニューから、▲/▼ で を選ぶ
3. (FUNC. SET) を押す

2 設定方法を選ぶ

1. ▲/▼ で選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

[画像指定]のとき

3 分類する

1. ←/→ で分類する画像を選ぶ
2. ↑/↓ でカテゴリーの種類を選ぶ
3. (FUNC. SET) を押す

・再度 FUNC./SET ボタンを押すと設定を解除できます。
・インデックス再生時も設定できます。
・MENU ボタンを押すと、設定を終了します。

[範囲で指定]のとき

3 始点の画像を選ぶ

・コントローラーホイールを回すと、始点または終点の画像を切り換えることができます。

1. (FUNC. SET) を押す
2. ←/→ で分類する範囲の始点の画像を選ぶ
3. (FUNC. SET) を押す

4 終点の画像を選ぶ

1. ➡ で[終点選択]を選ぶ
2. (FUNC SET) を押す

3. ⬅/➡ で分類したい範囲の終点の画像を選ぶ
4. (FUNC SET) を押す

・終点の画像には、始点の画像より早い番号の画像は指定できません。
・500 画像まで指定できます。

5 カテゴリーの種類を選ぶ

1. ⬇を押す
2. ⬅/➡ でカテゴリーの種類を選ぶ

6 設定する

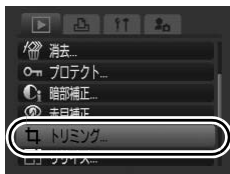
1. ⬇を押し、[設定]を選ぶ
2. (FUNC SET) を押す

・設定方法を選ぶ画面に戻ります。
・[解除] を選ぶと、選択した範囲のカテゴリー分けを解除します。

画像の一部を切り取る(トリミング)

撮影した画像の必要な部分を切り取り、新規保存できます。

1 [トリミング]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [▶] メニューから、▲/▼ で 切 を選ぶ
3. (FUNC. SET) を押す

2 トリミングする画像を選ぶ

1. ◀/▶ で選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・トリミング枠（画像を切り取りできる範囲）が緑枠で表示されます。

トリミング枠

トリミング後の画像

3 トリミング枠を調節する

・ズームレバーでトリミング枠の大きさを変更できます。ただし、切り取る画像の大きさによって保存される記録画素数が異なります。
・▲/▼ または ◀/▶ でトリミング枠の位置を変更できます。
・DISP. ボタンで、トリミング枠の縦横を変更できます。

トリミング後の記録画素数

・顔を検出した場合は、左上の画面の顔の位置に枠がグレーで表示され、枠を中心にして、トリミングができます。複数の枠が表示されたときは、コントローラーホイールを回すと枠を切り換えることができます。

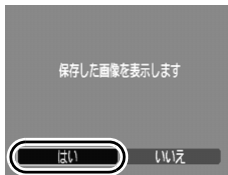
4 保存する

1. FUNC.SET を押す
2. ←/→ で[OK]を選ぶ
3. FUNC.SET を押す

・トリミングした画像が新規保存されます。
・引き続き、他の画像をトリミングしたいときは、手順 2 から繰り返します。

5 保存した画像を表示する

1. MENU ボタンを押す
2. ←/→ で[はい]を選ぶ
3. FUNC.SET を押す

・[いいえ] を選んだ場合は、再生メニューに戻ります。

- S、XS、W、RAW の画像や動画はトリミングできません。
- 他のカメラで撮影した画像はトリミングできない場合があります。
- トリミングできる画像の縦横比率は 4:3(縦の場合は 3:4)固定となります。
- トリミングした画像の記録画素数は、トリミング前の画像より小さくなります。

動画を見る

1 動画を表示する

1. ←/→ で動画を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・ SET 🎬 の表示されている画像が動画です。

2 再生する

1. ←/→ で ▶ を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・再生中に FUNC./SET ボタンを押すと、再生が一時停止します。再度ボタンを押すと再開します。
・再生が終了すると、最終フレームが表示されたままで停止します。FUNC./SET ボタンを押すと、動画再生パネルが表示されます。
・動画再生中に DISP. ボタンを押すと、再生バーの表示 / 非表示の切り換えができます。
・前回、再生を中断した場合は、最後に再生したフレームから表示されます。

動画再生パネルの操作

⮌	終了	シングル再生画面に戻ります。
🖶	印刷	プリンター接続時*にアイコンが表示されます。詳細はダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。
▶	再生	再生します。
I▶	スロー再生	スロー再生の速度は、◆ボタンで遅く、◆ボタンで速くできます。
K◀	先頭フレーム	先頭フレームへ移動します。
◀II	フレーム戻し	FUNC./SET ボタンを押し続けると早戻しします。
II▶	フレーム送り	FUNC./SET ボタンを押し続けると早送りします。
▶▶I	最終フレーム	最終フレームを表示します。
✂	編集	編集モードに切り換えます。（p.161）

＊ (PictBridge（ピクトブリッジ)）接続できるプリンターのみ印刷できます。詳細はお使いのプリンターの使用説明書をご覧ください。

- インデックス再生時は、動画は再生できません。
- パソコンで動画を再生するとき、パソコンの環境によっては、画像がフレーム（コマ）落ちして滑らかな動きにならなかったり、音声が途切れる場合があります。

- テレビで動画を再生するときは、テレビで音量を調節してください（p.214）。
- スロー再生中、音声は再生されません。

動画を編集する

撮影した動画の一部分を削除できます。

編集前の長さが1秒以上の動画を1秒単位で編集できますが、プロテクトされている動画、撮影時間が1秒未満の動画は編集できません。

1 [編集]を選ぶ

1. 動画再生パネルから←/→で✂を選ぶ
2. (FUNC. SET)を押す

・動画編集パネルと動画編集バーが表示されます。

2 編集する

1. ↑/↓で(前部を削除)または(後部を削除)を選ぶ
2. ←/→で削除する位置を指定する

・←/→で削除する位置を動かしていくと、1秒ごとに✂が表示され、この位置で削除できます。
・削除する位置を✂以外の位置で指定しても、では1つ手前の✂の位置から前部を削除し、では1つ後ろの✂の位置から後部を削除して保存します。
・仮編集した動画を確認するときは、▶(再生)を選んでFUNC./SETボタンを押します。
・引き続き編集したいときは、手順2を繰り返します。
・(終了)を選ぶと動画編集を中止し、動画再生パネルに戻ります。

3 [保存]を選ぶ

1. ▲/▼ で を選ぶ
2. (FUNC./SET) を押す

4 保存する

1. ▲/▼ または ◀/▶ で[新規保存]または[上書き保存]を選ぶ
2. (FUNC./SET) を押す

・[新規保存]：新しいファイル名をつけて保存します。編集前のデータは残ります。保存中に FUNC./SET ボタンを押すと、保存を中止できます。
・[上書き保存]：編集前の画像と同じファイル名で保存されます。編集前のデータは残りません。
・カードの空き容量が足りないときは、上書き保存しかできません。

編集した動画を保存するとき、ファイル容量によっては時間がかかる場合があります。途中でバッテリーがなくなると、編集した画像が保存できないことがありますので、動画を編集するときは、フル充電のバッテリーあるいは AC アダプターキット ACK-DC50（別売）のご利用をおすすめします（p.242）。

回転して表示する

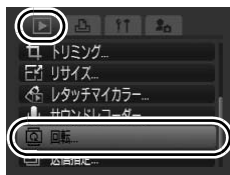
時計方向に 90 度、270 度に回転して表示します。

元画像

90 度

270 度

1 [回転]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [▶] メニューから、▲/▼ で 回転アイコン を選ぶ
3. FUNC./SET を押す

2 回転する

1. ◀/▶ で回転する画像を選ぶ
2. FUNC./SET を押す

・FUNC./SET ボタンを押すごとに、90 度 →270 度 → 元画像が表示されます。
・インデックス再生時も設定できます。

カメラで回転した画像をパソコンに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては回転結果が反映されないことがあります。

回転結果は画像に記録されます。

効果をつけて再生する

画像の切り換え時に使用する効果を選択できます。

	効果なし
	表示中の画像が暗くなり、次の画像が徐々に明るく表示されます。
	← ボタンを押すと左側から前の画像が、→ ボタンを押すと右側から次の画像が表示されます。

1 [再生効果]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [ ] メニューから、↑/↓ で を選ぶ

2 設定する

1. ←/→ で再生効果の種類を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

画像を自動再生する(スライドショー)

カード内の画像を自動再生します。

スライドショーの画像指定は、DPOF(p.194)に準拠しています。

	全画像	カード内のすべての画像を順に再生します。
	日付	指定した日付の画像を順に再生します。
	マイカテゴリー	指定したカテゴリーの画像を順に再生します。
	フォルダ	指定したフォルダ内の画像を順に再生します。
	動画	動画のみを順に再生します。
	静止画	静止画のみを順に再生します。
～	カスタム1～カスタム3	カスタム1～3でマークされている画像を順に再生します(p.168)。

1 [スライドショー]選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [ ] メニューから ▲/▼ で を選ぶ
3. FUNC. SET を押す

2 再生方法を選ぶ

1. ▲ を押す
2. ◀/▶ でスライドショーの種類を選ぶ

・ 、 、 のとき:FUNC./SET ボタンを押して、再生する日付、カテゴリーまたはフォルダを選びます(p.167)。

・ ～ のとき:FUNC./SET ボタンを押して、再生する画像を選びます(p.168)。

・効果をつけて再生する場合は、▲ボタンで[効果]を選び、◀/▶ ボタンで種類を選びます(p.166)。

3 開始する

1. ⬇ を押す
2. ⬅/➡ で[スタート]を選ぶ
3. (FUNC. SET) を押す

・自動再生中は、次のことができます。
 - 一時停止 / 再開：FUNC./SET ボタンを押す
 - 画像の送り / 戻し：⬅/➡ ボタンを押す（ボタンを押し続けると早送りします。）

中止のしかた：MENU ボタンを押す

効果の種類

画像の切り換え時に使用する効果を選択できます。

	効果なし
	次の画像が徐々に明るくなりながら、画面の下から上方向に表示されます。
	初めに十字型に画像が表示され、徐々に画像全体が表示されます。
	画像の一部が横方向に動きながら、徐々に画像全体が表示されます。

シングル再生時、FUNC./SET ボタンを押しながらすぐに 🖨〜 ボタンを押すと、表示中の画像からスライドショーを開始できます。

再生する日付、マイカテゴリー、フォルダを選ぶ（、、）

1 再生方法を選ぶ

1. ←/→ で 、 または を選ぶ
2. FUNC./SET を押す

2 再生する画像を選ぶ

1. ↑/↓ で日付、カテゴリーまたはフォルダを選ぶ
2. FUNC./SET を押す

・選択されると、画像に ✓ が表示されます。
・再度 FUNC./SET ボタンを押すと選択を解除できます。
・日付、カテゴリー、フォルダは複数選択できます。
・選択した順に再生されます（カテゴリー選択時を除く）。
・←/→ ボタンを押すと、各日付、カテゴリーまたはフォルダの画像を確認できます。
・MENU ボタンを押すと、設定を終了します。

再生する画像を選ぶ（★1～★3）

スライドショーで再生したい画像だけをマークし、［カスタム 1］から［カスタム 3］に保存します。最大 998 画像まで指定でき、選択した順番に自動再生されます。

1 再生方法を選ぶ

1. ←/→ で ★1 ～★3 のいずれかを選ぶ
   - 初めは、★1 だけが表示されます。
2. (FUNC./SET) を押す

- ★1 を設定すると、表示が ★1√ に変わり、★2 が表示されます。★2 ★3 も、同じように表示が変わっていきます。

2 再生する画像を選ぶ

1. ←/→ で選ぶ
2. (FUNC./SET) を押す

- 選択されると画像に ✓ が表示されます。
- 再度、FUNC./SET ボタンを押すと選択を解除できます。
- インデックス再生時も選択できます。
- MENU ボタンを押すと、設定を終了します。

すべての画像を指定するとき

1. 手順 1 で、★1 ～★3 のいずれかを選んだ後、↑ ボタンで［全画像］を選び、FUNC./SET ボタンを押す
2. ↑ ボタンで［全画像指定］を選び、FUNC./SET ボタンを押す
3. → ボタンで［OK］を選び、FUNC./SET ボタンを押す

設定後に解除する場合には、［リセット］を選びます。

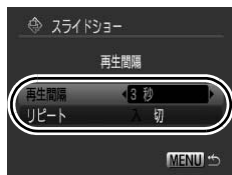
再生間隔やリピート設定をする

- **再生間隔**
  スライドショーで 1 画像を表示する時間を指定します。3 〜 10 秒、15 秒、30 秒を指定できます（画像によって再生間隔は多少異なります）。
- **リピート**
  スライドショーが一巡したら終了するか、繰り返し再生するかを設定します。

1 [設定]を選ぶ

1. ←/→ で選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

2 設定内容を変更する

1. ↑/↓ で[再生間隔]または[リピート]を選ぶ
2. ←/→ で設定する
3. MENU ボタンを押す

赤目を補正する

目が赤く写ってしまった画像の赤目の部分を補正できます。

画像によっては赤目が自動的に検出されなかったり、思い通りに補正されない場合がありますので、補正した画像は［新規保存］することをおすすめします。

<主な例>

- 顔が画面の端にある、または画面全体に対して極端に小さい、大きい、暗いまたは明るい
- 顔が横や斜めを向いていたり、顔の一部が隠れている

1 ［赤目補正］を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. ［▶］メニューから、▲/▼ で 赤目補正アイコン を選ぶ
3. FUNC./SET を押す

2 赤目補正する画像を選ぶ

1. ◀/▶ で選ぶ
2. FUNC./SET を押す

・赤目を検出した位置に、自動的に枠が表示されます。

・赤目が自動的に検出されなかった場合は、▲/▼ または ◀/▶ ボタンで［補正枠の追加］を選び、FUNC./SET ボタンを押します（p.173）。

・補正枠を削除するには、［補正枠の削除］を選び、FUNC./SET ボタンを押します（p.174）。

3 補正する

1. ▲/▼ または ◀/▶ で[補正実行]を選ぶ
2. (FUNC/SET) を押す

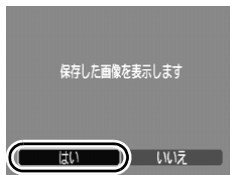
4 保存する

1. ▲/▼ または ◀/▶ で[新規保存]または[上書き保存]を選ぶ
2. (FUNC/SET) を押す

- [新規保存]:新しいファイル名をつけて保存します。補正前の画像は残ります。新規に保存された画像は、撮影した画像の一番最後に保存されます。
- [上書き保存]:補正前の画像と同じファイル名で保存されます。補正前の画像は残りません。
- [新規保存] の場合は、手順 5 へ進みます。
- 引き続き、他の画像の赤目を補正したいときは、手順 2 から繰り返します。

5 保存した画像を表示する

1. MENU ボタンを押す
2. ◀/▶ で[はい]を選ぶ
3. (FUNC/SET) を押す

- [いいえ] を選んだ場合は再生メニューに戻ります。

- 🎥、RAW 画像は赤目補正できません。なお、［RAW＋L 記録］で撮影した JPEG 画像は赤目補正ができますが、上書き保存はできません。
- プロテクトされている画像は、上書き保存できません。
- カードの空き容量が足りないときは、赤目補正はできません。

- 何度でも赤目補正を行うことができますが、画質が低下することがあります。
- 一度赤目補正を行った画像は、自動的に補正枠は表示されません。［補正枠の追加］を選択してください。

補正枠を追加する

1 **[補正枠の追加]を選ぶ**

1. ▲/▼ または ◀/▶ で選ぶ
2. (FUNC./SET) を押す

・緑色の枠が表示されます。

2 **補正枠の位置を調整する**

1. ◀/▶ または ▲/▼ で調整する

・ズームレバーで枠の大きさを変更できます。

3 **補正枠を追加する**

1. (FUNC./SET) を押す

・補正枠が追加され、枠が白色に変わります。
・さらに枠を追加したいときは、位置を調整して FUNC./SET ボタンを押します。
・補正枠は 35 個まで追加できます。
・補正枠の追加を終了するには、MENU ボタンを押します。

赤目を正しく補正するために、次の点にご注意ください（手順 2 の画面例を参照）。
- なるべく赤目の部分だけを囲むように補正枠の大きさを調整してください。
- 赤目の人が複数いる場合、必ず 1 人ずつ補正枠を設定してください。

補正枠を削除する

1 **[補正枠の削除]を選ぶ**

1. ▲/▼ または ◀/▶ で選ぶ
2. (FUNC/SET) を押す

2 **削除する補正枠を選ぶ**

1. ◀/▶ で選ぶ

・選択中の枠が緑色で表示されます。

3 **補正枠を削除する**

1. (FUNC/SET) を押す

・選択した枠が削除されます。
・続けて枠を削除したいときは、手順2から操作を繰り返します。
・補正枠の削除を終了するには、MENU ボタンを押します。

画面の暗い部分を明るくする(暗部補正)

自動的に検出された画像上の暗い部分を明るく補正し、新規に保存できます。

1 [暗部補正]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [▶]メニューから、▲/▼ で Ci を選ぶ
3. (FUNC. SET) を押す

2 暗部補正する画像を選ぶ

1. ◀/▶ で選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

3 補正量を選ぶ

1. ◀/▶ で選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・[自動] で思いどおりの画像にならないときは、[弱]、[中]、[強] を選んでください。

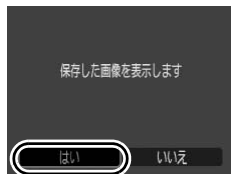
4 保存する

1. ◀/▶ で[OK]を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・引き続き他の画像を補正したいときは、手順 2 から操作を繰り返します。

5 保存した画像を表示する

1. MENU ボタンを押す
2. ←/→ で[はい]を選ぶ
3. を押す

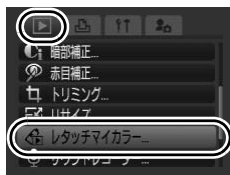
・[いいえ] を選んだ場合は再生メニューに戻ります。

- 画像によっては、画質が低下したり、思いどおりに補正されないことがあります。
- 何度でも暗部補正を行うことができますが、画質が低下することがあります。
- RAW 画像は暗部補正できません。

レタッチマイカラーで効果をつける

撮影した画像に、レタッチマイカラーで効果をつけることができます（静止画のみ）。レタッチマイカラーの種類は次のとおりです。効果の詳細は p.136 をご覧ください。

Av	くっきりカラー	AL	色白肌
AN	すっきりカラー	AD	褐色肌
ASe	セピア	AB	あざやかブルー
ABW	白黒	AG	あざやかグリーン
AP	ポジフィルムカラー	AR	あざやかレッド

1 **[レタッチマイカラー]を選ぶ**

1. MENU ボタンを押す
2. [▶] メニューから ▲/▼ で を選ぶ
3. FUNC. SET を押す

2 **効果をつける画像を選ぶ**

1. ◀/▶ で選ぶ
2. FUNC. SET を押す

3 レタッチマイカラーの種類を選ぶ

1. ←/→ で選ぶ
   - ・レタッチマイカラーで効果をつけた画像が表示されます。
   - ・ズームレバーを Q側に押すと、拡大して確認できます。拡大表示中は、FUNC./SET ボタンでレタッチマイカラーで効果をつけた画像と効果がついていない元画像の切り換えができます。
2. (FUNC./SET) を押す

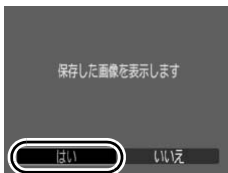
4 保存する

1. ←/→ で[OK]を選ぶ
2. (FUNC./SET) を押す

- ・レタッチマイカラーで効果をつけた画像は、撮影した画像の一番最後に保存されます。
- ・引き続き他の画像に効果をつけたいときは、手順 2 から操作を繰り返します。

5 保存した画像を表示する

1. MENU ボタンを押す
2. ←/→ で[はい]を選ぶ
3. (FUNC./SET) を押す

- ・[いいえ] を選んだ場合は、再生メニューに戻ります。

- ● RAW画像にレタッチマイカラーで効果をつけることはできません。
- ● カードの空き容量が足りないときは、レタッチマイカラーで効果をつけることができません。

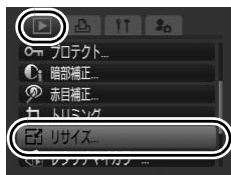
- レタッチマイカラーで効果をつけた画像に、何度でもレタッチマイカラーで効果をつけることができますが、画質は徐々に低下したり、思いどおりの色にならないことがあります。
- 同じ効果でも、マイカラーで撮影した画像（p.136）と、再生時にレタッチマイカラーで効果をつけた画像は、画像の色調が若干異なる場合があります。

画像の記録画素数を変更する（リサイズ）

撮影した画像を、元の画像より小さな記録画素数で新規に保存できます。

M3	1600 × 1200 画素
S	640 × 480 画素
XS	320 × 240 画素

1 [リサイズ]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [▶] メニューから、▲/▼ で リサイズアイコン を選ぶ
3. FUNC./SET を押す

2 リサイズする画像を選ぶ

1. ◀/▶ で選ぶ
2. FUNC./SET を押す

・リサイズできない画像は、FUNC./SET ボタンを選択できません。

3 記録画素数を選ぶ

1. ◀/▶ で選ぶ
2. FUNC./SET を押す

・カードの空き容量により、選択できない記録画素数には、⃠が表示されます。

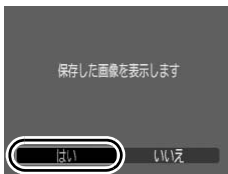
4 保存する

1. ←/→ で[OK]を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・リサイズした画像は、新しいファイル名で保存されます。リサイズ前の画像は残ります。
・引き続き、他の画像をリサイズしたいときは、手順 2 から繰り返します。

5 保存した画像を表示する

1. MENU ボタンを押す
2. ←/→ で[はい]を選ぶ
3. (FUNC. SET) を押す

・[いいえ] を選んだ場合は再生メニューに戻ります。

動画、W または RAW で撮影した画像は、リサイズできません。

音声メモをつける

画像の再生中に、最長 1 分の音声メモをつけることができます。音声データは WAVE タイプで保存されます。

1 画像の再生中に を押す

・音声メモパネルが表示されます。

2 録音する

1. ←/→ で ● を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・録音時間と録音可能時間が表示されます。
・FUNC./SET ボタンを押すと録音を一時停止します。再度ボタンを押すと再開します。
・1 画像につき、合計が 1 分に達するまで音声メモを追加できます。
・録音の機能を設定できます（p.100）。
・ ボタンを押して、設定を終了します。

音声メモパネルの操作

←/→ ボタンで選んで、FUNC./SET ボタンを押します。

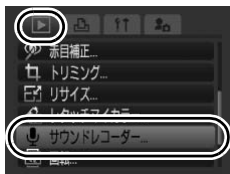
↩	終了	操作を終了します。
●	録音	録音を開始します。
■	停止	録音または再生を停止します。
▶	再生	再生します。
🗑	消去	消去します（表示される画面で［消去］を選び、FUNC./SET ボタンを押します）。

● には音声メモをつけられません。
● プロテクトされている画像の音声メモは消去できません。

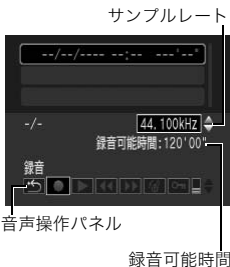
音声を記録する(サウンドレコーダー)

画像を記録せず、音声だけを最長約 2 時間連続して録音できます。

1 [サウンドレコーダー]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [▶] メニューから ▲/▼ で 🎙 を選ぶ
3. (FUNC. SET) を押す

2 録音する

1. ◀/▶ で ● を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・録音時間が表示されます。
・▲/▼ ボタンでサンプルレートを変更できます。[11.025kHz]、[22.050kHz] 、[44.100kHz] の順に音質は良くなりますが、記録されるファイル容量は大きくなります。
・FUNC./SET ボタンを押すと録音を停止します。再度ボタンを押すと新しく録音が開始されます。
・シャッターボタンを半押しすると録音を停止し、撮影モードに切り換わります。
・録音の機能を設定できます(p.100)。

音声操作パネルの操作

←/→ボタンで選んで、FUNC./SET ボタンを押します。

	終了	メニュー画面へ戻ります。
	録音	録音を開始します。
	停止	録音、再生を停止します。
	再生	↑/↓ ボタンで再生したい音声を選び、FUNC./SET ボタンを押します。
	早戻し	FUNC./SET ボタンを押し続けると早戻しします。音声は再生されません。
	早送り	FUNC./SET ボタンを押し続けると早送りします。音声は再生されません。
	消去	↑/↓ または←/→ボタンで［消去］または［全消去］を選び、FUNC./SET ボタンを押します。
	プロテクト	誤って消去しないように、プロテクト（保護）します。↑/↓ ボタンで音声を選び、FUNC./SETボタンで設定、設定解除します。
	音量	↑/↓ ボタンで再生音量を調節します。

録音する前に、［オーディオ］の設定（p.100）が適切かご確認ください。

- サウンドレコーダーの音声サイズと記録時間（目安）（p.268）
- カードの容量がいっぱいになった時点で自動的に録音を終了します。
- 再生中に マイクボタンを押し続けても、手順 2 の画面を表示できます（短く押すと音声メモパネル（p.182）が表示されます）。

画像をプロテクト(保護)する

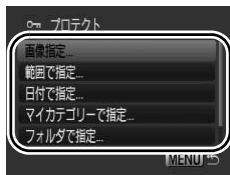
大切な画像や動画を誤って消去しないように、プロテクトの設定ができます。

画像指定	画像を見ながら 1 画像ずつ指定します。
範囲で指定	始点の画像と終点の画像を指定し、その間のすべての画像に指定します。
日付で指定	指定した日付の画像に指定します。
マイカテゴリーで指定	指定したカテゴリー内の画像に指定します。
フォルダで指定	指定したフォルダ内の画像に指定します。
全画像	カード内のすべての画像に指定します。

1 [プロテクト]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [▶] メニューから、▲/▼ で O┳ を選ぶ
3. (FUNC SET) を押す

2 設定方法を選ぶ

1. ▲/▼ で選ぶ
   - MENU ボタンを押すと、1 つ前の画面に戻ります。
2. (FUNC SET) を押す

[画像指定]のとき

3 **プロテクトする**

1. ←/→ でプロテクトしたい画像を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・再度 FUNC./SET ボタンを押すとプロテクトを解除できます。
・引き続き他の画像をプロテクトしたいときは、操作を繰り返します。
・インデックス再生時も設定できます。
・MENU ボタンを押すと、設定を終了します。

プロテクトマーク

[範囲で指定]のとき

3 **始点の画像を選ぶ**

・コントローラーホイールを回すと、始点または終点の画像を切り換えることができます。

1. (FUNC. SET) を押す
2. ←/→ でプロテクトしたい範囲の始点の画像を選ぶ
3. (FUNC. SET) を押す

4 終点の画像を選ぶ

1. ➡ で[終点選択]を選ぶ
2. (FUNC/SET) を押す

3. ⬅/➡ でプロテクトしたい範囲の終点の画像を選ぶ
4. (FUNC/SET) を押す

・終点の画像には、始点の画像より早い番号の画像は指定できません。
・500 画像まで指定できます。

5 プロテクトする

1. ⬇ で[プロテクト]を選ぶ
2. (FUNC/SET) を押す

・設定方法を選ぶ画面に戻ります。
・[解除] を選ぶと、選択した範囲のプロテクトを解除します。

[日付で指定]、[マイカテゴリーで指定]、[フォルダで指定]のとき

3 **画像を選ぶ**

1. ▲/▼ でプロテクトしたい日付、カテゴリーまたはフォルダを選ぶ
2. (FUNC./SET) を押す
   - 選択されると、画像に✓がつきます。
   - 再度 FUNC./SET ボタンを押すと選択を解除できます。
   - すでに一部の画像がプロテクトされている場合は、[プロテクトアイコン]がグレーで表示されます。
   - 日付、カテゴリー、フォルダは複数選択できます。
   - ◀/▶ ボタンを押すと、各日付、カテゴリーまたはフォルダの画像を確認できます。
3. MENU ボタンを押す

4 **プロテクトする**

1. ▲/▼ で[プロテクト]を選ぶ
2. (FUNC./SET) を押す

- 設定方法を選ぶ画面に戻ります。
- [解除] を選ぶと、選択した画像のプロテクトを解除します。
- [中止] を選ぶと、プロテクトの設定を中止します。

[全画像]のとき

3 プロテクトする

1. ▲/▼ で[プロテクト]を選ぶ
2. (FUNC./SET) を押す

・設定方法を選ぶ画面に戻ります。
・[解除] を選ぶと、全画像のプロテクトを解除します。
・[中止] を選ぶと、プロテクトの設定を中止します。

プロテクト中に FUNC./SET ボタンを押すと、プロテクトを中止できます。

画像を消去する

カード内の画像を消去します。

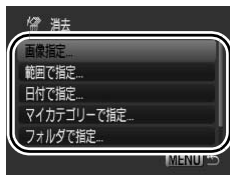
- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。
- プロテクトされている画像は消去できません。

画像指定	1 画像ずつ選択した後にまとめて消去します。
範囲で指定	始点の画像と終点の画像を指定し、その間のすべての画像を消去します。
日付で指定	指定した日付の画像を消去します。
マイカテゴリーで指定	指定したカテゴリー内の画像を消去します。
フォルダで指定	指定したフォルダ内の画像を消去します。
全画像	カード内のすべての画像を消去します。

1 [消去]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [▶] メニューから、↑/↓ で 🗑 を選ぶ
3. (FUNC. SET) を押す

2 消去方法を選ぶ

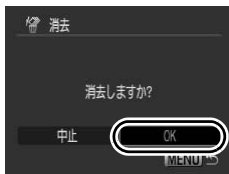
1. ↑/↓ で選ぶ
   - ・MENU ボタンを押すと、一つ前の画面に戻ります。
2. (FUNC. SET) を押す

[画像指定]のとき

3 削除する画像を選ぶ

1. ←/→ で選ぶ
2. (FUNC./SET) を押す
   ・再度 FUNC./SET ボタンを押すと選択を解除できます。
   ・インデックス再生時も設定できます。
3. MENU ボタンを押す

4 消去する

1. ←/→ で[OK]を選ぶ
2. (FUNC./SET) を押す

・[中止]を選ぶと、消去画像の選択を取り消し、手順 2 に戻ります。

[範囲で指定]のとき

3 始点の画像を選ぶ

・コントローラーホイールを回すと、始点または終点の画像を切り換えることができます。

1. (FUNC./SET) を押す
2. ←/→ で削除したい範囲の始点の画像を選ぶ
3. (FUNC./SET) を押す

4 終点の画像を選ぶ

1. ➡ で[終点選択]を選ぶ
2. (FUNC/SET) を押す
3. ⬅/➡ で削除したい範囲の終点の画像を選ぶ
4. (FUNC/SET) を押す

・終点の画像には、始点の画像より早い番号の画像は指定できません。
・500 画像まで指定できます。

5 消去する

1. ⬇で[消去]を選ぶ
2. (FUNC/SET) を押す

・MENU ボタンを押すと、消去画像の選択を取り消し、手順 2 に戻ります。

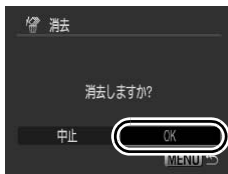
[日付で指定]、[マイカテゴリーで指定]、[フォルダで指定]のとき

3 画像を選ぶ

1. ↑/↓ で消去したい日付、カテゴリーまたはフォルダを選ぶ
2. を押す
   - ・選択されると、画像に ✓ がつきます。
   - ・再度 FUNC./SET ボタンを押すと選択を解除できます。
   - ・日付、カテゴリー、フォルダは複数選択できます。
   - ・←/→ ボタンを押すと、各日付、カテゴリーまたはフォルダの画像を確認できます。
3. MENU ボタンを押す

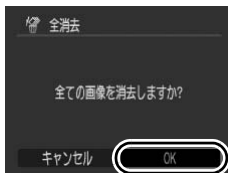
4 消去する

1. ←/→ で[OK]を選ぶ
2. (FUNC./SET) を押す

・[中止]を選ぶと、消去画像の選択を取り消し、手順 2 に戻ります。

[全画像]のとき

3 消去する

1. ←/→ で[OK]を選ぶ
2. (FUNC./SET) を押す

・[キャンセル]を選ぶと操作を取り消し、手順 2 に戻ります。

- 消去中に FUNC./SET ボタンを押すと、消去を中止できます。
- 画像だけでなく、カードの記録内容をすべて消去したいときは、カードを初期化してください（p.16、207）。

印刷指定 / 送信指定する

コントローラーホイールでも画像の選択や各種操作が行えます。
p.43 をご確認ください。

印刷指定(DPOF)

カードに記録されている画像の中から、印刷する画像や枚数をあらかじめカメラ側で指定できます。この指定は、DPOF *に準拠しています。カメラダイレクト対応プリンターで一括して印刷するときや、プリント取り扱い店に注文するときに大変便利です。
* Digital Print Order Format の略称。

- 印刷指定した内容は、印刷予約時 (p.23) にも反映されます。
- プリンターまたはプリント取り扱い店によっては、印刷指定した内容が反映されないことがあります。
- 、RAW は印刷指定できません。
- DPOF 対応の他のカメラで印刷指定されたカードの場合、が表示されることがあります。このカメラでそれらの印刷指定を変更すると、指定済みの内容はすべて書き換えられます。

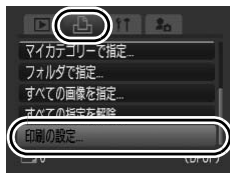
印刷スタイルを設定する

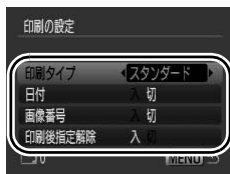
印刷スタイルを設定してから、印刷する画像を選んでください。

*初期設定

印刷タイプ	スタンダード*	用紙 1 枚に 1 画像を印刷します。
	インデックス	画像を縮小してインデックス形式で印刷します。
	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付(入 / 切*)		日付を入れて印刷します。
画像番号(入 / 切*)		画像番号を入れて印刷します。
印刷後指定解除(入* / 切)		印刷後、画像の印刷指定をすべて解除します。

1 [印刷の設定]を選ぶ

1. [▶] を押す
2. MENU ボタンを押す
3. ←/→ で [凸] メニューを選ぶ
4. ↑/↓ で[印刷の設定]を選ぶ
5. (FUNC. SET) を押す

2 設定する

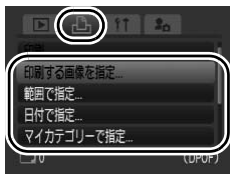
1. ↑/↓ で設定項目を選ぶ
2. ←/→ で設定したい内容を選ぶ
3. MENU ボタンを押す

- 印刷タイプによって、日付と画像番号の設定は次のようになります。
  - [インデックス] のとき
    [日付] と [画像番号] を同時に設定できません。
  - [スタンダード] または [両方] のとき
    [日付] と [画像番号] を同時に [入] に設定できます。ただし、お使いのプリンターによって、印刷できる情報が異なることがあります。
- 日付は、[ ] メニューの [日付 / 時刻] で設定した日付スタイルで印刷されます (p.58)。

印刷指定の方法を選ぶ

印刷する画像を指定	画像を見ながら 1 画像ずつ印刷指定します。
範囲で指定	始点の画像と終点の画像を指定し、その間のすべての画像に印刷指定します。
日付で指定	指定した日付の画像を印刷指定します。
マイカテゴリーで指定	指定したカテゴリーの画像を印刷指定します。
フォルダで指定	指定したフォルダ内の画像を印刷指定します。
すべての画像を指定	すべての画像に対して印刷指定します。
すべての指定を解除	画像の印刷指定をすべて解除します。

指定した画像に対して、1 枚ずつ印刷指定されます。[印刷する画像を指定] で印刷タイプ(p.194)が [スタンダード] / [両方] の場合のみ、印刷枚数を指定できます。

1 指定方法を選ぶ

1. ▶ を押す
2. MENU ボタンを押す
3. ←/→ で [凸] メニューを選ぶ
4. ↑/↓ で指定方法を選ぶ
5. (FUNC. SET) を押す

[印刷する画像を指定]のとき

2 画像を選ぶ

印刷タイプの設定（p.194）によって異なります。

スタンダード(▮)/ 両方(▮▦)のとき

印刷枚数表示

1. ◆/◆ で画像を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す
3. ▲/▼ で印刷枚数を指定する(最大 99 枚まで)
4. MENU ボタンを押す

インデックス(▦)のとき

インデックス印刷の選択

1. ◆/◆ で画像を選ぶ
2. (FUNC. SET) で指定、指定解除をする
3. MENU ボタンを押す

・インデックス再生時（9 画像表示）も設定できます。

[範囲で指定]のとき

2

始点の画像を選ぶ

・コントローラーホイールを回すと、始点または終点の画像を切り換えることができます。

1. FUNC./SET を押す
2. ←/→ で印刷したい範囲の始点の画像を選ぶ
3. FUNC./SET を押す

3

終点の画像を選ぶ

1. → で[終点選択]を選ぶ
2. FUNC./SET を押す
3. ←/→ で印刷したい範囲の終点の画像を選ぶ
4. FUNC./SET を押す

・終点の画像には、始点の画像より早い番号の画像は指定できません。
・500 画像まで指定できます。

4 印刷指定する

1. ↓ で[画像指定]を選ぶ
2. (FUNC/SET) を押す

・指定方法を選ぶ画面に戻ります。
・MENU ボタンを押すと、選択した範囲の印刷指定を中止します。

[日付で指定][マイカテゴリーで指定][フォルダで指定]のとき

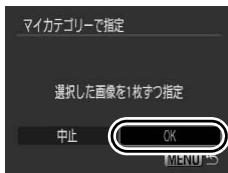
2 画像を選ぶ

1. ↑/↓ で日付、カテゴリーまたはフォルダを選ぶ
2. (FUNC/SET) を押す
   ・選択されると ✓ がつきます。
   ・再度 FUNC./SET ボタンを押すと指定を解除できます。
   ・日付、カテゴリー、フォルダは複数選択できます。
   ・←/→ ボタンを押すと、各日付、カテゴリーまたはフォルダの画像を確認できます。

3. MENU ボタンを押す

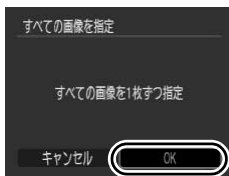
3 印刷指定する

1. ←/→ で[OK]を選ぶ
2. (FUNC/SET) を押す

・指定方法を選ぶ画面に戻ります。
・[中止] を選ぶと印刷指定の選択を取り消します。

[すべての画像を指定]のとき

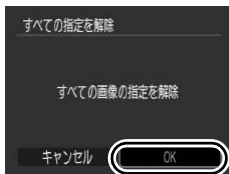
2 **印刷指定する**

1. ←/→ で[OK]を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・指定方法を選ぶ画面に戻ります。
・[キャンセル] を選ぶと操作を取り消します。

[すべての指定を解除]のとき

2 **解除する**

1. ←/→ で[OK]を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・指定方法を選ぶ画面に戻ります。
・[キャンセル] を選ぶと操作を取り消します。

- 画像番号の順に印刷されます。
- 最大 998 画像まで指定できます。
- プリンターに接続している場合、画像が指定されると ボタンが青色に点灯します。このとき、以下の操作で印刷が開始されます。
  1. ボタンを押す
  2. [印刷] が選択されていることを確認し、FUNC./SET ボタンを押す

送信指定(DPOF)

パソコンに取り込む画像をあらかじめカメラ側で指定できます。パソコンへの送信方法は、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。なお、この指定は、DPOF に準拠しています。

DPOF 対応の他のカメラで送信指定されたカードの場合、▲が表示されることがあります。このカメラでそれらの送信指定を変更すると、指定済みの内容はすべて書き換えられます。

1 [送信指定]を選ぶ

1. ▶ を押す
2. MENU ボタンを押す
3. [▶] メニューから、▲/▼ で 🖳 を選ぶ
4. FUNC/SET を押す

2 指定方法を選ぶ

1. ◀/▶ で選ぶ
   画像指定：1 画像ずつ選んで指定します。
   全画像　：カード内のすべての画像を指定します。
2. FUNC/SET を押す

・[リセット] を選ぶと、送信指定をすべて解除します。

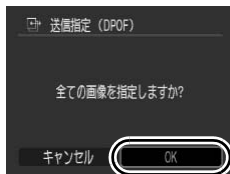
[画像指定]のとき

3 送信する画像を選ぶ

1. ◆/◆ で選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す
   - ・再度 FUNC./SET ボタンを押すと選択を解除できます。
   - ・インデックス再生時も設定できます。
3. MENU ボタンを何回か押す

[全画像]のとき

3 実行する

1. ◆/◆ で[OK]を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す
3. MENU ボタンを何回か押す

- 画像番号の順に送信されます。
- 最大 998 画像まで指定できます。

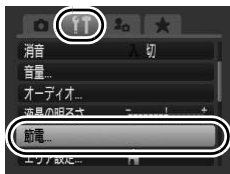
カメラの設定をする

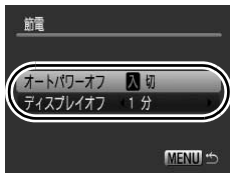
節電の設定をする

このカメラには節電機能がついており、自動的に電源を切ったり、液晶モニターの表示を消したりできます。

オートパワーオフ	［入］に設定すると、次のようなときに電源が切れます。再度電源ボタンを押すと復帰します。 撮影時：約 3 分間、カメラの操作を何もしないとき 再生時、プリンター接続時：約 5 分間、カメラの操作を何もしないとき
ディスプレイオフ	撮影モードでは、［オートパワーオフ］の設定にかかわらず、設定した時間内にカメラの操作を何もしないと、液晶モニターが消えます。電源ボタン以外のボタンを押すか、またはカメラの縦横の向きを変えると復帰します。

1 **［節電］を選ぶ**

1. MENU ボタンを押す
2. ←/→ で［ ］メニューを選ぶ
3. ↑/↓ で［節電］を選ぶ
4. (FUNC. SET) を押す

2 **設定する**

1. ↑/↓ で項目を選ぶ
2. ←/→ で設定する
3. MENU ボタンを押す

3 **MENU ボタンを押す**

スライドショーで自動再生中およびパソコン接続時は、節電機能は働きません。

世界時計を設定する

海外へ旅行するときなど、あらかじめ訪問先（旅行先）のエリアを登録しておくと、エリアを切り換えるだけで、登録したエリアの日時で記録できます。日付 / 時刻を設定しなおす必要がなく便利です。

自宅 / 訪問先のエリアを設定する

1 [エリア設定]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. ←/→ で[ ]メニューを選ぶ
3. ↑/↓ で[エリア設定]を選ぶ
4. (FUNC. SET) を押す

2 (自宅)を選ぶ

1. ↑/↓ で選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・初めてお使いになる場合には右の画面が表示されていることを確認し、FUNC./SET ボタンを押します。

3 自宅エリアを選ぶ

1. ←/→ で選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・サマータイムを設定する場合は、↑/↓ ボタンで を選び、設定します。時刻は 1 時間プラスされます。

4 **✈(訪問先)を選ぶ**

1. ↓ で選ぶ
2. (FUNC/SET) を押す

5 **訪問先エリアを選ぶ**

1. ←/→ で選ぶ
2. (FUNC/SET) を押す

・手順 3 と同様に、サマータイムを設定できます。

自宅エリアからの時差

訪問先に切り換える

1 **[エリア設定]を選ぶ**

1. MENU ボタンを押す
2. ←/→ で[🔧]メニューを選ぶ
3. ↑/↓ で[エリア設定]を選ぶ
4. (FUNC/SET) を押す

2 **✈(訪問先)を選ぶ**

1. ←/→ で選ぶ
2. MENU ボタンを 2 回押す

・訪問先のエリアを変更する場合は、FUNC./SET ボタンを押します。
・訪問先の日付に切り換えると、液晶モニターに ✈ が表示されます。

自宅のエリア選択をしないと、訪問先は設定できません。

訪問先が選択されているときに、日付 / 時刻の変更を行うと、自宅の日時も自動的に変更されます。

カードを物理フォーマット（初期化）する

カードへの記録 / 読み出し速度が低下したと思われる場合などは、物理フォーマットすることをおすすめします。

初期化すると、カードに記録されている画像だけでなく、すべてのデータが消去されますので、ご注意ください（プロテクト（p.185）されている画像やサウンドレコーダー（p.183）のデータも削除されます）。

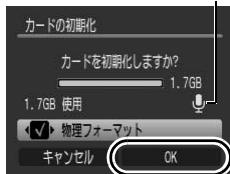
1 [カードの初期化]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. ◆/◆ で[ ]メニューを選ぶ
3. ◆/◆ で[カードの初期化]を選ぶ
4. (FUNC. SET) を押す

2 初期化する

1. ◆ で[物理フォーマット]を選ぶ
2. ◆/◆ でチェックをつける
3. ◆/◆ または ◆/◆ で[OK]を選ぶ
4. (FUNC. SET) を押す

サウンドレコーダーのデータがある場合に表示されます。

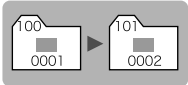
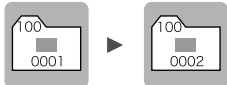
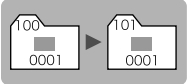
・初期化中に FUNC./SET ボタンを押すと、中止できます。中止した場合でも、そのカードは問題なくお使いになれますが、データはすべて消去されます。
・カードによっては、物理フォーマットに 2 ～ 3 分かかる場合があります。

画像番号をリセットする

撮影した画像には、自動的に画像番号がつきます。その画像番号の設定方法を選択します。

通し番号	最後に撮影した画像の続き番号が次の画像につけられます。そのため、フォルダを変更したり、カードを交換*したりしても、画像番号が重複しません。パソコンで画像をまとめて管理する場合に便利です。 ＊新規のカードに交換時。記録済みのカードを入れたときは、最後に撮影した画像のフォルダ番号と画像番号を合わせた 7 桁の番号を比べ、大きいほうの番号を引き継ぎます。
オートリセット	フォルダ番号、画像番号が初期値（100-0001）に戻ります*。フォルダ単位で管理する場合に便利です。 ＊新規のカードに交換時。記録済みのカードを入れたときは、そのカードに記録されている画像のフォルダ番号と画像番号を合わせた 7 桁の番号の続きの番号になります。

1 [画像番号]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. ◆/◆ で [ ] メニューを選ぶ
3. ◆/◆ で[画像番号]を選ぶ

2 設定する

1. ◆/◆ で画像番号の種類を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

画像番号およびフォルダ番号について

撮影した画像には、0001 ～ 9999 までの画像番号が割り振られ、各フォルダには、100 ～ 999 までの番号が割り振られます。
ひとつのフォルダには、2000 画像ずつ保存されます。

	フォルダを新規に作成した場合	他のカードに交換した場合
通し番号	カード 1 100 0001 ▶ 101 0002	カード 1 100 0001 ▶ カード 2 100 0002
オートリセット	カード 1 100 0001 ▶ 101 0001	カード 1 100 0001 ▶ カード 2 100 0001

・次の設定で撮影した画像は、必ずひとつのフォルダに保存されるため、2000 画像に満たなくても、十分な空きがない場合には、新しいフォルダに保存される場合があります。
  - 連続撮影
  - セルフタイマー（カスタム、顔セルフタイマーの場合）
  - 動画
  - スティッチアシスト
  - フォーカスブラケット撮影
  - AEB 撮影
  - 静止画のワンポイントカラー / スイッチカラー（[オリジナル保存] が [入] の場合）
・同じフォルダ番号や、フォルダ内に同じ画像番号が複数あるときは、再生できません。
・フォルダの構造や画像のタイプについては、ソフトウェアクイックガイドでご確認ください。

画像の保存先(フォルダ)を作成する

任意のタイミングで新しいフォルダを作成できます。撮影した画像は、そのフォルダ内に自動的に保存されます。

新規作成	次回撮影時に新しいフォルダを作成します。また新しいフォルダを作成したい場合には、再度チェックマークをつけてください。
自動作成	指定した日時以降の撮影時に、新しいフォルダを作成したい場合、日時を指定します。

次回撮影時にフォルダを作成する

1 [フォルダ作成]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. ←/→ で [ ] メニューを選ぶ
3. ↑/↓ で[フォルダ作成]を選ぶ
4. (FUNC SET) を押す

2 設定する

1. ←/→で[新規作成]にチェックマークをつける
2. MENU ボタンを押す

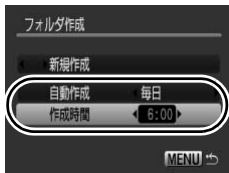
・撮影時、液晶モニターに が表示されます。フォルダが作成されると、表示は消えます。

指定した日時にフォルダを作成する

1 [フォルダ作成]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. ←/→ で [ ] メニューを選ぶ
3. ↑/↓ で[フォルダ作成]を選ぶ
4. FUNC./SET を押す

2 設定する

1. ↑/↓ で[自動作成]を選び、←/→ で作成日を選ぶ
2. ↑/↓ で[作成時間]を選び、←/→ で時刻を設定する
3. MENU ボタンを押す

・指定した日時になると、液晶モニターに が表示されます。フォルダが作成されると、表示は消えます。

ひとつのフォルダに最大 2000 画像まで保存されます。新規にフォルダを作成しなくても、2000 画像を超えると、新しいフォルダが自動的に作成されます。

縦横自動回転を設定する

このカメラには SI（Super Intelligent）センサーが装備されており、縦位置で撮影した画像は、再生時に正しい縦位置に回転して表示されます。

1 [縦横自動回転]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. ◆/◆ で [ ] メニューを選ぶ
3. ▲/▼ で[縦横自動回転]を選ぶ

2 設定する

1. ◆/◆ で[入]または[切]を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

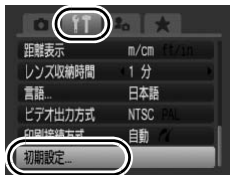
・[入] のときは、撮影時に液晶モニターに （通常）、 （右が下）、または （左が下）が表示されます（情報表示ありのとき）。

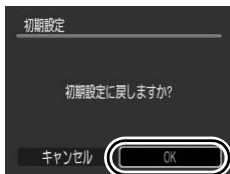
- カメラを真上や真下に向けて撮影すると、正しく機能しない場合があります。アイコン（ ）を確認し、正しく天地を判断しない場合は、[切] にしてお使いください。
- 縦横自動回転の設定が [入] のときに縦位置で撮影した画像をパソコンに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては、回転結果が反映されないことがあります。

このカメラは、SI センサーにより、縦位置で構えて撮影する場合、上側を「天」、下側を「地」と判断し、縦位置に最適なフォーカス、露出、ホワイトバランス制御を行います。この機能は、縦横自動回転の入 / 切に関係なく有効です。

設定を初期状態に戻す

1 [初期設定]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. ←/→ で[ ]メニューを選ぶ
3. ↑/↓ で[初期設定]を選ぶ
4. (FUNC SET) を押す

2 設定する

1. ←/→ で[OK]を選ぶ
2. (FUNC SET) を押す

- C1/C2 の登録内容を初期設定状態に戻す場合は、モードダイヤルをC1またはC2 にして操作します
- パソコン接続時、プリンター接続時は初期状態に戻せません。
- 以下の設定は、初期状態に戻りません。
  - 撮影モード
  - [ ] メニューの [エリア設定]、[日付 / 時刻]、[言語]、[ビデオ出力方式] の設定 (p.58)
  - ISO 感度
  - 露出補正
  - マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ (p.134)
  - [ワンポイントカラー] (p.138) と [スイッチカラー] (p.140) で取り込んだ色
  - 新しく登録したマイカメラコンテンツ (p.216)

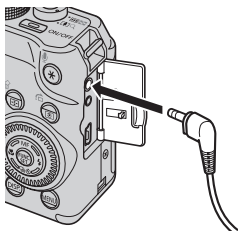
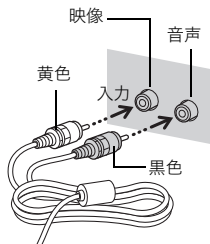
テレビにつなぐ

テレビを使って撮影 / 再生する

付属の AV ケーブルをお使いいただくと、テレビに画像を表示して撮影や再生ができます。ビデオ出力方式は、日本国内で採用している NTSC 方式が初期設定になっています。

1 **カメラとテレビの電源を切る**

2 **カメラの A/V OUT 端子に AV ケーブルを接続する**

・端子カバーを開き、AV ケーブルを奥まで差し込みます。

3 **テレビの映像入力端子と音声入力端子に AV ケーブルを接続する**

4 **テレビの電源を入れ、入力切り換えをビデオ入力にする**

5 **カメラの電源を入れる**

ビデオ出力方式の設定方法（p.58）

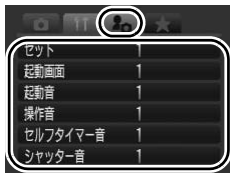
カメラを自分好みにする(マイカメラ機能)

コントローラーホイールでも画像の選択や各種操作が行えます。
p.43 をご確認ください。

カメラの起動画面や起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音を「マイカメラコンテンツ」と呼びます。これらを変更したり登録して、カメラを自分好みの設定に変えることができます。

マイカメラコンテンツを変更する

1 メニュー項目を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. ←/→ で [ ] メニューを選ぶ
3. ↑/↓ でメニュー項目を選ぶ

2 設定する

1. ←/→ で設定したいコンテンツを選ぶ
2. MENU ボタンを押す

・すべて同じコンテンツに設定したいときは、手順 1 の 3. で［セット］を選びます。

［シャッター音］を 1 または 2 に設定すると、シャッタースピードに応じたシャッター音が鳴ります。

マイカメラコンテンツを登録する

各コンテンツの［ ］には、カードに記録してある画像や新たに録音した音声を、マイカメラコンテンツとしてその場ですぐに登録できます。また、付属のソフトウェアを使うと、パソコンにある画像や音声、CANON iMAGE GATEWAY からダウンロードしたコンテンツをカメラに登録することもできます。

マイカメラコンテンツを初期設定に戻すには、パソコンが必要です。付属のソフトウェア（ZoomBrowser EX/ImageBrowser）を使い、初期設定のコンテンツをカメラに登録してください。

1 メニュー項目を選ぶ

1. を押す
2. MENU ボタンを押す
3. ←/→ で [ ] メニューを選ぶ
4. ↑/↓で登録したいメニュー項目を選ぶ

2 を選ぶ

1. ←/→ で選ぶ
2. DISP. ボタンを押す

3 設定する

[起動画面]のとき

1. ←/→ で登録したい画像を選ぶ
2. FUNC./SET を押す

[起動音]、[操作音]、[セルフタイマー音]、[シャッター音]のとき

1. ←/→ で ●(録音)を選ぶ
2. FUNC./SET を押す
3. 録音後、←/→ で (登録)を選ぶ
4. FUNC./SET を押す

・録音時間が経過すると、自動的に録音が終了します。
・再生するときは、▶(再生)を選びます。
・マイカメラメニューに戻るときは、(終了)を選びます。

4 登録する

1. ←/→ で[OK]を選ぶ
2. FUNC./SET を押す

・登録を取り消すときは、[キャンセル]を選びます。

- 以下は、マイカメラコンテンツに登録できません。
  - 動画
  - 音声メモ機能(p.182)で録音した音声
  - サウンドレコーダー(p.183)で録音した音声
- 新しいマイカメラコンテンツを登録すると、以前に登録されていたコンテンツは消去されます。

マイカメラコンテンツの登録、作成についての詳細は、付属のソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

こんなときには

カメラ全般

カメラが動作しない

電源が入っていません。	● 電源ボタンを押してください（p.42）。
カード / バッテリー収納部ふたが開いています。	● カード / バッテリー収納部ふたがしっかりと閉じていることを確認してください（p.12）。
バッテリーの残量が少なく動作不能です（「バッテリーを交換してください」というメッセージが表示されます）。	● 十分に充電されたバッテリーをカメラに入れてください（p.11）。 ● AC アダプターキット ACK-DC50（別売）を使用してください（p.37、242）。
カメラとバッテリーの接触不良です。	● バッテリーの電極を先の細いやわらかい綿棒などで乾拭きしてください（p.239）。

カメラ内部で音がする

カメラの縦・横の向きが変わりました。	● カメラの向きを検出する機構が働いています。カメラの故障ではありません。

電源を入れたとき

「ライトプロテクト」が表示された	
SDメモリーカード、SDHCメモリーカードの「ライトプロテクト（書き込み禁止）」スイッチが、「書き込み禁止」になっています。	● 書き込み、消去、初期化したいときは、ライトプロテクトスイッチを上にスライドしてください（p.241）。

日付 / 時刻の設定画面が表示された	
内蔵のリチウム電池の容量がなくなっています。	● ただちに充電してください（p.10）。

液晶モニター

表示されない	
液晶モニターが非表示の設定になっています。	● DISP.ボタンを押して液晶モニターをつけてください（p.60）。
[節電]の[ディスプレイオフ]の設定が働いています。	● 電源ボタン以外のボタンを押すか、またはカメラの縦横の向きを変えてください（p.203）。

カメラの起動時に画面が黒くなる	
マイカメラ機能の起動画面に、互換性のない画像が設定されています。	● マイカメラ機能で起動画面を変更するか（p.215）、付属のZoomBrowser EXやImageBrowserを使って初期設定に戻します。詳細は、ZoomBrowser EX/ImageBrowserのソフトウェアガイド（PDF）をご覧ください。

表示が黒くなる	
太陽や強い光が当たると黒くなることがあります。	● これはCCD特有の現象で、カメラの故障ではありません（動画にはこの画像が記録されますが、静止画には記録されません）。

画面がちらつく

蛍光灯の下で撮影しています。	● カメラの故障ではありません（動画には記録されますが、静止画には記録されません）。

赤紫などの帯が表示された

太陽や照明などの明るい被写体を撮影するときに表示されることがあります。	● これはCCD特有の現象で、カメラの故障ではありません（動画にはこの帯が記録されますが、静止画には記録されません）。 ● ND フィルターを［入］にすると軽減されることがあります（p.130）。

が表示された

光量不足で、シャッタースピードが遅くなっているなどの理由が考えられます。	● 手ブレ補正を［切］以外に設定してください（p.78）。 ● ISO 感度を上げてください（p.80）。 ● ISO ブースターを使用してください（p.81）。 ● ストロボを（発光禁止）以外に設定してください（p.68）。 ● セルフタイマーを設定し、三脚などでカメラを固定して撮影してください（p.70）。 ● 外付けストロボをお持ちの方は、外付けストロボを接続してください（p.249）。

が表示された

DPOF 対応の他のカメラで、印刷指定、送信指定、またはスライドショーの画像指定されたカードです。	● このカメラでそれらの印刷指定や送信指定、またはスライドショーの画像指定を変更すると、指定した内容はすべて書き換えられますのでご注意ください（p.165、194、201）。

ノイズが表示される / 被写体の動きがぎこちない	
暗い場所で撮影する場合、液晶モニターを見やすくするために、カメラが自動的に液晶モニターに映し出される画像を明るくしました（p.62）。	● 記録される画像に影響はありません。

撮影のとき

撮影できない	
再生モードになっています。	● 撮影モードに切り換えてください（p.44）。
パソコンやプリンターを接続しています。	● パソコンや プリンターを接続しているときは、インターフェースケーブルを抜いてから撮影モードに切り換えてください。
ストロボが充電中です。	● 充電が完了するとランプが橙色に点灯し、撮影できます（p.45）。
カードの空き容量がありません。	● 新しいカードを入れてください（p.11）。 ● 必要であれば、カードに記録されている画像をパソコンに取り込んでから画像を消去し、空き容量を増やしてください。
カードが正しく初期化されていません。	● カードを初期化してください（p.16、207）。 ● カードの論理フォーマットが壊れている可能性があります。お客様相談センターにお問い合わせください。

SDメモリーカード、SDHCメモリーカードがライトプロテクト（書き込み禁止）されています。	●ライトプロテクトスイッチを上にスライドしてください（p.241）。

ファインダーから見える範囲と、撮影された範囲にズレがある

通常はファインダーから見える範囲よりも広い範囲が撮影されます。	●実際に撮影される範囲は、液晶モニターで確認してください。マクロモードのときは、このズレが大きいので、必ず液晶モニターを使用してください（p.69）。

画像がぼやけている、ピントが合いにくい

シャッターボタンを押したとき、カメラが動いています。	●「が表示された」（p.220）でご確認ください。
AF補助光が［切］になっています。	●暗い場所などでピントが合いにくいとき、AF補助光が光ってピントを合いやすくします。AF補助光が「切」だと機能しないので、「入」にして、AF補助光を発光させてください（p.55）。このとき、AF補助光投光部に手がかからないように注意してください。
被写体がピントの合う範囲から外れています。	●正しい撮影距離範囲内に被写体を収めて撮影してください（p.261）。 ●意図しない機能（例えばマクロやマニュアルフォーカスなど）が設定されている可能性がありますので、設定を解除してください。
ピントが合いにくい被写体です。	●フォーカスロック、AFロックまたはマニュアルフォーカスで撮影してください（p.119）。

撮影した画像の被写体が暗すぎる

撮影時の光量が不足しています。	●内蔵ストロボを（常時発光）にしてください（p.68）。 ●光量の大きな外付けストロボをお使いください。 ●ND フィルターを［切］にしてください（p.130）。
周辺部が明るすぎるため、狙った被写体の露出がアンダー（露出不足）になっています。	●露出補正値をプラス側に設定してください（p.127）。 ●AE ロックまたはスポット測光機能をお使いください（p.131）。
被写体が遠すぎてストロボ光が届いていません。	●ストロボをお使いになるときは、内蔵ストロボ調光範囲内に被写体を収めて撮影してください（p.262）。 ●ISO 感度を上げて撮影してください（p.80）。

撮影した画像の被写体が明るすぎる、または白飛びする

被写体が近すぎてストロボ光が強すぎます。	●ストロボをお使いになるときは、内蔵ストロボ調光範囲内に被写体を収めて撮影してください（p.262）。 ●［ストロボ制御］の［調光補正］、または［発光量］を調節してください（p.105）。 ●セーフティ FE を［入］にしてください（p.106）。
周辺部が暗すぎるため、狙った被写体の露出がオーバー（露出過多）になっています。	●露出補正値をマイナス側に設定してください（p.127）。 ●AE ロックまたはスポット測光機能をお使いください（p.131）。 ●ND フィルターを［入］にしてください（p.130）。
照明が直接、もしくは被写体の表面で反射してカメラに入っています。	●被写体に対するカメラのアングルを変えてください。

ストロボが (常時発光)になっています。	● ストロボを (発光禁止) にしてください (p.68)。
画像にノイズがある	
ISO 感度が高すぎます。	● 高い ISO 感度や (高感度オート) を選ぶと、画像にノイズが増えることがあります。画質を優先する場合には、なるべく低い感度を選んでください (p.80)。 ● SCN モード の 、、、、、、、、 あるいは ISO ブースターを使用したときは、ISO 感度が上がり、ノイズが発生しやすくなります。
画像に白い点などが写る	
ストロボ撮影時に空気中のちりやほこり、虫などにストロボ光が反射しました。特にワイド側や、Av モードで絞り数値を大きくして撮影したときに、目立ちやすくなります。	● デジタルカメラ特有の現象でカメラの故障ではありません。

目が赤く写る

暗い所でストロボを発光したため、ストロボの光が目に反射しました。	●［ストロボ制御］メニューの［赤目緩和ランプ］を［入］に設定して撮影してください（p.105）。写される人がランプ（前面）を見ていないと効果がありません。ランプ（前面）を見るよう声をかけてください。「室内を明るくする」、「写したい人に近付く」とより効果があります。 ●［ストロボ制御］メニューの［赤目自動補正］を［入］に設定して撮影してください（p.105）。撮影時にカメラが赤目を自動的に補正してカードに記録します。 ●赤目で撮影された画像は、再生メニューの［赤目補正］で修正できます（p.170）。

連続撮影速度が遅くなった

カードの性能が低下しました。	●連続撮影の性能を十分に発揮するため、撮影した画像をパソコンに保存してから、カメラで カードを物理フォーマットすることをおすすめします（p.207）。

カードへの画像の記録時間が長い

違う機器で初期化したカードが入っています。	●このカメラで初期化したカードをお使いください（p.16、207）。

レンズが出たままで収納されない

電源を入れたまま、カード/バッテリー収納部ふたを開けました。	●カード/バッテリー収納部ふたを閉じた後、電源を入れ直してください。

動画撮影のとき

正しい撮影時間が表示されない、または中断される

原因	対処
以下のようなカードをお使いです。 - 書き込み速度が遅い - 他のカメラやパソコンで初期化した - 撮影 / 消去を繰り返した	●撮影時間が正しく表示されないときも、カードには実際に撮影した時間の動画が記録されています。カードをこのカメラで初期化すると、正しい時間が表示されます（書き込み速度の遅いカードを除く）（p.16、207）。

液晶モニターに「！」が赤く表示され、撮影が自動的に終了した

原因	対処
カメラの内部メモリーが少なくなりました。	●以下の方法をお試しください。 - 撮影する前にカードを物理フォーマットする（p.207） - 記録画素数を小さくする（p.99）

ズームできない

原因	対処
動画撮影中にズームレバーを押しました。	●撮影前にズームを操作してから、動画を撮影してください（p.65）。ただし、デジタルズームは撮影中もお使いになれます（スタンダードのみ）。

再生のとき

再生できない

原因	対処
他のカメラで撮影した画像やパソコンで編集した画像を再生しようとしました。	●付属の ZoomBrowser EX や Image Browser を使って、再生できない画像をパソコンからカメラに追加すると、再生できることがあります。 詳細は、ZoomBrowser EX / Image Browser のソフトウェアガイド（PDF）をご覧ください。

ファイル名をパソコンで変更したり、ファイルの場所を変更しました。	●ファイル名およびフォルダ番号は、カメラの形式にあったファイル名にしてください。詳細は、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

編集できない

他のカメラで撮影した画像は、編集できない場合があります。

動画を正しく再生できない

大きな記録画素数で撮影した動画を、読み込み速度の遅いカードで再生すると、再生が一瞬中断することがあります。

このカメラで撮影した画像は、他のカメラで正しく再生できない場合があります。

カードからの画像の読み出しが遅い

違う機器で初期化したカードが入っています。	●このカメラで初期化したカードをお使いください（p.16、207）。

バッテリー/バッテリーチャージャー

バッテリーの消耗が早い

バッテリーの性能が十分に発揮されていません。	●バッテリーの取り扱いを、「取り扱い上の注意」（p.239）でご確認ください。
常温（23 ℃）で使用しているときに消耗が早い場合は、バッテリーの寿命です。	●新しいバッテリーと交換してください（p.11）。

バッテリーが充電できない

バッテリーの寿命です。	●新しいバッテリーと交換してください（p.11）。

テレビ出力

テレビに出力できない / 画面が乱れる	
お使いの地域のビデオ出力方式に合っていません。	● 正しいビデオ出力方式（NTSC または PAL）に合わせてください（p.58）。日本国内の出力方式は、「NTSC」です。
スティッチアシストで撮影しています。	● スティッチアシストではテレビに出力できません。他の撮影モードで撮影してください（p.94）。

カメラダイレクト対応プリンターで印刷するとき

印刷ができない	
カメラとプリンターが正しく接続されていません。	● 指定されたケーブルでカメラとプリンターを正しく接続してください。
プリンターの電源が入っていません。	● プリンターの電源を入れてください。
印刷接続方式が正しくありません。	●［印刷接続方式］で［自動］を選択してください（p.58）。

メッセージ一覧

撮影または再生中に液晶モニターに表示されるメッセージには以下のものがあります。
プリンターを接続しているときに表示されるメッセージについては、ダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。

処理中 ...

撮影した画像をカードに記録したり、赤目補正などの処理をしています。または、カメラの設定を初期状態に戻しています。

カードがありません

カードをカメラに入れずに、電源を入れました。または、カードが正しい向きに入っていません（p.11）。

ライトプロテクト

SD メモリーカード、SDHC メモリーカードがライトプロテクト（書き込み禁止）されています（p.241）。

記録できません

カードがカメラに入っていない、または正しい向きに入っていないのに撮影しようとしました。または、動画に音声メモをつけようとしました。

カードが異常です

カードに異常がある可能性があります。異常のあるカードは、本製品で初期化するとお使いになれる場合があります（p.16、207）。また、カメラの故障も考えられますので、修理受付窓口にお問い合わせください。

カードがいっぱいです

カードの容量いっぱいに画像が記録されていて、これ以上記録や保存はできません。また、これ以上、画像指定、サウンドレコーダーや音声メモの録音はできません。

ファイル名が作成できません

カメラが作成しようとするフォルダと同じ名前のファイルが存在する、もしくは、すでに画像番号が最大値になってしまったために、ファイル名を作成できません。設定メニューで［画像番号］を［オートリセット］に設定してください。または、必要な画像をパソコンに取り込んだ後、カードを初期化してください。なお、初期化すると、カード内の画像およびデータはすべて消去されます。

バッテリーを交換してください

バッテリーの残量が少なく、カメラが動作不能です。ただちに充電されたバッテリーに交換するか、バッテリーを充電してください。また、バッテリーの取り扱いは、「取り扱い上の注意（p.239）」でご確認ください。

画像がありません

カードに画像が記録されていません。

画像が大きすぎます

5616 × 3744 画素より大きな記録画素数の画像、またはファイルサイズの大きな画像を再生しようとしました。

互換性のない JPEG です

互換性のない JPEG 圧縮の画像（パソコンで編集した画像など）を再生しようとしました。

RAW

互換性のない RAW 画像を再生しようとしました。

認識できない画像です

データが破壊されている画像、互換性がない画像（他社カメラ特有の記録タイプなど）、パソコンで編集した画像、または別のカメラで撮影した動画を再生しようとしました。

拡大できない画像です

別のカメラもしくは異なるタイプで撮影した画像、いったんパソコンに取り込んで加工した画像、または動画を拡大しようとしました。

回転できない画像です

別のカメラもしくは異なるタイプで撮影した画像、またはパソコンに取り込んで加工した画像を回転させようとしました。

互換性のない WAVE です

録音済みの音声のタイプが正しくないので、この画像に追加録音できません。また、音声の再生もできません。

登録できない画像です

このカメラ以外で撮影した画像、RAW 画像または動画を起動画面に登録しようとしました。

処理できない画像です

動画や RAW 画像、またはこのカメラ以外で撮影した画像にレタッチマイカラーで効果をつけたり、赤目補正、リサイズ、暗部補正をしようとしました。または、W で撮影した画像をリサイズしたり、XS にリサイズした画像を、再度リサイズしようとしました。または、W で撮影した画像や S、XS の画像を、トリミングしようとしました。

処理できません

このカメラ以外で撮影した画像をカテゴリー分けしようとしました。

処理できませんでした

赤目を検出しなかったため、赤目補正処理ができませんでした。

転送できません

ダイレクト転送画面で画像をパソコンへダイレクト転送するとき、データが破壊された画像、別のカメラもしくは異なるタイプで撮影した画像を指定しようとしました。または、[パソコンの背景]を選び、動画や RAW 画像を指定しようとしました。

プロテクトされています

プロテクトされている画像や動画、音声メモを、消去または編集しようとしました。

指定が多すぎます

印刷指定、送信指定、またはスライドショーの画像指定が多すぎます。これ以上指定できません。

指定完了できませんでした

印刷指定、送信指定、またはスライドショーの画像指定を一部保存できませんでした。

指定できない画像です

JPEG 以外の画像を印刷指定しようとしました。

指定できません

画像を範囲指定するとき、始点に終点より遅い番号の画像、または終点に始点より早い番号の画像を指定しようとしました。または、501 画像以上を指定しようとしました。

通信エラー

カードに大量の画像（1000 画像程度）があるため、パソコンに画像が取り込めませんでした。USB カードリーダーや PC カードアダプターを使って画像を取り込んでください。

レンズエラーを検知しました

レンズ駆動中にカメラがエラーを検知して、自動的に電源を切りました。レンズ駆動中にレンズを押さえたり、ほこり / 砂ぼこりの立つ場所などでカメラを起動すると、発生する恐れがあります。いったん電源を入れ直して、撮影または再生してください。頻繁にこのメッセージが表示されるときは、レンズの故障が考えられますので、修理受付窓口へお持ちください。

Exx

カメラがエラーを検知しました。いったん電源を入れ直して、再び撮影または再生してください。頻繁に、このエラーコードが表示されるときは、故障ですので「xx」の数値を控えて修理受付窓口へお持ちください。また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、再生モードに切り換えてご確認ください。

付録

安全上のご注意

- ご使用前に「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。
- 本機器：カメラ、バッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプター（別売）
- バッテリー：バッテリーパック

この警告事項に反した取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

この注意事項に反した取り扱いをすると、人が傷害または物的損害を負う可能性があることを示します。

△記号は、取り扱いを誤ると、事故につながる可能性があることを示します。記号の中の図は注意事項を意味します。

⃠記号は、禁止の行為を示します。記号の中の図は禁止事項を意味します。（左図：分解禁止）

●記号は、必ず守っていただきたいことがらを示します。記号の中の図は指示内容を意味します。

⚠警告

本機器

●カメラを強い光源（晴天時の太陽など）に向けないでください。

・撮像素子（CCD）が損傷する場合があります。

・ファインダーで見ると視力障害の原因となります。

●お子様や幼児の手の届かないところに保管してください。

・ネックストラップ：誤って首に巻き付けると、窒息することがあります。

・カード：誤って飲み込むと危険です。
万一､飲み込んだ場合には、ただちに医師にご相談ください。

●分解、改造しないでください。

●落下などで、ストロボ部分が破損した際は、内部には触れないでください。

●煙が出ている、焦げ臭いなどの異常状態のまま使用しないでください。

●内部に水などを入れたり、濡らしたりしないでください。水滴がかかったり、潮風にさらされたときは、吸水性のあるやわらかい布で拭いてください。

火災、感電の原因となります。

機器本体の電源を切り、その後必ずバッテリーを外すか、バッテリーチャージャーあるいはコンパクトパワーアダプターをコンセントから抜き、お買い上げになった販売店または修理受付窓口にご連絡ください。

●**アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしないでください。**

●**電源コードに重いものを載せたり、傷つけたり、破損させたり、加工しないでください。**

●**本機器指定以外の電源は使用しないでください。**

●**電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントにたまったほこりや汚れを乾いた布で拭き取ってください。**

●**濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。**

火災、感電の原因となります。

バッテリー

●**火に近付けたり、火の中に投げ込まないでください。**

●**水や海水に濡らさないでください。**

●**分解、改造したり、加熱しないでください。**

●**落とすなどして強い衝撃を与えないでください。**

●**指定外のバッテリーを使用しないでください。**

バッテリーの破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚す原因となることがあります。万一、電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口についたときは、ただちに洗い流してください。

●**バッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプターは、充電終了後および使用しないときは、カメラと電源コンセントの両方から外してください。**

●**テーブルクロス、じゅうたん、布団、クッションなどをかけたまま充電しないでください。**

長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となります。

●**バッテリーを充電する場合は、指定されたバッテリーチャージャー以外は使用しないでください。**

●**バッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプターの出力端子は本機器専用です。他のバッテリーや製品には、お使いにならないでください。**

発熱、変形して、火災、感電の原因となります。

●廃却する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。

廃却の際、他の金属と接触すると、発火、破裂の原因となります。

その他

●ストロボを人の目に近付けて発光しないでください。

特に、乳幼児を撮影するときは 1m 以上離れてください。視力障害の原因となります。

●カメラのスピーカーに磁気の影響を受けやすいもの（クレジットカードなど）を近付けないでください。

それらのデータが壊れて、使用できなくなることがあります。

●別売のテレコンバーター、コンバージョンレンズアダプターを取り付けるときは、確実にねじ込んでください。

緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。

⚠注意

本機器

●ネックストラップで下げているときは、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えないでください。

●撮影時に、レンズの先端を強く押しつけたり、ぶつけたりしないでください。

けがや本体の故障の原因となることがあります。

●砂浜や風の強い場所で使用するときは、カメラの内部にほこりや砂が入らないようにしてください。

故障の原因になることがあります。

●湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

●電源プラグや充電端子部に金属製のピンやゴミを付着させないでください。

火災、感電、故障の原因となることがあります。

●直射日光のあたる場所、および車のトランクやダッシュボードなどの高温になるところで使用・保管しないでください。

●コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしないでください。また、電源コードや電源プラグが傷んでいたり、コンセントの差し込みが不十分なまま使用しないでください。

●風通しの悪いところで使用しないでください。

液漏れ、発熱、破裂により、火災、やけど、けがの原因となることがあります。また、機器外装が熱により変形することがあります。

●使用しないときは、バッテリーを取り出し、保存してください。

カメラに、バッテリーを入れたままにしておくと、バッテリーが消耗します。

ストロボ

●**発光部分にゴミやほこりなど異物がついたまま発光しないでください。**

●**発光部分を手や布などで覆ったまま発光しないでください。**

煙や音が出て、故障の原因となったり、発熱によりストロボ発光部分の損傷の原因となることがあります。

●**連続発光後、発光部分に触れないでください。**

やけどの原因となることがあります。

取り扱い上のご注意

カメラ

●**電磁波による誤作動、破壊を防ぐためにカメラをモーターや強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。**

電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像のデータが破壊されることがあります。

●**結露を防ぐためにカメラを寒い場所から暑い場所に移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて密封しておき、周囲の気温になじませてから、袋から取り出してください。**

万一、結露が発生したときは、カードとバッテリーをカメラから取り出し、水滴が自然に消えるまで、常温で放置してからお使いください。

バッテリー

●**バッテリーの端子は、常にきれいにしておいてください。**

汚れていると、接触不良の原因となります。充電や使用する前に、先の細いやわらかい綿棒などで乾拭きしてください。

●**低温下では、バッテリーの性能が低下したり、バッテリー残量表示の（赤点滅）が早めに表示されることがあります。**

使用直前までポケットなどに入れて温めてから使用すると、バッテリーの性能が回復することがあります。

●**ポケットで温めるときは、キーホルダーなどの金属類と一緒に入れないでください。**

バッテリーがショートするおそれがあります。

●キーホルダーなどの金属類でバッテリーの「⊕」と「⊖」の端子を接触（ショート）させないでください（図 A)。持ち運ぶときや、お使いにならないときは、必ず端子カバーを取り付けてください(図 B)。

バッテリーパックの破損の原因となることがあります。
端子カバーの取り付けかたによって、バッテリーの充電状態を確認することができます（図 C、D)。

図 A

図 B

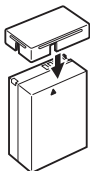



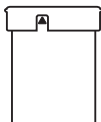
図 C
充電済バッテリー

「▲」が見えるように取り付けます。

図 D
使い切ったバッテリー

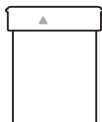



図 C の逆に取り付けます。

●バッテリーを使い切ってから、湿度の低い室温（0 ～ 30 ℃）で保管してください。

フル充電の状態で長期間（1 年くらい）保管すると、バッテリーの寿命を縮めたり、性能の劣化の原因となることがあります。また長期間使用しないときは、1 年に 1 回程度フル充電し、カメラで使い切ってから保管してください。

●このバッテリーはリチウムイオン充電池のため、充電する前に使い切ったり、放電する必要はありません。

●使用する当日または前日に充電してください。

充電しておいたバッテリーも、少しずつ自然に放電しています。

●バッテリーを使い切った状態からフル充電になるまでの時間は、約 2 時間 20 分です。（当社測定基準による）

・5 ～ 40 ℃の範囲で充電することをおすすめします。

・充電時間は、周囲の温度や充電状態によって異なります。

●規定の充電をしたにもかかわらず、著しく使用できる時間が低下するときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーと交換してください。

カード

●SD メモリーカード、SDHC メモリーカードのライトプロテクト（書き込み防止）スイッチについて

●曲げたり、強い力を加えたり、衝撃や振動を与えないでください。

●分解したり、改造しないでください。

●端子部にゴミや水、異物などを付着させたり、手や金属で触れたりしないでください。

●貼られているラベルをはがしたり、別のラベルやシールを貼ったりしないでください。

●文字を書くときは、鉛筆やボールペンを使用しないでください。必ず油性ペンをお使いください。

●下記の場所で使用したり、保管しないでください。

・ほこりや砂ぼこりの立つ場所

・高温多湿の場所

●大切なデータはバックアップを取ることをおすすめします。

電気ノイズ、静電気、カメラやカードの故障などにより、カード内のデータが壊れたり、消失することがあります。

●初期化すると、プロテクトした画像も消去されます。

●このカメラで初期化したカードをお使いになることをおすすめします。

・カメラが正しく動作しないときは、カードが壊れている可能性があります。初期化すると正しく動作する場合もあります。

・他のカメラやパソコン、周辺機器で初期化したカードを使用すると、正しく動作しない場合があります。その際は、このカメラで初期化してください。

●正しく初期化されないときは、電源を切ってから、カードを入れ直し、再度初期化してください。

●カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイル管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、ご注意ください。廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

液晶モニター

●ズボンのポケットにカメラを入れたまま、椅子などに座わらないでください。

液晶モニターの破損の原因となります

●かばんにカメラを入れるときは、硬いものが液晶モニターに当たらないようにしてください。

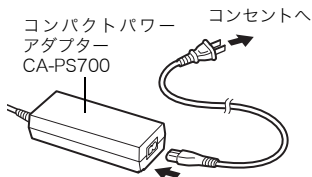
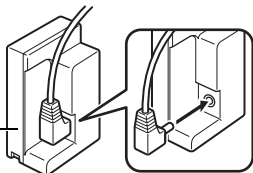
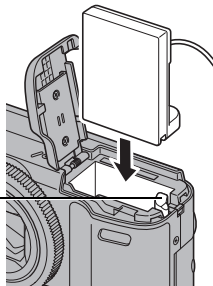
●ストラップにアクセサリーを付けないでください。

硬いものやアクセサリーが液晶モニターに当たると破損の原因となります。

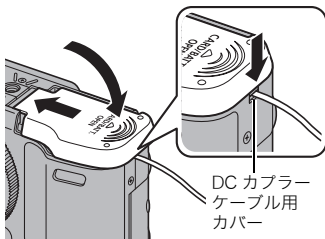
AC アダプターキット(別売)の使いかた

カメラを連続して長時間お使いになるときや、パソコンと接続するときは、AC アダプターキット ACK-DC50（別売）のご利用をおすすめします。

カメラの電源を切って、コンパクトパワーアダプターの取り付けや取り外しを行ってください。

1 コンパクトパワーアダプターに電源コードを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む

2 DC カプラーにコンパクトパワーアダプターのケーブルを接続する

3 カード / バッテリー収納部ふたを開き、バッテリーロックを押しながらDC カプラーを、ロックされるまで押し込む

4 ケーブルで DC カプラーケーブル用カバーを押しながら、カード / バッテリー収納部ふたを閉じる

・使用後はコンパクトパワーアダプターを取り外してください。

DC カプラーケーブル用カバー

レンズ(別売)の使いかた

別売のテレコンバーター TC-DC58D を取り付けるときは、別売のコンバージョンレンズアダプター LA-DC58K が必要です。

- テレコンバーターをお使いになるときは、カメラに確実に取り付けてください。緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。
- テレコンバーターは、絶対に太陽や強烈なライトに向けないでください。レンズをのぞくと失明の恐れがあります。

- 内蔵ストロボを使用すると、画像の周辺部（特に画面右下）が暗くなります。
- テレコンバーターは、テレ端の位置でお使いください。それ以外のズーム位置でお使いになると、画像が欠け（ケラレ）ることがあります。
- ファインダーを使用すると、ファインダー内の一部が欠け（ケラレ）て見えます。液晶モニターをお使いください。

■ テレコンバーター TC-DC58D

望遠撮影をするためのレンズで、焦点距離は、カメラ本体の焦点距離の 1.4 倍になります（ねじ径 58mm）。

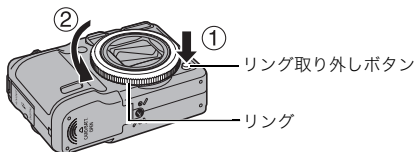
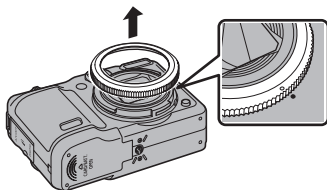
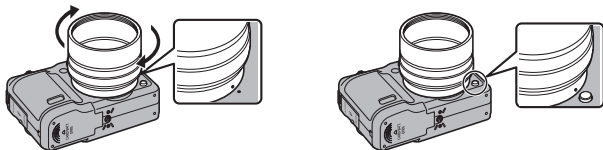
テレコンバーターにフィルターやレンズフードは取り付けられません。

■ コンバージョンレンズアダプター LA-DC58K

テレコンバーターを取り付けるためのレンズアダプターです。後部、前部の 2 つに分けることができますが、テレコンバーターを取り付けるときは合体したまま使用します。

レンズを取り付ける

1 **電源が切れていることを確認する**

2 **リング取り外しボタンを押しながら(①)、リングを矢印の方向に回す(②)**

3 **リングの○とカメラの●が合ったら、リングを上に引き上げて外す**

4 コンバージョンレンズアダプターの●をカメラの●に合わせてから、ロックするまで矢印の方向に回して取り付ける

・コンバージョンレンズアダプターは後部と前部に分けられますが、合体したままお使いください。また、前部と後部の間が緩んでいないかどうかを確認してから、カメラに取り付けてください。
・コンバージョンレンズアダプターを取り外すときは、リング取り外しボタンを押しながら、反対方向に回します。

5 レンズを矢印の方向に回して確実に取り付ける

- ご使用前には、レンズ面のゴミをブロワーブラシなどで完全に取り除いてください。ゴミが付いていると、ゴミにピントが合ってしまいます。
- レンズには、指紋がつきやすいのでご注意ください。
- リングを外すときは、カメラやコンバージョンレンズアダプターを落とさないように注意してください。
- レンズを取り付けて で撮影した画像は、パソコンを使ってパノラマ画像合成ソフトウェア「PhotoStitch」で正しく合成できません。

コンバーターを設定する

別売のテレコンバーター TC-DC58D をカメラに取り付けて、［手ブレ補正］機能（p.78）を使って撮影する場合に設定します。

1 [コンバータ]を選ぶ

1. MENU ボタンを押す
2. [●] メニューから、▲/▼ で[コンバータ]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で[TC-DC58D]を選ぶ
2. MENU ボタンを押す

液晶モニターのアイコン表示

［コンバータ］の設定	［手ブレ補正］の設定			
	［入］	［撮影時］	［流し撮り］	［切］
なし				
TC-DC58D				

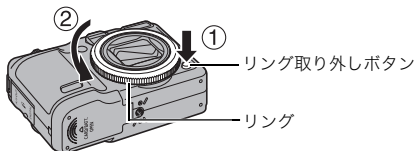
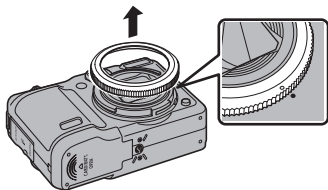
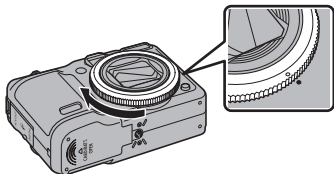
レンズをカメラから取り外したときは、コンバータを［なし］の設定に戻してください。

付録

リングの色を変える

別売のリングアクセサリーキット RAK-DC2 で、リングの色を変えることができます。

1 電源が切れていることを確認する

2 リング取り外しボタンを押しながら(①)、リングを矢印の方向に回す(②)

3 リングの○とカメラの●が合ったら、リングを上に引き上げて外す

4 交換するリングを載せて、リングの○とカメラの●を合わせ、リングを矢印の方向に回す

外付けストロボ(別売)の使いかた

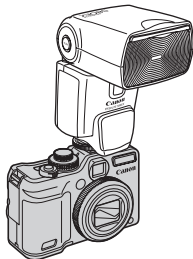
設定可能な撮影モード 》 p.284

別売の外付けストロボを取り付けると、より自然で鮮明なストロボ撮影ができます。
キヤノンスピードライト 220EX、430EX II、580EX II、マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX を取り付けると、自動調光で発光します(**M**モードまたはストロボの[発光モード]が[マニュアル]のときを除く)。それ以外のストロボをお使いの場合、マニュアルで発光するか、または発光しない場合があります。
お使いのストロボの取扱説明書も併せてご覧ください。
また、ホワイトバランスは⚡に設定することをおすすめします。

＊スピードライト 220EX、430EX II、580EX II、マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX の取扱説明書に記載されている撮影機能の一部は、このカメラに取り付けたときに、お使いいただけません。このカメラでお使いになる場合は、最初に本書をお読みください。

- AUTO、SCN モードで外付けストロボをお使いになる場合、自動調光で発光するので、設定を変更できません。
- スピードライト EX シリーズ以外のキヤノン製ストロボをお使いの場合は、赤目自動補正ができません。

外付けストロボを取り付ける

1 **カメラ上部のアクセサリーシューに取り付ける**

2 外付けストロボの電源を入れ、カメラの電源を入れる

・液晶モニターに ⚡（赤色）が表示されます。

3 モードダイヤルを、撮影したいモードに合わせる

● スピードライト 220EX をお使いの場合*

・ストロボ同調最高シャッタースピードは 1/250 秒です。

・［発光モード］が［オート］のとき自動調光で発光します。

・自動調光時は調光補正量を、マニュアル発光時は発光量を調節できます（p.105）。

・撮影モードが**M**、またはストロボの［発光モード］が［マニュアル］のときは、カメラのストロボ発光量調整画面で（p.105）、外付けストロボの発光量を調節できます。絞り数値と ISO 感度は、お使いのストロボの取扱説明書に記載されているガイドナンバーを参考に、被写体との距離から最適値を設定してください（カメラ側でのみ調節できます）。
また、E-TTL 自動調光モードでも、調光補正値を変更すると発光量を変更できます。

＊380EX、420EX、430EX、550EX、580EX も同様にお使いになれます。

- **スピードライト 430EX II、580EX II をお使いの場合**
  - ・ストロボ同調最高シャッタースピードは 1/250 秒です。
  - ・ストロボの［発光モード］が［オート］のとき自動調光で発光します。
  - ・ストロボの［発光モード］が［オート］のときは調光補正を、［マニュアル］のときは発光量を調節できます（p.105）。
  - ・撮影モードが**M**、またはストロボの［発光モード］が［マニュアル］のときは、カメラのストロボ発光量調整画面で（p.105）、外付けストロボの発光量を調節できます。ストロボ側からも調節できます（ストロボ側の設定が優先されます）。絞り数値と ISO 感度は、お使いのストロボの取扱説明書に記載されているガイドナンバーを参考に、被写体との距離から最適値を設定してください。
    また、E-TTL 自動調光モードでも、調光補正値を変更すると発光量を変更できます。
  - ・撮影モードが**M**のとき、ストロボ側がE-TTL自動調光モードに設定されていても、カメラ側でストロボの発光量を設定できます。なお、ストロボの表示は<E-TTL>のままですが、マニュアル発光します。
- **他のキヤノン製ストロボ（スピードライト EX シリーズ、マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX 以外）をお使いの場合**
  - ・フル発光しますので、シャッタースピードと絞り数値を適切に設定してください。

4 シャッターボタンを半押しする

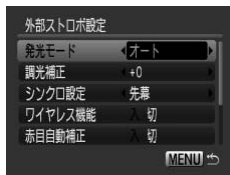
・ストロボのパイロットランプが点灯すると、充電が完了です。

5 シャッターボタンを全押しして撮影する

外付けストロボを設定する

1 ストロボ設定画面を表示する

1. ⚡を長く(1 秒以上)押す

・ストロボを接続して、ストロボの電源を入れてから設定してください。
・カメラの［］メニューの［ストロボ制御］でも設定できます。

2 設定する

1. ▲/▼ で設定したい項目を選ぶ
2. ◀/▶ 項目に応じた設定をする
3. MENU ボタンを押す

・設定できる項目はお使いのストロボによって異なります。設定項目の詳細は、お使いのストロボおよびスピードライトトランスミッターの取扱説明書をご覧ください。

＜スピードライト 220EX、マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX の場合の設定項目＞　＊：初期設定

項目	選択項目	撮影モード			
		P	Tv	Av	M
発光モード	オート	○*	○*	○*	－
	マニュアル	○	○	○	○*
調光補正 1)	－3～＋3	○	○	○	－
発光量 2)	1/64～1/1(1/3段ステップ)	○	○	○	○
シンクロ設定	先幕	○*	○*	○*	○*
	後幕	○	○	○	○
スローシンクロ	入	○	○*	○	○*
	切	○*	－	○*	－
赤目自動補正	入	○	○	○	○
	切	○*	○*	○*	○*
赤目緩和ランプ	入	○*	○*	○*	○*
	切	○	○	○	○
セーフティ FE 1)	入	○*	○*	○*	－
	切	○	○	○	○*

:カメラの電源を切っても解除されません。
1)発光モードが［オート］のときに設定可能
2)発光モードが［マニュアル］のときに設定可能

<スピードライト 430EX II/580EX II の場合の設定項目> ＊：初期設定

項目	選択項目	撮影モード			
		P	Tv	Av	M
発光モード 1)	オート	○＊	○＊	○＊	ー
	マニュアル	○	○	○	○＊
調光補正 1) 2)	ー３～＋３	○	○	○	ー
発光量 1) 3)	1/128 4) ～ 1/1（1/3 段ステップ）	○	○	○	○
シンクロ設定 1)	先幕	○＊	○＊	○＊	○＊
	後幕	○	○	○	○
	ハイスピード	○	○	○	○
スローシンクロ	入	○	○＊	○	○＊
	切	○＊	ー	○＊	ー
ワイヤレス機能 1)5)	入	○	○	○	○
	切	○＊	○＊	○＊	○＊
赤目自動補正	入	○	○	○	○
	切	○＊	○＊	○＊	○＊
赤目緩和ランプ	入	○＊	○＊	○＊	○＊
	切	○	○	○	○
セーフティ FE 2)	入	○＊	○＊	○＊	ー
	切	○	○	○	○＊
ストロボ設定初期化 6)	すべての設定を初期状態に戻します。	○	○	○	○

　　:カメラの電源を切っても解除されません。
1)カメラの電源を入れたときに、ストロボ側の設定が反映されます。
2)発光モードが［オート］のときに設定できます。
3)発光モードが［マニュアル］のときに設定できます。
4)スピードライト 430EX II は 1/64 となります。
5)カメラ側では［入］/［切］のみ設定できます。その後の設定は、ストロボ側で設定します。また、スピードライト 430EX II では設定できません。
6)［スローシンクロ］、［セーフティ FE］、［赤目自動補正］、［赤目緩和ランプ］は、カメラの［ ］メニューの［初期設定］でも初期状態に戻ります（p.213）。

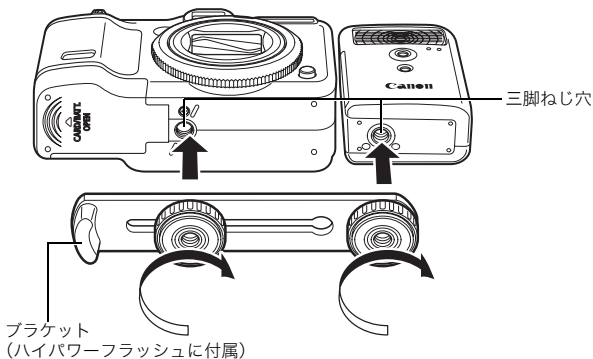
- 外付けストロボの電源が入っていないと、［ストロボ制御］は選択できません。外付けストロボの設定をするときは、外付けストロボの電源を入れてから行ってください。
- 外付けストロボを取り付けているときは、内蔵ストロボの設定はできません。
- カメラ側で調光補正を行う場合は、ストロボ側の調光補正を［＋0］に設定してください。
- ストロボ側でマルチ発光に設定されている場合は、ストロボの設定メニューは選択できません（580EX II のみ）。
- ［ワイヤレス機能］を［入］に設定しているときは、［シンクロ設定］を［後幕］に設定することはできません。カメラ側で［後幕］に設定していても、［先幕］に変更されます。
- 連続撮影時、ストロボがクイック発光（パイロットランプが緑色点灯）の状態でも撮影できます。なお、フル発光（パイロットランプが赤色点灯）時に比べ、ストロボの発光量が少なくなることがあります。
- ストロボ発光時は、フォーカスブラケット撮影およびAEB撮影はできません。ストロボを発光して撮影した場合は、通常の1画像撮影になります。
- 他社のストロボ（特に高圧タイプのストロボ）やストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。

- スピードライト 220EX、430EX II、580EX II で使用できる機能は、次のとおりです＊。
  - 自動調光（430EX II/580EX II は、E-TTL モードでお使いください。）
  - FE ロック機能（**M**または［ストロボ発光モード］が［マニュアル］では使用できません。）
  - シンクロ設定（先幕 / 後幕）（430EX II をお使いの場合、ストロボ側の後幕設定が優先されます。）
  - スローシンクロ機能
  - ストロボ調光補正
  - オートズーム機能（220EX には搭載されていません。）
  - マニュアル発光
  - ハイスピードシンクロ

＊380EX、420EX、430EX、550EX、580EX も同様にお使いになれます。

補助ストロボ(別売)の使いかた

ハイパワーフラッシュ HF-DC1

被写体が遠すぎて内蔵ストロボの光が届かないときに使用する外付け用補助ストロボです。次のようにカメラとハイパワーフラッシュをブラケットで固定して撮影してください。
ハイパワーフラッシュに付属の使用説明書も併せてご覧ください。

- 以下の場合、ハイパワーフラッシュは発光しません。
  - 撮影モードが**M**のとき
  - ［シンクロ設定］が［後幕］のとき
  - ［発光モード］が［マニュアル］のとき（p.105）
- 電池が消耗するとハイパワーフラッシュの充電時間が長くなります。使用後はハイパワーフラッシュの電源 / 発光モードスイッチを必ず切ってください。
- 撮影中は、発光部や受光部を指でふさがないように注意してください。
- 撮影場所の周囲で他のカメラがストロボを使用していると、ハイパワーフラッシュが発光することがあります。
- 日中の野外や反射物がないときは、ハイパワーフラッシュが発光しないことがあります。

- 連続して撮影するときは、1画像目の撮影時は発光しますが、2画像目以降は発光しません。
- ブラケットの取り付けねじは、しっかり締め付けてください。カメラとハイパワーフラッシュが落下して故障の原因となります。

- ハイパワーフラッシュをブラケットに固定する前にリチウム電池（CR123A または DL123）が入れてあるか確認してください。
- 被写体に正しくストロボが当たるように、カメラとハイパワーフラッシュの前面は平行になるように固定してください。
- ハイパワーフラッシュを取り付けた状態でも三脚はお使いになれます。

電池について

● 電池の使用可能時間が著しく短いとき

電池の電極を乾いた布などでよく拭いてからお使いください。電極が皮脂などで汚れていることがあります。

● 寒冷地でお使いになるとき

予備として市販のリチウム電池（CR123A または DL123）を用意してください。使用直前までポケットなどに入れて温めてから交互にお使いになることをおすすめします。

● お使いにならないとき

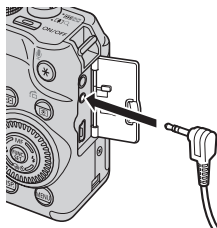
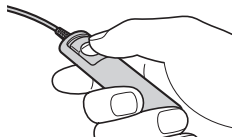
電池をハイパワーフラッシュに入れたままにしておくと、液漏れが原因で故障することがあります。ハイパワーフラッシュから取り出して乾燥した冷暗所に保管してください。

リモートスイッチ(別売)の使いかた

別売のリモートスイッチ RS60-E3 を使うと、シャッターボタンを押すときに発生するカメラブレを防ぐことができます。シャッタースピードが遅くなるときにお使いになると便利です。
なお、カメラは動かないように、三脚などで固定してください。
また、リモートスイッチに付属の使用説明書も併せてご覧ください。

1 電源が切れていることを確認する

2 リモートスイッチを接続する

1. 端子カバーを開く
2. リモートスイッチのプラグを差し込む

3 リモートスイッチのレリーズボタンを押して撮影する

このカメラではバルブ撮影はできません。

海外で使うとき

電源について

海外でもお使いになれます。

バッテリーチャージャーや AC アダプターキットは、AC100 ～ 240V 50/60Hz までの電源に接続できます。ただし、電源コンセントの形状が異なる国では、変換プラグアダプターが必要になります（1 つの国の中でも地域によってコンセントの形状が異なる場合があります）。
変換プラグアダプターやコンセントの形状については、旅行代理店などで確認の上、あらかじめご用意ください。

コンパクトパワーアダプターやバッテリーチャージャーを海外旅行用の電子変圧器などに接続すると、故障、発熱、火災、感電、けがの原因となることがありますので、接続しないでください。

テレビでの再生

ビデオ出力方式は、初期設定では日本国内で採用している NTSC 方式に設定されていますが、海外の別方式（PAL 方式：主にヨーロッパ、オセアニア、アジア（一部地域を除く））に切り換えることができます。海外に旅行したときなどは、切り換えてお使いください（p.58）。

世界時計を設定する（p.204）

カメラのお手入れ

絶対にシンナーやベンジン、中性洗剤や水などを使ってクリーニングしないでください。部品の変形や故障の原因になることがあります。

カメラ本体

やわらかい布やメガネ拭きなどで汚れを拭き取ってください。

レンズ

市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払った後、やわらかい布で軽く拭き取ってください。

カメラ本体やレンズは、絶対に有機溶剤を含むクリーナーなどで拭かないでください。どうしても汚れが落ちないときは、最寄りの修理受付窓口（別紙でご確認ください）にご相談ください。

ファインダー、液晶モニター

市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払ってください。汚れがひどいときは、やわらかい布やメガネ拭きなどで軽くこすって汚れを落としてください。

絶対に液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因となります。

主な仕様

すべてのデータは、当社測定条件によります。都合により製品の仕様、および外観の一部を予告なしに変更することがあります。

PowerShot G10

(W):ワイド端　(T):テレ端

カメラ部有効画素数	：約 1,470 万画素
撮像素子	：1/1.7 型 CCD（総画素数 約 1500 万画素）
レンズ	：6.1（W）－ 30.5（T）mm (35mm フィルム換算 28（W）－ 140（T）mm) F2.8（W）－ F4.5（T）
デジタルズーム	：約 4.0 倍（光学ズームと合わせて最大約 20 倍）
光学ファインダー	：実像式ズームファインダー 視野率：約 77%（代表値） アイポイント：15mm 視度調節：－3.0 ～＋1.0m^{-1}（dpt）
液晶モニター	：3.0 型 TFT カラー（クリアライブ液晶 II ・広視野角タイプ）約 46.1 万ドット、視野率 100%
AF 方式	：TTL オートフォーカス（コンティニアス / シングル） AF ロックおよびマニュアルフォーカス可能 AF フレーム：顔優先＊1＊2/AiAF（9 点）＊3/中央 / アクティブフレーム＊3 ＊1 特定の顔に移動・固定可能 ＊2 顔が検出されない場合は AiAF（9 点）になる ＊3 AF フレームの大きさを選択可能
撮影距離 （レンズ先端より）	：通常撮影：50cm ～∞ マクロ撮影：1 ～ 50cm（W）/30 ～ 50cm（T） マニュアルフォーカス撮影：1cm ～∞（W）/ 30cm ～∞（T） スポーツモード：1m ～∞（W）/2m ～∞（T） キッズ & ペット：1m ～∞
シャッター	：メカニカルシャッター ・電子シャッター併用

シャッタースピード	：1/60 ～ 1/4000 秒 15 ～ 1/4000 秒（すべての撮影モードを合わせたシャッタースピード範囲） ・シャッタースピードが1.3秒以上のスローシャッター時はノイズリダクション処理あり
手ブレ補正	：レンズシフト式 入 / 撮影時* / 流し撮り* / 切 ＊静止画のみ
測光方式	：評価* / 中央部重点平均 / スポット** ＊顔優先 AF 時は顔の明るさを考慮 ＊＊中央固定 /AF 枠連動
露出補正	：± 2 段（1/3 段ステップ）
ISO 感度 (標準出力感度・推奨露光指数)	：オート*、高感度オート*、ISO 80/100/200/400/800/1600 ＊オート、高感度オート設定時は、カメラが最適値に自動設定
ND フィルター(内蔵)	：減光 3 段分（光量を 1/8 に減少）
ホワイトバランス	：オート* / 太陽光 / くもり / 電球 / 蛍光灯 / 蛍光灯 H / ストロボ / 水中 / マニュアル 1/ マニュアル 2 ＊ 顔優先 AF 時は顔の色味を考慮
内蔵ストロボ	：オート / 常時発光 / 発光禁止 ストロボ調光補正 ± 2 段（1/3 段ステップ）/ 赤目自動補正 / 赤目緩和 / 発光量（3 段階）/FE ロック / スローシンクロ / 後幕シンクロ / セーフティ FE 設定可能 ・顔優先 AF 時は顔の明るさを考慮
内蔵ストロボ 調光範囲	：30cm ～ 4.6m（W）/50cm ～ 2.8m（T） ・撮影距離によっては、画像周辺の明るさが低下することがある。
外付けストロボ	：ストロボ調光補正± 3 段（1/3 段ステップ）/ 赤目自動補正 / 赤目緩和 / 発光量（19 段階*）/ FE ロック / スローシンクロ / 後幕シンクロ / ハイスピードシンクロ / セーフティ FE/ ワイヤレス機能（入 / 切）設定可能 ＊580EX II の場合は 22 段階

外付けストロボ接点	：アクセサリーシュー部シンクロ接点 （以下のストロボの使用を推奨） キヤノン スピードライト 220EX/430EX II/ 580EX II/ マクロリングライト MR-14EX/ マクロツインライト MT-24EX
撮影モード	：オート クリエイティブゾーン： **P** プログラム、**Tv** シャッタースピード優先、**Av** 絞り優先、**M** マニュアル、**C1** カスタム 1、**C2** カスタム 2 イメージゾーン： スペシャルシーン＊、スティッチアシスト、動画＊＊ ＊ ポートレート、風景、夜景、スポーツ、ナイトスナップ、キッズ＆ペット、パーティー / 室内、夕焼け、新緑 / 紅葉、スノー、ビーチ、打上げ花火、水族館、水中、ISO 3200、ワンポイントカラー、スイッチカラー ＊＊ スタンダード、ワンポイントカラー、スイッチカラー
連続撮影	：約 1.3 画像 / 秒 約 0.7 画像 / 秒（AF 連続撮影） 約 0.7 画像 / 秒（LV 連続撮影） ・ストロボが自動発光しない明るさにおいて。
セルフタイマー	：10 秒 /2 秒 / カスタム / 顔セルフタイマー
リモート撮影（PC）	：パソコン接続時、付属のソフトウェアで撮影可能。
リモートスイッチ	：接続可能（RS60-E3）
記録媒体	：SD メモリーカード /SDHC メモリーカード / マルチメディアカード /MMCplus カード / HC MMCplus カード
ファイルフォーマット	：DCF 準拠＊、DPOF 対応 ＊DCF は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で、主として DSC 等の画像ファイル等を、関連機器間で簡便に利用しあえる環境を整えることを目的に標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

データタイプ	：静止画：Exif 2.2（JPEG）* /RAW（CR2）** ：動画：MOV（画像：H.264、音声：リニア PCM（モノラル）） ：音声メモ、サウンドレコーダー：WAVE（モノラル） * このデジタルカメラは、Exif 2.2（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Print は、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print 対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいな印刷結果を得ることができます。 ** 現像には Digital Photo Professional を使用
圧縮率	：スーパーファイン / ファイン / ノーマル
記録画素数（静止画）	：ラージ　：　4416 × 3312 画素 ミドル 1：　3456 × 2592 画素 ミドル 2：　2592 × 1944 画素 ミドル 3：　1600 × 1200 画素 スモール：　640 × 480 画素 ワイド　：　4416 × 2480 画素 RAW　：　4416 × 3312 画素
（動画）	：スタンダード、ワンポイントカラー、スイッチカラー ：640 × 480 画素（30 フレーム / 秒） ：320 × 240 画素（30 フレーム / 秒） カードの容量がいっぱいになるまで撮影可能 （1 回の最大記録容量：4GB *） * 記録容量が 4GB に達していなくても、撮影時間が 1 時間に達した時点で記録を停止します。カードの容量、データ書き込み速度により、4GB または 1 時間に満たなくても記録を停止する場合があります。
音声	：量子化ビット：16 ビット サンプリングレート 音声メモ：11.025kHz 動画：44.100kHz サウンドレコーダー：11.025kHz/22.050kHz/44.100kHz

再生モード	：シングル再生（ヒストグラム表示可能）/ インデックス再生（9 画像表示）/ 拡大再生（約 2 ～ 10 倍）/ 再生レジューム / フォーカスチェッカー / ジャンプ / マイカテゴリー / トリミング / 動画再生（スロー再生 / 編集可能）/ 回転 / スライドショー / 赤目補正 / 暗部補正 / レタッチマイカラー / リサイズ / 音声メモ（最長 1 分まで記録 / 再生が可能）/ サウンドレコーダー（最長 2 時間まで記録 / 再生が可能）/ プロテクト
ダイレクトプリント方式	：PictBridge / CP ダイレクト / Bubble Jet ダイレクト対応
マイカメラ（カスタマイズ）機能	：起動画面 / 起動音 / 操作音 / セルフタイマー音 / シャッター音
インターフェース	：Hi-Speed USB（mini-B） 映像 / 音声出力端子（NTSC または PAL 切換可能、モノラル音声）
通信プロトコル設定	：MTP、PTP
電源	：バッテリーパック NB-7L（専用リチウムイオン充電池） AC アダプターキット ACK-DC50
動作温度	：0 ～ 40 ℃
動作湿度	：10 ～ 90%
大きさ（突起部を除く）	：109.1 × 77.7 × 45.9mm
質量（本体のみ）	：約 350g

バッテリー性能（バッテリーパック NB-7L（フル充電）

撮影画像数		再生時間
液晶モニター表示時 （CIPA 測定法準拠）	液晶モニター非表示時	
約 400 画像	約 1000 画像	約 10 時間

- 撮影画像数は、撮影状況、撮影モードなどにより異なります。
- 動画データは除きます。
- 使用環境温度が下がると、バッテリーの性能が低下したり、バッテリーアイコンが早めに表示されることがあります。このような場合は、使用直前までポケットなどに入れて温めてから使用すると、バッテリーの性能が回復することがあります。

＜測定条件＞

撮影：常温（23 ± 2 ℃）・常湿（50 ± 20%）で、2回に1回ストロボを発光させながら、30 秒間隔でワイド端とテレ端で交互に撮影し、10 画像撮影後に電源切。十分な時間＊が経過した後、再び電源を入れて同様の方法で撮影を繰り返す。

＊バッテリーの温度が常温に戻るまでの時間

再生：常温（23 ± 2 ℃）・常湿（50 ± 20%）の環境において、1 画像あたり 3 秒間隔で連続再生。

バッテリーの取り扱い（p.239）

カードの種類と記録可能画像数/時間(目安)、1画面の容量(目安)

静止画

記録画素数	圧縮率	容量(KB)	2GB	8GB
L (ラージ) 4416 × 3312 画素	S	6348	306	1227
	F	3759	516	2063
	N	1797	1059	4234
M1 (ミドル 1) 3456 × 2592 画素	S	3888	499	1996
	F	2302	841	3364
	N	1100	1707	6822
M2 (ミドル 2) 2592 × 1944 画素	S	2503	767	3069
	F	1395	1365	5457
	N	695	2672	10679
M3 (ミドル 3) 1600 × 1200 画素	S	1002	1862	7442
	F	558	3235	12927
	N	278	6146	24562
S (スモール) 640 × 480 画素	S	249	6830	27291
	F	150	10245	40937
	N	84	15368	61406
W (ワイド) 4416 × 2480 画素	S	4753	409	1637
	F	2814	690	2759
	N	1345	1396	5581
RAW (ロウ) 4416 × 3312 画素	ー	18793	94	378
RAW + L 4416 × 3312 画素	ー	22552	79	318

当社測定条件によるもので、使用するカードの銘柄、被写体、撮影条件等により変わります。

動画（ (スタンダード)、 (ワンポイントカラー)、 (スイッチカラー)）

記録画素数 / フレームレート		容量（KB）	2GB	8GB
640	640 × 480 画素 30 フレーム / 秒	1316	23 分 49 秒	1 時間 35 分 11 秒
320	320 × 240 画素 30 フレーム / 秒	394	1 時間 13 分 10 秒	4 時間 52 分 24 秒

・表中の数値は、繰り返し撮影した場合の最大記録可能時間です。
・カードによっては、最長撮影時間に満たなくても、撮影が終了することがあります。SD スピードクラス 4 以上のカードのご使用をおすすめします。

サウンドレコーダーの音声サイズと記録時間（目安）

	音声サイズ	2GB	8GB
11.025kHz	22KB/ 秒	25 時間 22 分 35 秒	101 時間 23 分 47 秒
22.050kHz	44KB/ 秒	12 時間 41 分 18 秒	50 時間 41 分 53 秒
44.100kHz	88KB/ 秒	6 時間 20 分 39 秒	25 時間 20 分 57 秒

バッテリーパック NB-7L

形式	リチウムイオン充電池
公称電圧	DC 7.4V
公称容量	1050mAh
充放電回数	約 300 回
使用温度	0 ～ 40 ℃
大きさ	32.5 × 45.4 × 17.7mm
質量	約 47g

バッテリーチャージャー CB-2LZ

定格入力	AC100 ～ 240V（50/60Hz） 0.14A（100V）～ 0.08A（240V）、 14VA（100V）～ 19.2VA（240V）
定格出力	DC 8.4V、0.70A
充電時間	約 2 時間 20 分（NB-7L 充電時）
使用温度	0 ～ 40 ℃
大きさ	92.5 × 27.0 × 62.0mm
質量	約 92 g

コンパクトパワーアダプター CA-PS700

（別売の AC アダプターキット ACK-DC50 に付属）

定格入力	AC100 ～ 240V（50/60Hz）
定格出力	DC7.4V、2.0A
使用温度	0 ～ 40 ℃
大きさ	112.0 × 29.0 × 45.0mm（本体のみ）
質量	約 185g（電源コードを除く）

テレコンバーター TC-DC58D（別売）

倍率	1.4 倍
焦点距離＊1	196mm 相当（35mm フィルム換算）
撮影距離＊1	55cm ～∞（T）＊2
ねじ径	58mm 標準フィルターねじ＊3
最大径×長さ	69.0 × 41.2mm
質量	約 140g

コンバージョンレンズアダプター LA-DC58K（別売）

ねじ径	58mm　標準フィルターねじ
最大径×長さ	63.8 × 51.6mm
質量	約 30g

（T）：テレ端

＊1 PowerShot G10 装着時（テレ端）
＊2 装着したコンバーターの先端より
＊3 PowerShot G10に装着時は、コンバージョンレンズアダプター LA-DC58Kが必要

ブラケット BKT-DC1（別売）

大きさ	220.0 × 32.0 × 19.0mm
質量	約 90g

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。
- 詳細は、有限責任中間法人 JBRC のホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

索引

数字 / アルファベット

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

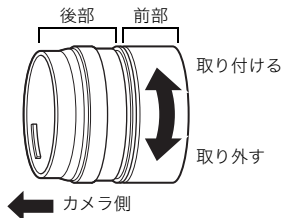
ワ行

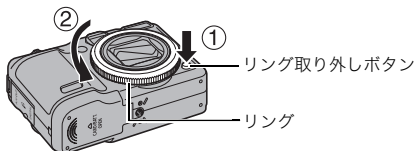
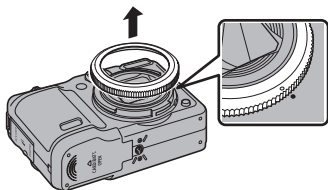
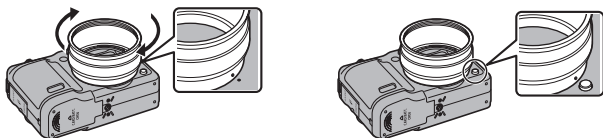
追補

外付けストロボを取り付ける(マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX のとき)

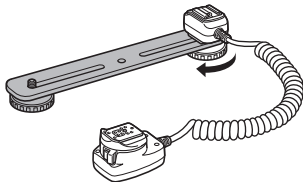
マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX を取り付ける場合は、別売のコンバージョンレンズアダプター LA-DC58K、オフカメラシューコード OC-E3 とブラケット BKT-DC1 が必要です。お使いのストロボとオフカメラシューコードの取扱説明書も併せてご覧ください。

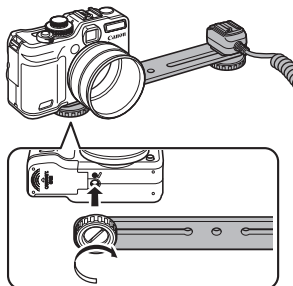
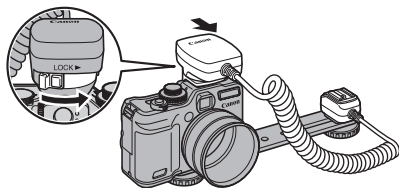
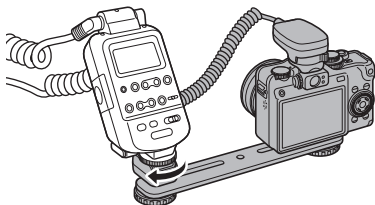
1 コンバージョンレンズアダプターの後部と前部を取り外す

・LA-DC58K は、後部、前部の 2 つに分けることができます。通常は合体したまま使用しますが、マクロリングライト MR-14EX やマクロツインライト MT-24EX を取り付ける場合は、後部のみカメラに装着します。

2 カメラの電源が切れていることを確認する

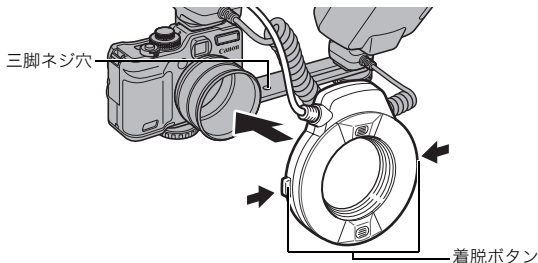
3 リング取り外しボタンを押しながら(①)、リングを矢印の方向に回す(②)

4 リングの○とカメラの●が合ったら、リングを上に引き上げて外す

5 コンバージョンレンズアダプターの後部の●をカメラの●に合わせてから、ロックするまで矢印の方向に回して取り付ける

・コンバージョンレンズアダプターを取り外すときは、リング取り外しボタンを押しながら、反対方向に回します。

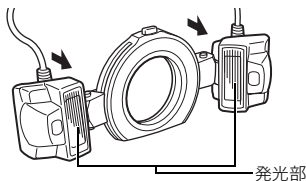
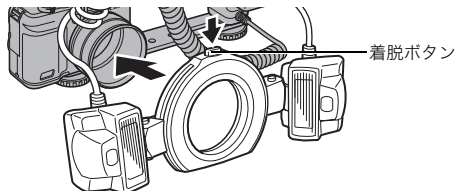
6 オフカメラシューコードをブラケットに取り付ける

・長穴の一番端の位置で、オフカメラシューコードの三脚ネジ穴にブラケットを合わせ、取り付けネジを締めて固定します。コードとブラケットは図の向きに取り付けます。

7 カメラをブラケットに取り付ける

・長穴の一番端の位置で、カメラ底面の三脚ネジ穴にブラケットを合わせ、取り付けネジを締めて固定します。カメラとブラケットは図の向きに取り付けます。

8 カメラ上部のアクセサリーシューにオフカメラシューコードのカメラ接続部を取り付ける

9 オフカメラシューコードのストロボ接続部に、マクロリングライトまたはマクロツインライトの制御部を取り付ける

10 マクロリングライトまたはマクロツインライトをコンバージョンレンズアダプターに取り付ける

マクロリングライト MR-14EX を取り付けるとき

・発光部の両側にある着脱ボタンを押しながら、コンバージョンレンズアプターに取り付けます。

マクロツインライト MT-24EX を取り付けるとき

・発光部を取り付け台座に取り付けます。

・取り付けリング上部にある着脱ボタンを押しながら、取り付けリングを、コンバージョンレンズアダプターに取り付けます。

・三脚に固定して撮影することもできます。なお、発光部が三脚やブラケットに当たるときは、カメラの向きを調整してください。

11 モードダイヤルを、撮影したいモードに合わせる

・ストロボ同調最高シャッタースピードは 1/250 秒です。
・[発光モード] が [オート] のとき自動調光で発光します。
・自動調光時は調光補正量を、マニュアル発光時は発光量を調節できます(p.105)。
・カメラ側とストロボ側(E-TTL モード時)の両方で調光補正を行った場合は、ストロボ側の設定が優先され、カメラ側の設定は機能しません。
・撮影モードが**M**、またはストロボの [発光モード] が [マニュアル] のときは、カメラのストロボ発光量調整画面で(p.105)、外付けストロボの発光量を調節できます。絞り数値と ISO 感度は、お使いのストロボの取扱説明書に記載されているガイドナンバーを参考に、被写体との距離から最適値を設定してください。ストロボ側とカメラ側の両方で調節できます(ストロボ側の設定が優先されます)。ストロボ側で調節するときは、ストロボをマニュアル発光モードにしてください。また、E-TTL 自動調光モードでも、調光補正値を変更すると発光量を変更できます。

12 ボタンを押して ←/→ でマクロモードにし、[ND フィルター]を[入]にする

・マクロモードの設定(p.69)
・ND フィルターの設定(p.130)

13 外付けストロボを設定する(p.252)

・設定できる項目は、スピードライト 220EX と同じです。

マクロリングライトまたはマクロツインライトのコードやオフカメラシューコードが、マクロリングライトまたはマクロツインライトの発光部にかからないよう、注意してください。

- マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX は、カメラの撮影モードを**P**、**Av**、**Tv**にするだけで、E-TTL 自動調光ストロボ撮影を行うことができます。本格的なマクロストロボ撮影を行うときは、**Av** または**M**で、絞りを絞って撮影してください。
- マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX で使用できる機能は、次のとおりです。
  - E-TTL 自動調光機能
  - FE ロック機能
  - シンクロ設定（先幕 / 後幕）（ストロボ側の後幕設定が優先されます）
  - スローシンクロ
  - 調光補正
- カメラ側とマクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX 側の両方で調光補正を行った場合は、ストロボ側（E-TTL モード時）の設定が優先され、カメラ側の設定は機能しません。

補修用性能部品について
保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後7年間です。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス　B　情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。カメラユーザーガイド（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

・DCF は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
・DCF ロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File system」の規格を表す団体商標です。
・SDHC ロゴは商標です。

MPEG-4 使用許諾について

“This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video.
No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.”
＊規定により英語で表記しています。

各撮影モードで設定できる機能一覧

撮影モードによっては、お使いになれない機能があります。以下の表でご確認ください。

機能 ＼ 撮影モード		C1	C2	M	Av	Tv	P	AUTO
露出補正(p.127)		□	□	–	○	○	○	–
ISO感度(p.80)	オート[1]	□	□	–	○	○	○	○
	高感度オート	□	□	–	–	–	○	○
	ISO 80〜1600	□	□	○	○	○	○	–
ホワイトバランス(p.133)	オート[1]	□	□	○	○	○	○	○
	ストロボ	□	□	○	○	○	○	–
	オート、ストロボ 以外	□	□	○	○	○	○	–
ドライブモード(p.103、70)	1枚撮影	□	□	○	○	○	○	○
	連続撮影	□	□	○	○	○	○	–
	AF連続撮影[3]	□	□	○	○	○	○	–
	顔セルフタイマー	□	□	○	○	○	○	○
	セルフタイマー	□	□	○	○	○	○	○
マイカラー(p.136)		□	□	○	○	○	○	–
ブラケット(p.123、129)	AE	□	□	–	○	○	○	–
	フォーカス	□	□	○	○	○	○	–
ストロボ調光補正(p.105)		□	□	–	○	○	○	–
ストロボ発光量設定(内蔵)(p.105)		□	□	○	○	○	–	–
ストロボ発光量設定(外付け)(p.252)		□	□	○	○	○	○	–
測光方式(p.131)	評価	□	□	○	○	○	○	○
	中央部重点平均	□	□	○	○	○	○	–
	スポット	□	□	○	○	○	○	–
NDフィルター (入)(p.130)		□	□	○	○	○	○	–
記録画素数選択(静止画)(p.74)	L/M1/M2/M3/S/W	□	□	○	○	○	○	○
	RAW	□	□	○	○	○	○	–
圧縮率選択(静止画)(p.75)		□	□	○	○	○	○	○
記録画素数・フレームレート選択(動画)(p.99)	640 × 480、30fps	–	–	–	–	–	–	–
	320 × 240、30fps	–	–	–	–	–	–	–
Av/Tv設定(p.91、89)		□	□	○	○[6]	○[7]	–	–
プログラムシフト(p.125)		□	□	–	○	○	○	–
AE/FEロック(静止画)(p.124、126)		□	□	–	○	○	○	–
マニュアルモード時の適正露出設定(p.92)		□	□	○	–	–	–	–
AEロック・露出シフト(動画)(p.98)		–	–	–	–	–	–	–
撮影域(p.69)	通常	□	□	○	○	○	○	○
	マクロ	□	□	○	○	○	○	○
マニュアルフォーカス(p.121)		□	□	○	○	○	○	–

SCN																		
														ISO 3200	A S			A S
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	○	−	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○[2]	○	○	○	○
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	○	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	−	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	○	−	−	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	○	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○[4]	○	○[5]	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	○
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	○
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	−	−	○	−	○	○	−	○	○	○	−	○	○	○	○	○	○	○
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	○	○	−	○	○

機能 ＼ 撮影モード			C1	C2	M	Av	Tv	P	AUTO
AFフレームサイズ(p.115)	標準		□	□	○	○	○	○	○
	小		□	□	○	○	○	○	－
顔セレクト(p.116)	切		□	□	○	○	○	○	○
	入		□	□	○	○	○	○	○
ストロボ(p.68)	オート		□	□	－	－	－	○	○
	常時発光		□	□	○	○	○	○	－
	発光禁止		□	□	○	○	○	○	○
	外部		□	□	○	○	○	○	○
液晶モニターの表示状態(p.60)	切		□	□	○	○	○	○	○
	情報表示なし		□	□	○	○	○	○	○
	情報表示あり		□	□	○	○	○	○	○
スティッチ方向選択（上下/左右/2×2)(p.94)			－	－	－	－	－	－	－
AFフレーム(p.112)	顔優先		□	□	○	○	○	○	○
	AiAF(9点)		□	□	○	○	○	○	○
	中央		－	－	－	－	－	－	○
	アクティブ		□	□	○	○	○	○	－
ピント位置拡大(p.108)			□	□	○	○	○	○	○
サーボAF(p.118)			□	□	○	○	○	○	○
AFモード[8](p.111)	コンティニュアス(CONT)		□	□	○	○	○	○	○
	シングル(SINGLE)		□	□	○	○	○	○	○
デジタルズーム[9](p.65)	入		□	□	○	○	○	○	○
	デジタルテレコン		□	□	○	○	○	○	○
ストロボ制御(内蔵)(p.105)	発光モード	オート	□	□	－	○	○	○	○
		マニュアル	□	□	○	○	○	－	－
	赤目自動補正		□	□	○	○	○	○	○
	赤目緩和ランプ		□	□	○	○	○	○	○
	調光補正		□	□	－	○	○	○	－
	発光量		□	□	○	○	○	－	－
	シンクロ設定(先幕/後幕)		□	□	○	○	○	○	－
	スローシンクロ		□	□	○[10]	○	○[10]	○	－
	セーフティFE		□	□	－	○	○	○	－
暗部補正(p.128)			□	□	○	○	○	○	○
ドライブ設定(p.70)	顔セルフタイマー		□	□	○	○	○	○	○
	セルフタイマー		□	□	○	○	○	○	○
	カスタムセルフタイマー		□	□	○	○	○	○	○
スポット測光枠(p.132)	中央固定		□	□	○	○	○	○	－
	AFフレーム(枠)連動		□	□	○	○	○	○	－
セーフティシフト(p.90)			□	□	－	○	○	－	－
ISOブースター(p.81)			□	□	－	○	－	○	○
MF拡大表示(p.121)			□	□	○	○	○	○	－
セーフティMF(p.122)			□	□	○	○	○	○	－

SCN																		
														ISO 3200	A / S			A / S
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	○	○	−	○	○
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	○	○	−	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	○	−	○	−	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	−	○	○	−	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	−	○	−	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	−	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	○	○	−	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	○	○	−	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	○	○	○	−	−
○	○	○	○	−	○	○	○	○	○	○	−	○	○	○	○	○	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	−	○	−
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	−	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	−	○	○	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	−	−	−	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	−	○	○	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	○[10]	−	○[10]	−	−	○[10]	○[10]	−	−	−	−	−	−	−	−	○	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	○	−	−	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	○	○	−	−	−
○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○	○	○	−	○	○

機能 ＼ 撮影モード		C1	C2	M	Av	Tv	P	AUTO
AF補助光(p.55)		□	□	○	○	○	○	○
撮影の確認(レックレビュー)(p.55)		□	□	○	○	○	○	○
レビュー情報(p.55)	非表示	□	□	○	○	○	○	○
	詳細表示/ピント確認	□	□	○	○	○	○	○
オリジナル保存(p.142)		−	−	−	−	−	−	−
自動カテゴリー(p.143)		□	□	○	○	○	○	○
手ブレ補正(p.78)	入	□	□	○	○	○	○	○
	撮影時/流し撮り	□	□	○	○	○	○	○
コンバータ(p.247)		□	□	○	○	○	○	○
RAW＋L・ファイン(JPEG)記録(p.77)		□	□	○	○	○	○	−
情報表示設定(p.62)	撮影情報	□	□	○	○	○	○	○
	グリッドライン	□	□	○	○	○	○	○
	3:2ガイド	□	□	○	○	○	○	○
	ヒストグラム	□	□	○	○	○	○	△
ショートカット登録(p.144)		□	□	○	○	○	○	○
カスタム登録(登録先C1/C2)(p.101)		○	○	○	○	○	○	−

○ :選択可、またはカメラが自動的に設定。ただし、スティッチアシストでは原則として1枚目のみ選択可。

□ :設定可(設定可能な内容は、カスタム登録されている撮影モードに従う)。

△ :選択のみ可。

− :選択不可。

1） 撮影モードに応じた最適値に設定
2） ISO 3200固定
3） マニュアルフォーカス時（該当撮影モード）および打上げ花火はLV連続撮影になる
4） M3（1600 × 1200）に固定
5） W は設定不可
6） Av のみ設定可
7） Tv のみ設定可
8） AiAF（9点）選択時はシングルに固定
9） RAW、W時は設定不可
10）常時入
11）ストロボ常時発光時に設定可

SCN																	
														ISO 3200	A S			A S
○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○[11]	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

Canon

キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター

050-555-90005

受付時間：平日 9:00〜20:00
土・日・祝日 10:00〜17:00
（1月1日〜1月3日は休ませていただきます）

※ 海外からご利用の方、または 050 からはじまる IP 電話番号をご利用いただけない方は043-211-9630をご利用ください。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

カメラ修理受付センター

050-555-99077

受付時間：平日・土曜日9:00〜18:00
（日曜、祝日と年末年始弊社休業日は休ませていただきます）

キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

最新の情報が掲載されておりますので、ぜひご覧ください。

キヤノンデジタルカメラ製品情報
http://canon.jp/cdc

キヤノンサポートページ
http://canon.jp/support

CANON iMAGE GATEWAY
http://www.imagegateway.net

Li-ion

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CDI-J396-020 XXXXXXXX PRINTED IN JAPAN